

**高齢者への特殊詐欺被害予防に向けた
効果的な施策の分析
共同研究報告書**

令和7（2025）年3月

**港区政策創造研究所
三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社**

目 次

第1章 はじめに	1
1. 本調査研究について	1
2. 調査研究の概要	1
(1) アンケート調査	1
(2) 研究会の設置	1
第2章 特殊詐欺の実態把握アンケート調査	2
1. 調査主旨	2
(1) 調査目的	2
(2) 調査項目	2
2. 調査概要	2
(1) 調査概要	2
(2) 回答者の属性	3
3. 調査結果	11
(1) 特殊詐欺被害や不審な電話等に関する経験について	11
(2) 特殊詐欺に対する考え方や相談先について	20
(3) 普段の生活状況について	27
(4) 特殊詐欺への対策について	44
4. アンケート調査結果のまとめ	58
第3章 特殊詐欺被害リスク回避行動等の特徴分析	59
1. 相談行動の促進に向けた分析	59
(1) 相談行動により被害を回避した回答者の属性	59
(2) 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う回答者の属性.....	66
(3) 考察	73
2. 注意喚起行動の促進に向けた分析	74
(1) 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う回答者の属性...	74
(2) 考察	81

第1章 はじめに

1. 本調査研究について

特殊詐欺による被害は大きな社会課題となっており、今後高齢化の更なる進行に伴い、被害リスクの上昇が懸念される。東京都内でも多くの被害が生じており、令和5年中の特殊詐欺被害認知件数は2,918件、被害総額は81.5億円であり、被害1件当たりの平均被害額は約280万円であった。港区における令和5年中の被害件数は40件、被害総額は約4億7千万円、被害1件あたりでは約1,175万円となっており、港区は東京都全体の被害と比べて1件あたりの被害額が非常に大きい特徴があり、特殊詐欺被害予防に向けた区民に対する効果的な施策の方向性の検討に向けては、港区の実態に応じた対策が重要と考えられる。

そこで、港区政策創造研究所及び三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる共同研究として、区内の特殊詐欺被害及び前兆の実態や、区が実施する特殊詐欺被害防止事業の認知度、参画状況等について、区内在住の65歳以上へのアンケート調査により把握・分析する。

2. 調査研究の概要

(1) アンケート調査

令和6年7月～8月に、区内在住の65歳以上2,500名に対して、特殊詐欺を見聞きした経験や特殊詐欺に対する考え方、不審な電話等を受けた際の行動、不審な電話を受けた際の相談先の想定、特殊詐欺への対策等について、アンケート調査を行った。

(2) 研究会の設置

本調査研究の有効性を高めるため、学識者等による研究会「港区における特殊詐欺被害実態の把握に係る調査研究会」を設置した。研究会は令和6年6月11日、令和6年12月19日の2回開催した。

図表 1-1 研究会の体制

●学識者		
筑波大学システム情報系社会工学域 准教授		雨宮 護 氏
上智大学基盤教育センター 特任教員（助教）		讃井 知 氏
科学警察研究所 犯罪予防研究室長		島田 貴仁 氏
科学警察研究所 犯罪予防研究室 主任研究官		齊藤 知範 氏
●事務局		
港区政策創造研究所	所長	大塚 敬
	研究員（係長）	大森 崇広
	研究員（主任）	小島 亜依莉
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	自治体経営改革室 副室長	土方 孝将
	自治体経営改革室 研究員	片平 春樹

※所属・役職は研究会開催時点

第2章 特殊詐欺の実態把握アンケート調査

1. 調査主旨

(1) 調査目的

港区における特殊詐欺被害金額の増加を鑑み、区民への不審な電話の実態や特殊詐欺対策の実態を把握し、今後の区政運営に生かすためアンケート調査を実施した。

(2) 調査項目

アンケート調査項目は次のとおり。

- 特殊詐欺を見聞きした経験
 - －不審な電話等を受けた経験／特殊詐欺被害の経験／身近な人の被害経験 等
- 特殊詐欺に対する考え方
 - －不審な電話等を受けた際の行動／不審な電話を受けた際の相談先の想定 等
- 普段の生活状況
 - －健康状態・日常生活での活動／地域活動への参画 等
- 特殊詐欺への対策
 - －迷惑電話防止機能の利用／区の事業の活用状況 等

2. 調査概要

(1) 調査概要

調査結果は次のとおり。

調査実施：令和6年7月～8月

調査方法：調査票を郵送配布、回答は郵送返送又はオンラインでの回答

調査対象：区内在住の65歳以上高齢者 2,500名

※65歳以上高齢者を5歳階級年齢構成比におおむね一致するよう層化無作為抽出

※抽出対象者は令和6年6月時点での住民基本台帳登録者

調査票配布数：2,491件 ※9件は調査票発送時に住民登録抹消等のため調査票の発送を差し止め

回収数：997件

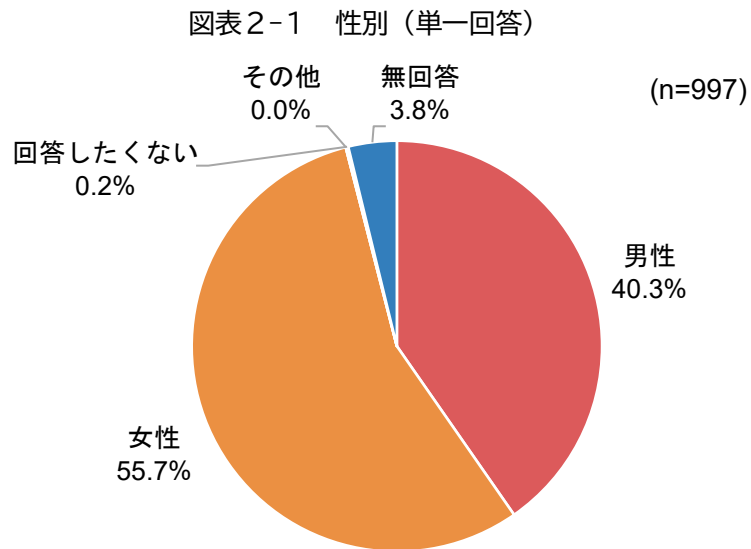
回収率：40.0% （回収数997 / 調査票配布数2,491）

なお、調査結果のグラフについて、小数点以下の表示上、合計が100%とならない場合がある。また、サンプル数が少ないため参考にとどめる必要がある結果については、見出しにおいて（参考）と付している。

(2) 回答者の属性

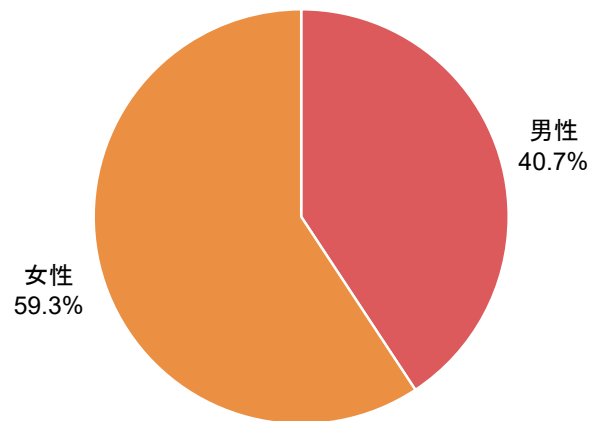
① 性別

性別について、「男性」が40.3%、「女性」が55.7%である。



なお、令和2年国勢調査における、65歳以上人口の性比について、「男性」が40.7%、「女性」が59.3%である。

図表2-2 【令和2年国勢調査】港区における65歳以上人口の性別割合（単一回答）



資料）総務省統計局「令和2年国勢調査結果」より三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社作成

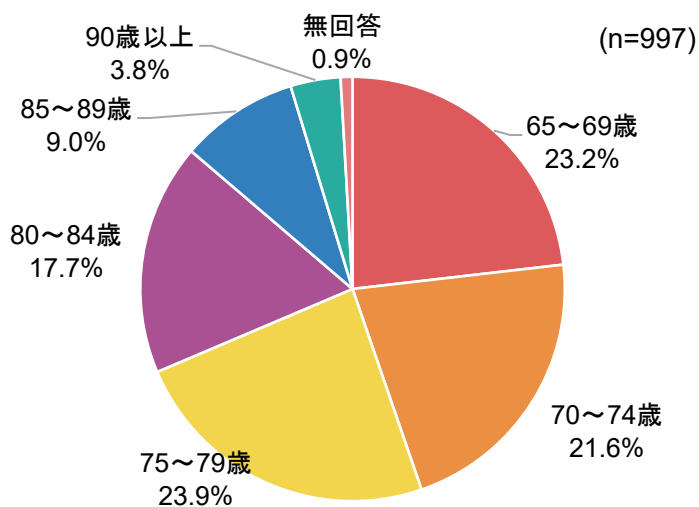
② 年代

1) 合計

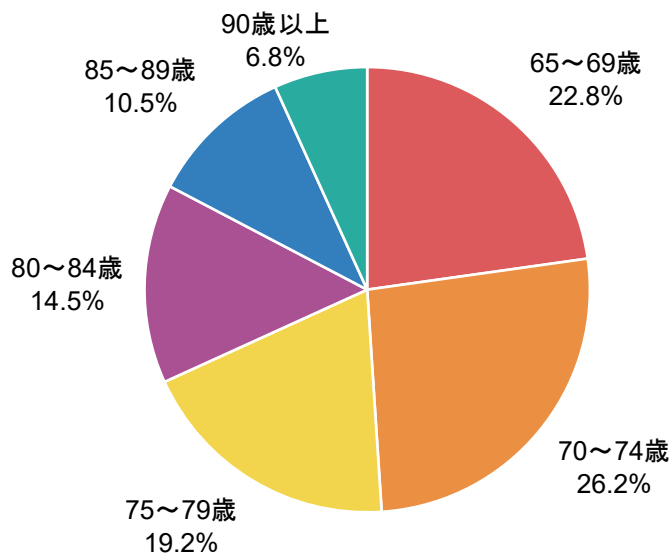
年代について、「65～69 歳」が 23.2%、「70～74 歳」が 21.6%、「75～79 歳」が 23.9%、「80～84 歳」が 17.7%、「85～90 歳」が 9.0%、「90 歳以上」が 3.8%である。

なお、令和 2 年国勢調査における、65 歳以上人口の年代別割合について、「65～69 歳」が 22.8%、「70～74 歳」が 26.2%、「75～79 歳」が 19.2%、「80～84 歳」が 14.5%、「85～90 歳」が 10.5%、「90 歳以上」が 6.8%である。アンケート回答者について 90 歳以上の割合が若干低いものの、各年代の構成に 5 ポイント以上の差はなく、おおむね同様といえる。

図表 2-3 年代（単一回答）



図表 2-4 【令和 2 年国勢調査】港区における 65 歳以上人口の年代別割合（単一回答）

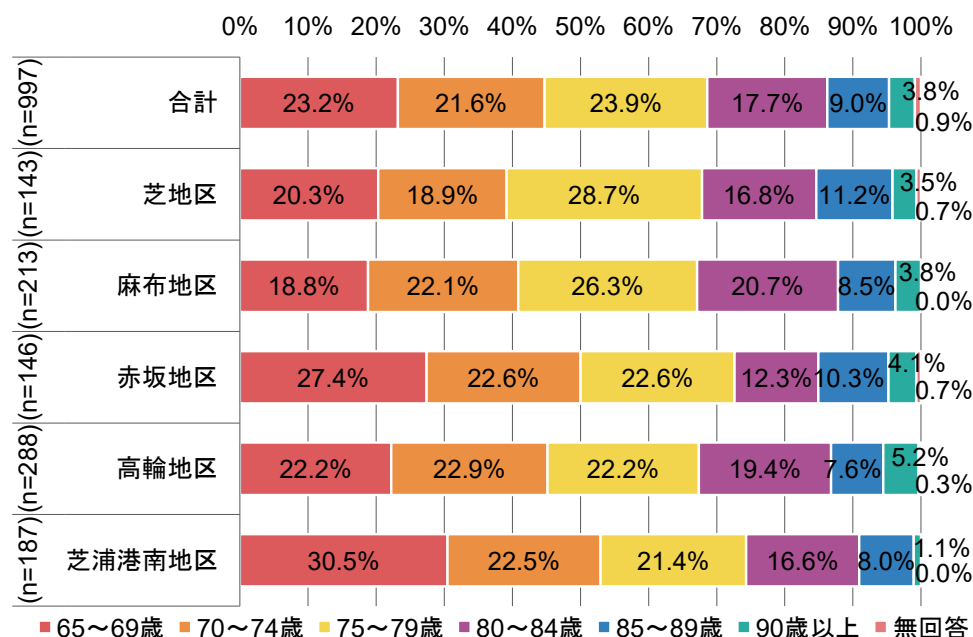


資料) 総務省統計局「令和 2 年国勢調査結果」より三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社作成

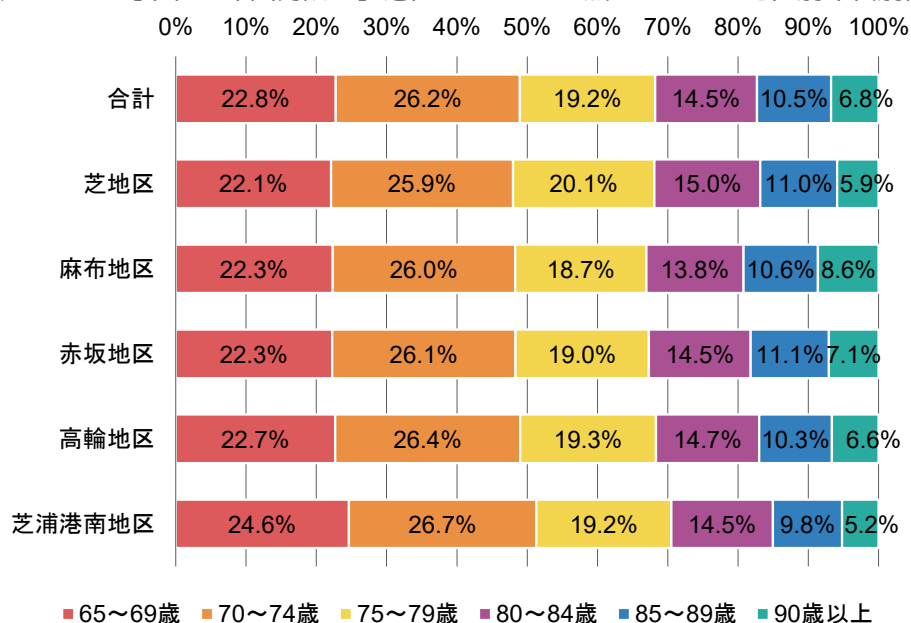
2) 地区別¹⁾

地区別にみると、5地区のうち、芝浦港南地区において「65～69歳」の割合が最も高く、この点は実際の地区別年齢構成（令和2年国勢調査）と同じである。なお、各地区・各年代の構成について、極端な乖離はみられない。

図表2-5 【地区別】年代（単一回答）



図表2-6 【令和2年国勢調査】港区における65歳以上人口の地区別年代別割合



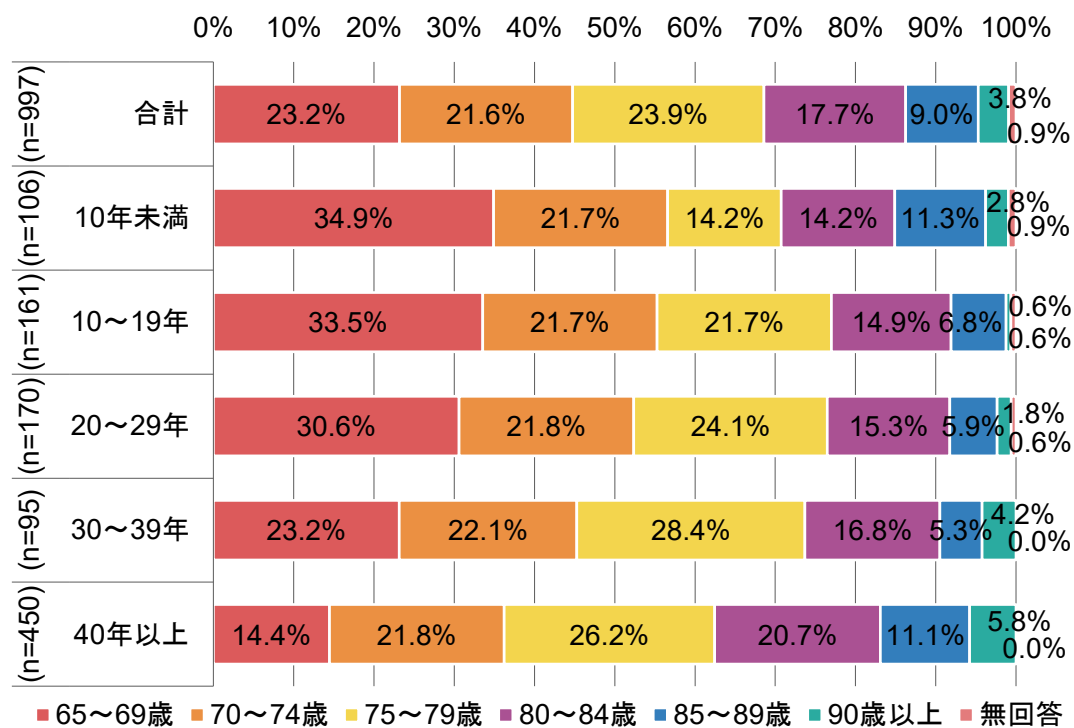
資料）総務省統計局「令和2年国勢調査結果」より三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社作成

¹⁾ 以下、クロス集計のグラフにおいては、クロス軸としている設問について無回答である回答者がいるため、内訳を合算した数値と合計が一致しない場合がある。

3) 港区居住歴別

港区居住歴別にみると、居住歴10年以上では、居住歴が長くなるにつれて、高年齢層の比率が高まる傾向がある。他方で、居住歴「10～19年」と「10年未満」を比較すると、「10年未満」の方が「75～79歳」の比率が低く、「85～89歳」「90歳以上」の比率が高い。

図表2-7 【港区居住歴別】年代（単一回答）

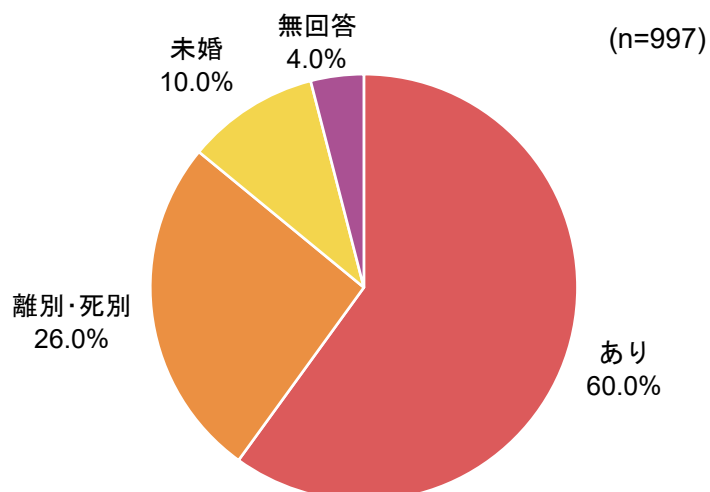


③ 配偶者

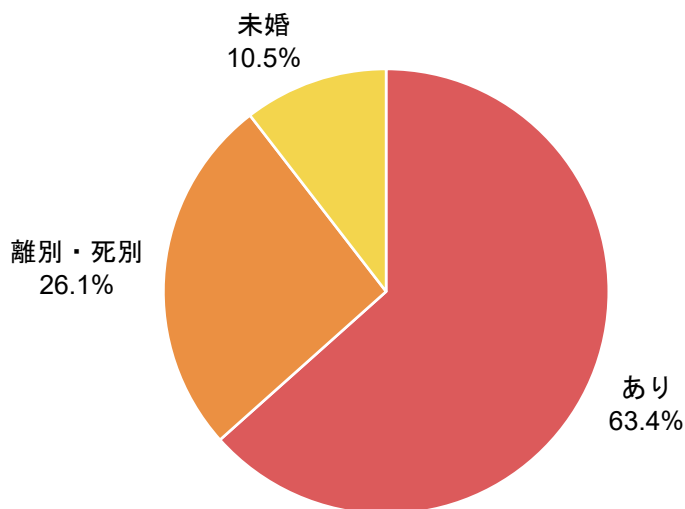
配偶者について、「あり」が60.0%、「離別・死別」が26.0%、「未婚」が10.0%である。

なお、令和2年国勢調査における、65歳以上人口の配偶関係別割合について、配偶関係「あり」が63.4%、「離別・死別」が26.1%、「未婚」が10.5%である。アンケート回答者について配偶者ありの割合が若干低いものの、おおむね同様といえる。

図表2-8 配偶者（単一回答）



図表2-9 【令和2年国勢調査】港区における65歳以上人口の年代別配偶関係の割合²（単一回答）



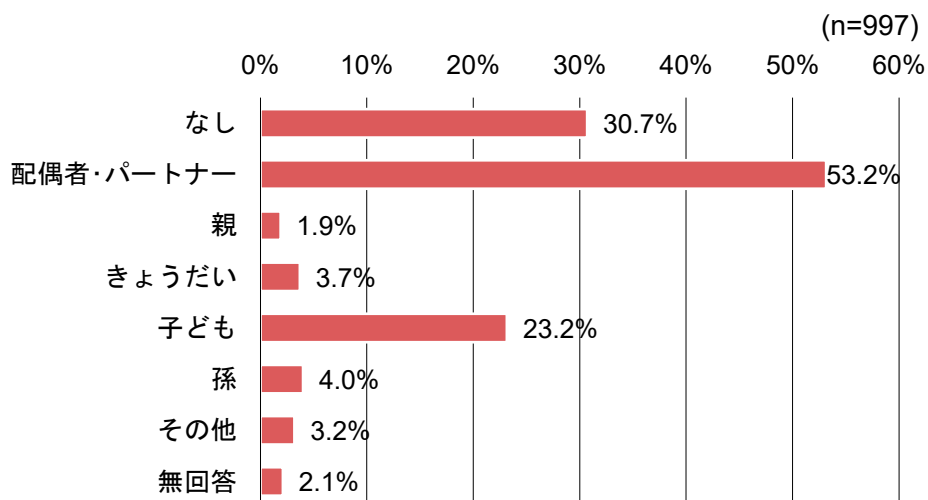
資料）総務省統計局「令和2年国勢調査結果」より三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社作成

² 配偶関係「不詳」については、母数から除外している。

④ 同居人

同居人について、「配偶者・パートナー」が53.2%、「子ども」が23.2%、「なし」が30.7%である。

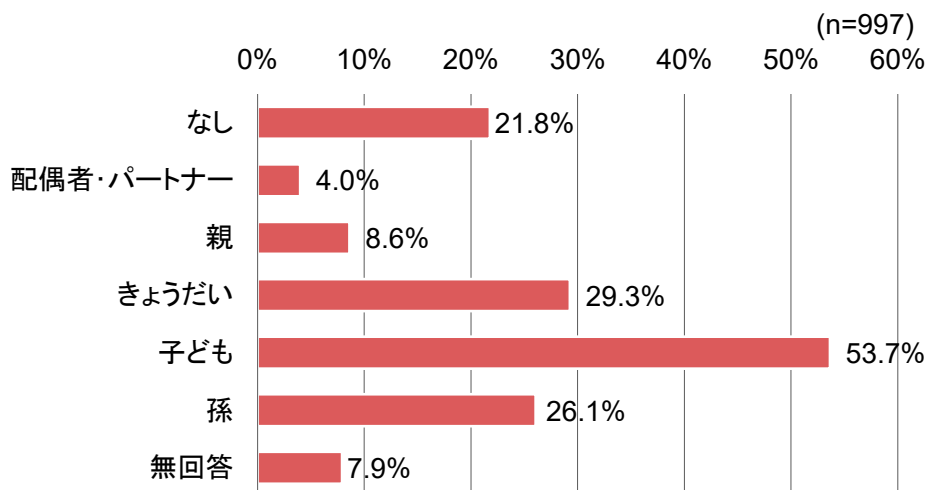
図表2-10 同居人（複数回答）



⑤ 別居している家族

別居している家族について、「子ども」が53.7%、「きょうだい」が29.3%、「孫」が26.1%、「なし」が21.8%である。

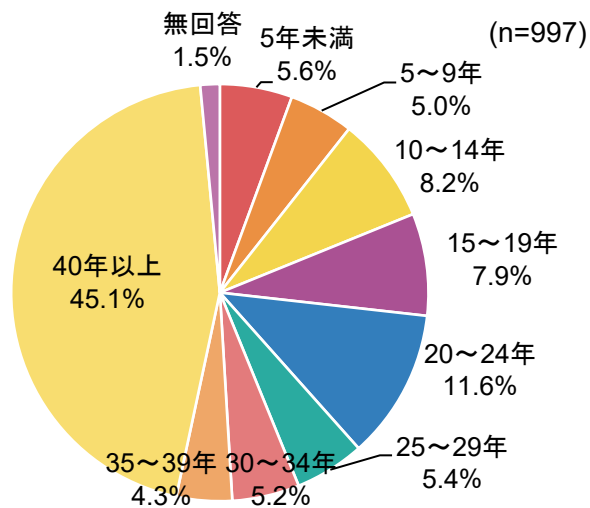
図表2-11 別居している家族（複数回答）



⑥ 港区居住歴

港区居住歴について、「40 年以上」の割合が最も高く 45.1%である。次いで、「20～24 年(11.6%)」「10～14 年 (8.2%)」である。

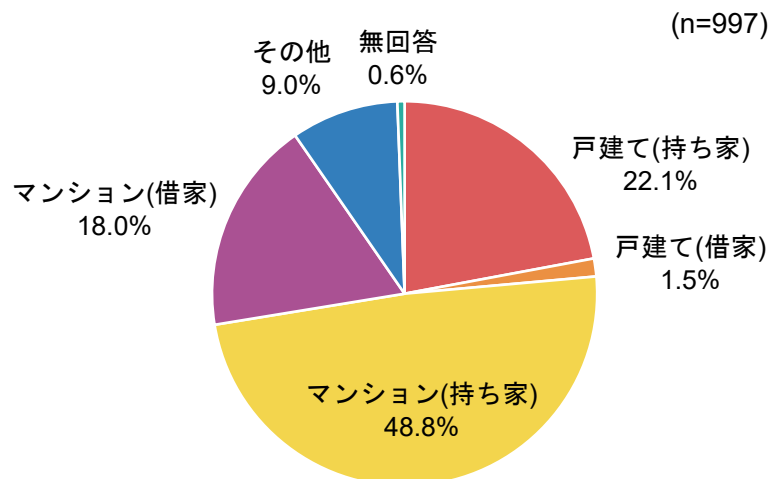
図表 2-1 2 港区居住歴（単一回答）



⑦ 住居形態

住居形態について、「マンション(持ち家)」の割合が最も高く 48.8%である。次いで、「戸建て(持ち家) (22.1%)」「マンション(借家) (18.0%)」である。

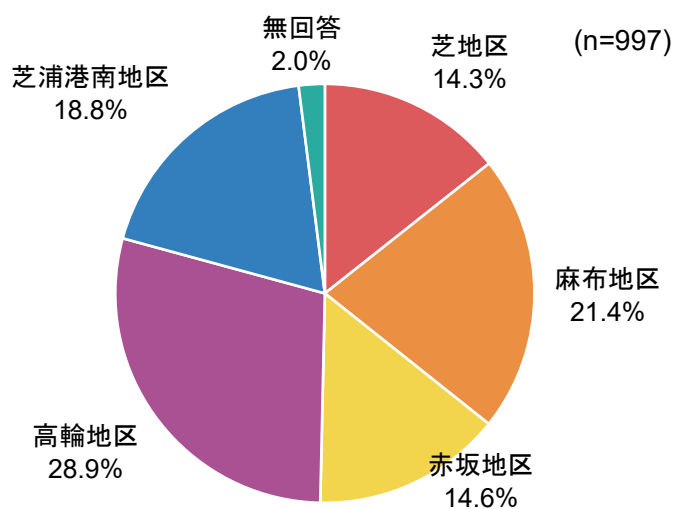
図表 2-1 3 住居形態（単一回答）



⑧ 居住地区

居住地区について、「芝地区」が14.3%、「麻布地区」が21.4%、「赤坂地区」が14.6%、「高輪地区」が28.9%、「芝浦港南地区」が18.8%である。

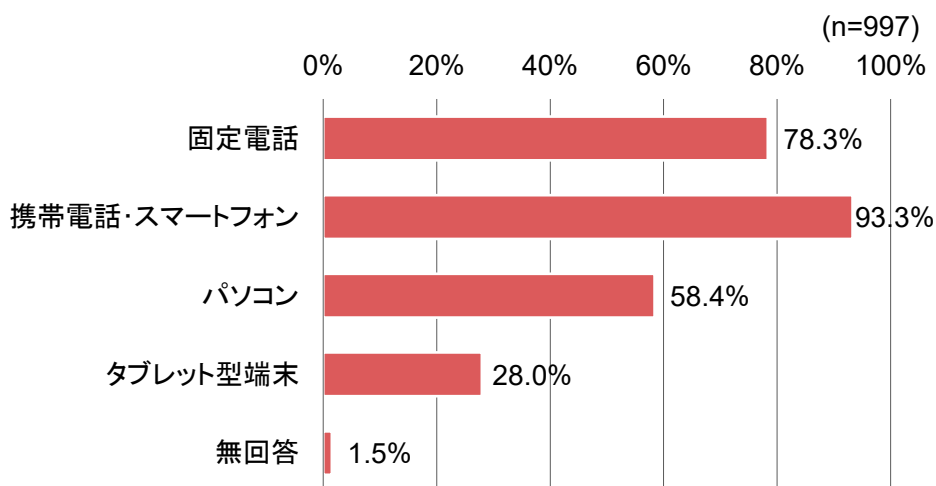
図表2-14 居住地区（単一回答）



⑨ 所有機器

所有機器について、「携帯電話・スマートフォン」の割合が最も高く93.3%である。次いで、「固定電話（78.3%）」「パソコン（58.4%）」「タブレット型端末（28.0%）」である。

図表2-15 所有機器（複数回答）



3. 調査結果

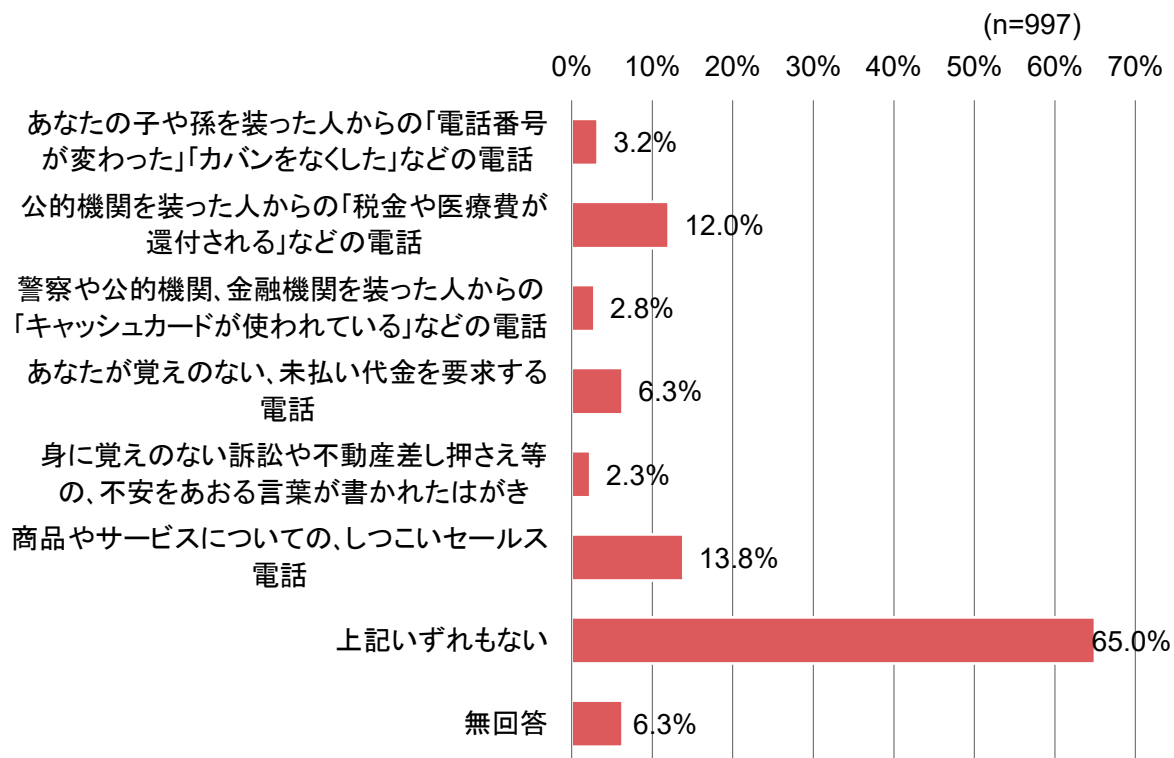
(1) 特殊詐欺被害や不審な電話等に関する経験について

① 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験について、「いずれもない」とした65.0%、「無回答」の6.3%を除く、28.7%の回答者が何らかの特殊詐欺や不審な電話、はがきを受けた経験を有する。

不審な電話・はがきの内容のうち、「商品やサービスについての、しつこいセールス電話」が13.8%と最も割合が高く、次いで「公的機関を装った人からの『税金や医療費が還付される』などの電話」が12.0%である。

図表2-16 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験（複数回答）



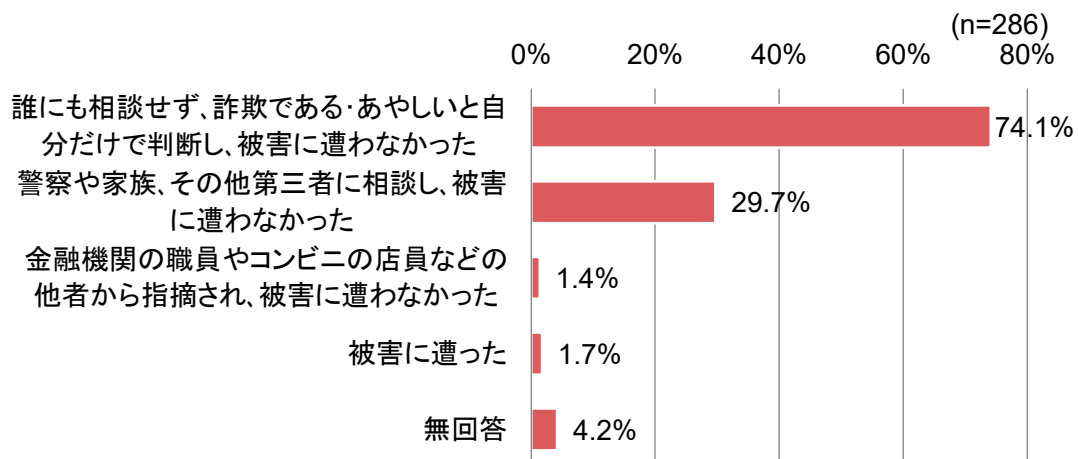
② 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際の対応

1) 全体

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際の対応について、「誰にも相談せず、詐欺である・あやしいと自分だけで判断し、被害に遭わなかった」の割合が最も高く74.1%である。次いで、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった(29.7%)」であり、「被害に遭った」は1.7%である。

図表2-17 (過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験がある方のみ)

過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応(複数回答)

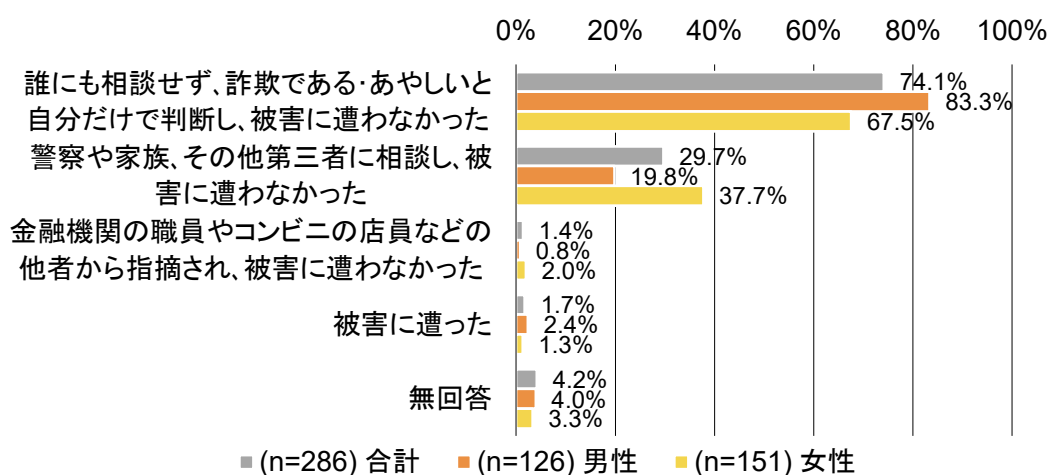


2) 性別³

性別にみると、男性は女性と比べ「誰にも相談せず、詐欺である・あやしいと自分だけで判断し、被害に遭わなかった」割合が高く、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」割合が低く、「被害に遭った」割合が高い。

図表2-18 【性別】(過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験がある方のみ)

過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応(複数回答)



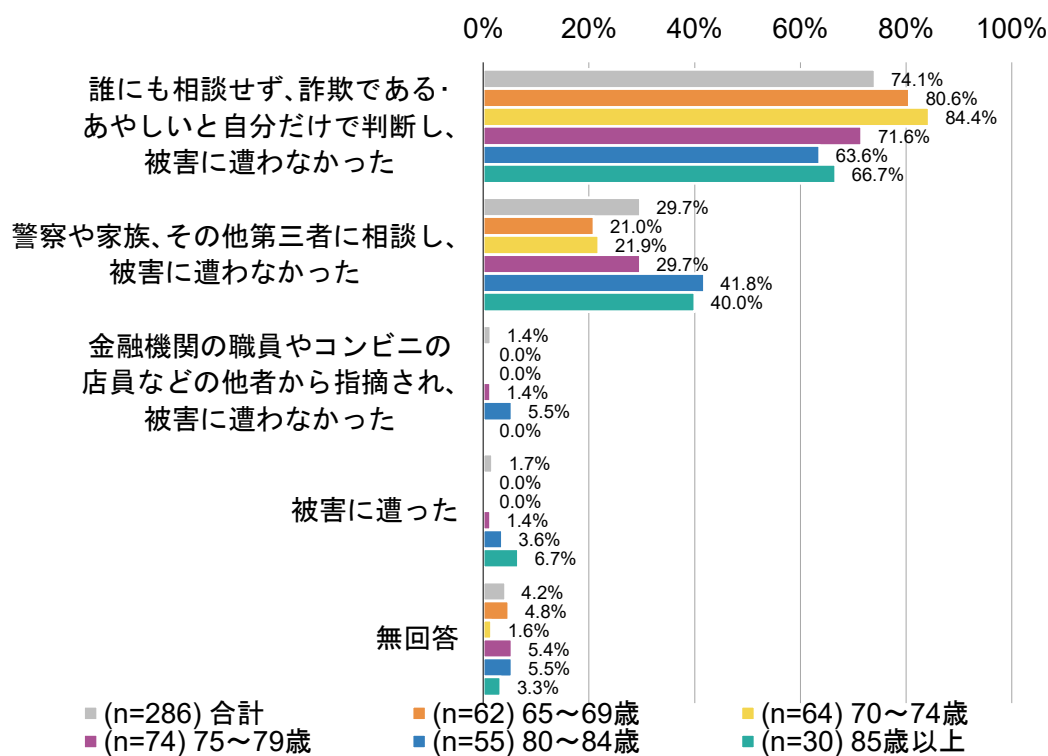
³ 性別について「回答したくない」と回答した人は、サンプル数が少ないためグラフを掲載していない。

3) 年代別

年代別にみると、おおむね年代が上がるにつれて、「誰にも相談せず、詐欺である・あやしいと自分だけで判断し、被害に遭わなかった」の割合が低くなり、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」「被害に遭った」の割合が高くなる傾向がみられた。

図表2-19 【年代別】(過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験がある方のみ)

過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応(複数回答)

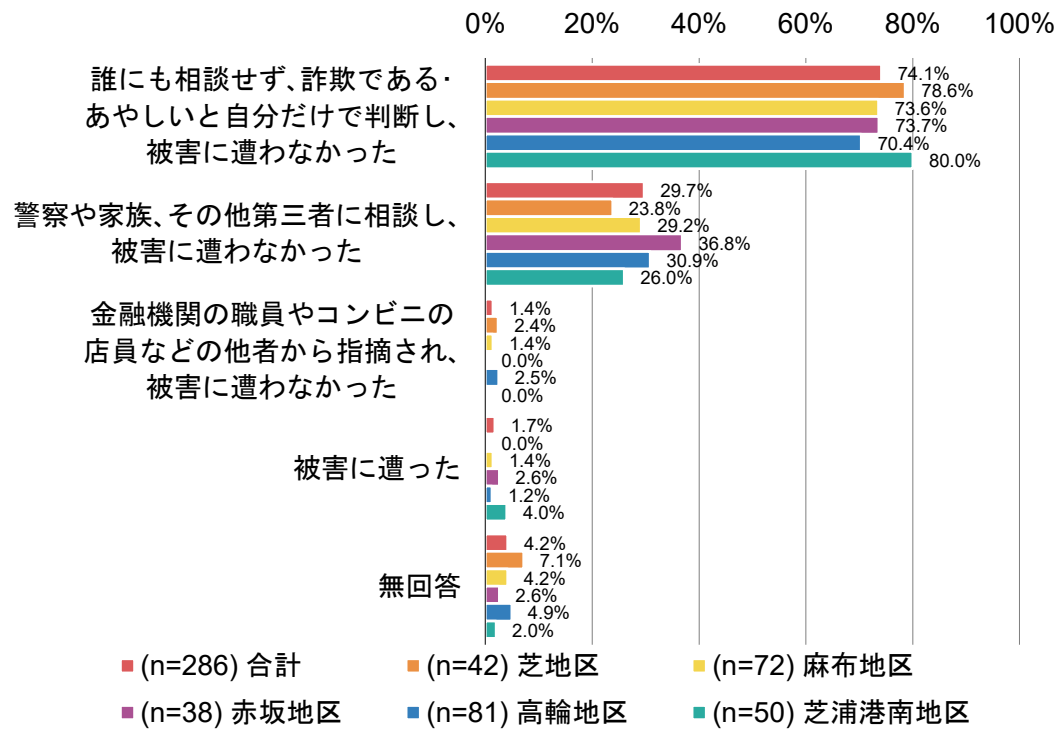


4) 地区別

地区別にみると、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」の割合は、最も高い「赤坂地区」においては36.8%、最も低い「芝地区」においては23.8%と、地区により違いがみられた。なお、居住地区ごとに回答者の年代割合にやや差がある（図表2-5 【地区別】年代（単一回答））ことに留意が必要である。

図表2-20 【地区別】（過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験がある方のみ）

過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応（複数回答）

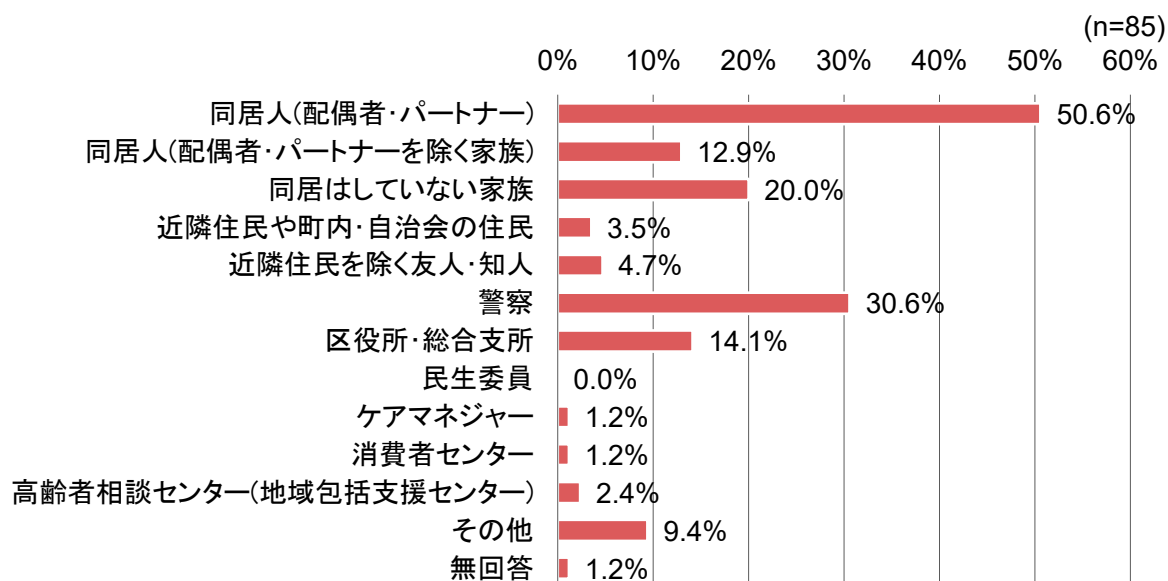


③ 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際に通報や相談をした相手

1) 全体

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際に通報や相談をした相手について、「同居人(配偶者・パートナー)」の割合が最も高く 50.6%である。次いで、「警察 (30.6%)」「同居はしていない家族 (20.0%)」「区役所・総合支所 (14.1%)」「同居人(配偶者・パートナーを除く家族) (12.9%)」である。

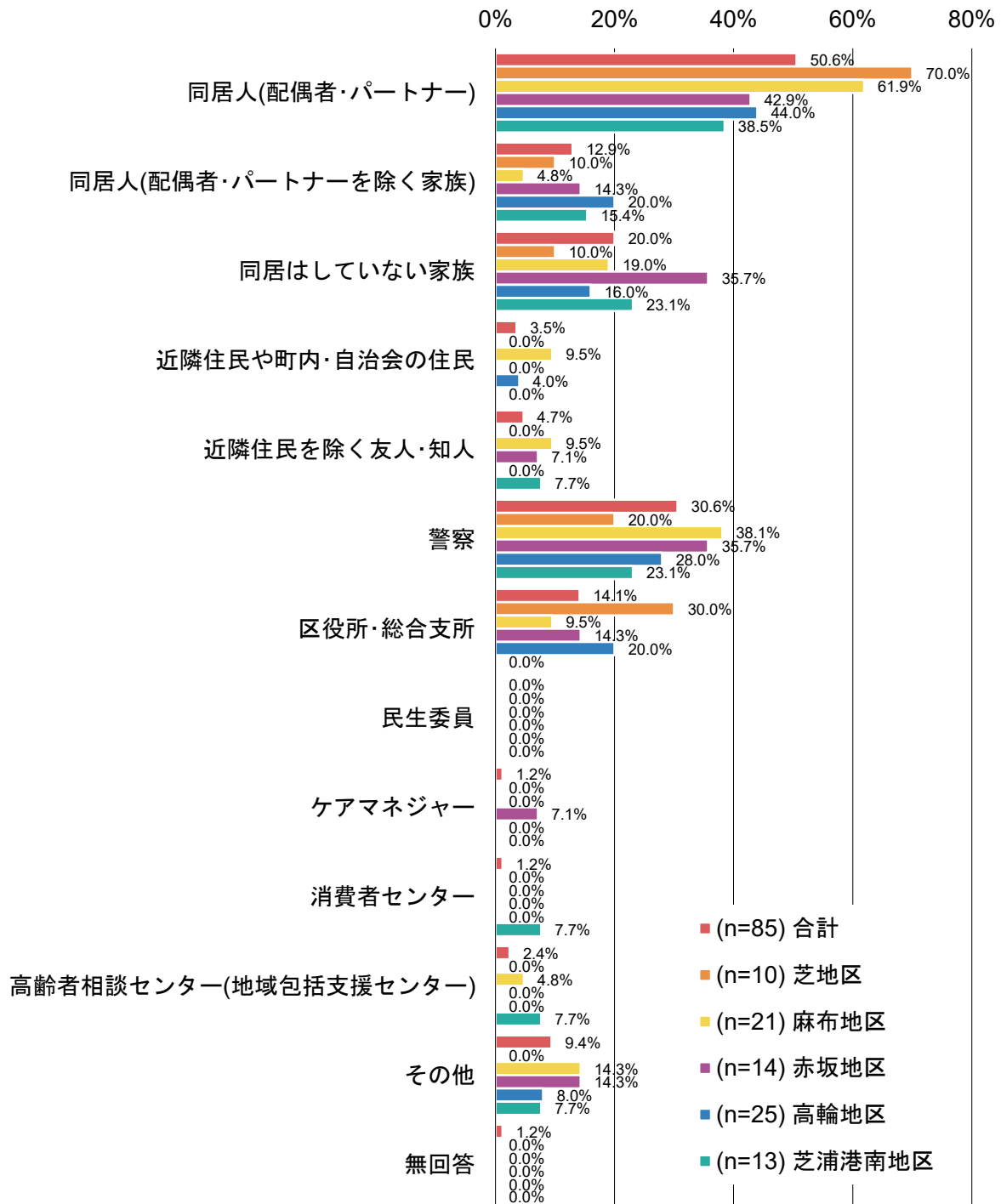
図表2-21 (過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際に、警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった方のみ) 通報や相談をした相手(複数回答)



2) 地区別

地区別に、他者に相談を行って被害に遭わなかった場合の相談先をみると、各地区における回答対象者数が少ない点に留意が必要であるが、芝地区については、「同居人(配偶者・パートナー)」「区役所・総合支所」の割合が他地区より高く、「警察」の割合が低い特徴がある。

図表 2-22 【地区別】通報や相談をした相手（複数回答）

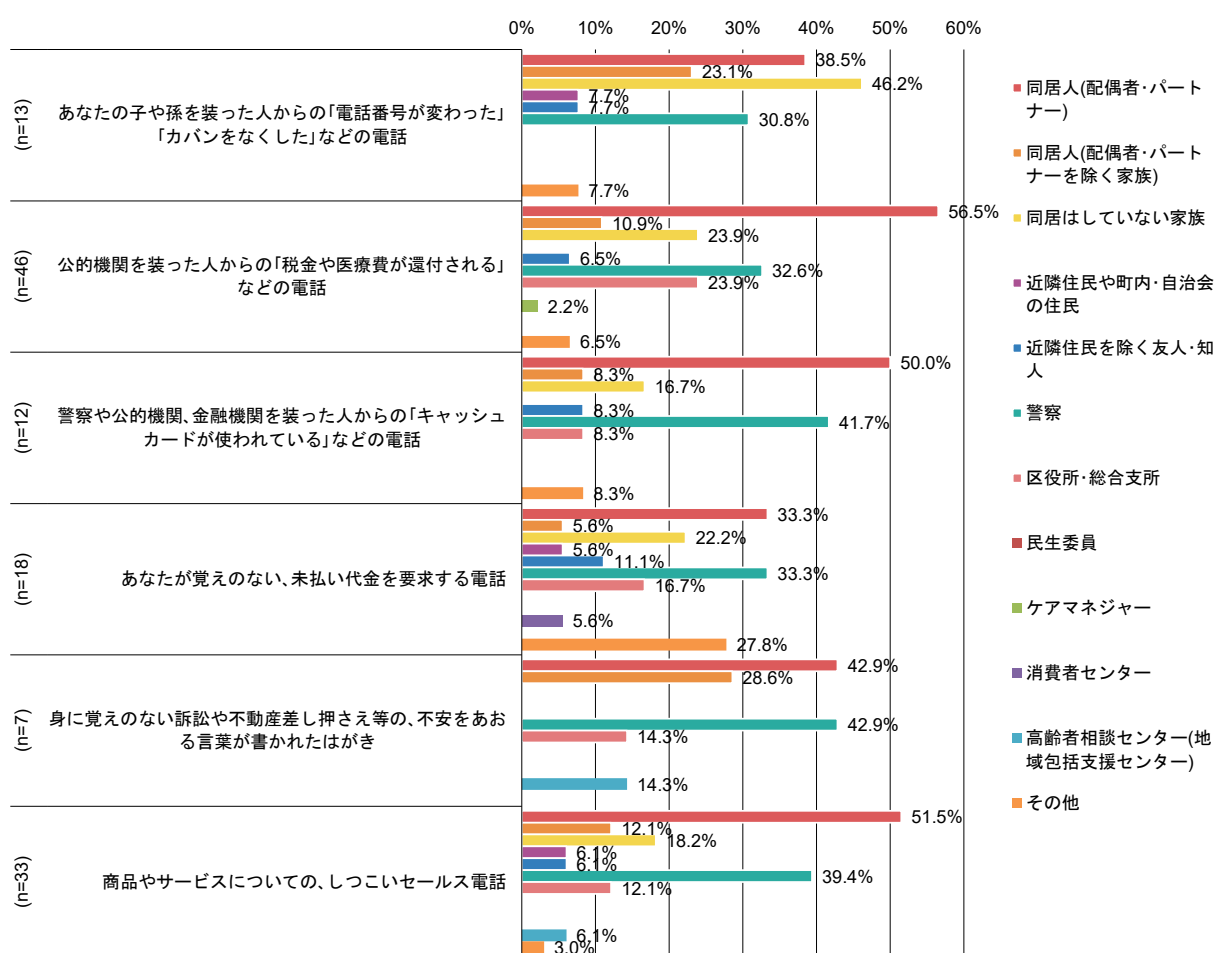


3) (参考) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた種類別、他者への相談を行った場合の相談先

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた種類（複数回答）別に、他者に相談を行って被害に遭わなかった場合の相談先（複数回答）をみると、「子や孫を装った人からの電話」を受けたと選択した場合については、「同居はしていない家族」を選択する割合が最も高く、「公的機関を装った人からの還付金等に関する電話」や「警察や公的機関、金融機関を装った人からのカード不正利用等の電話」、「商品やサービスのセールス電話」については「同居人（配偶者・パートナー）」を選択する割合が最も高い。

「身に覚えのない未払い代金の要求」や、「訴訟・不動産差し押さえ等のはがき」については、「同居人（配偶者・パートナー）」「警察」の割合が同率で最も高い。

図表 2-23 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた種類（複数回答）別】通報や相談をした相手（複数回答）



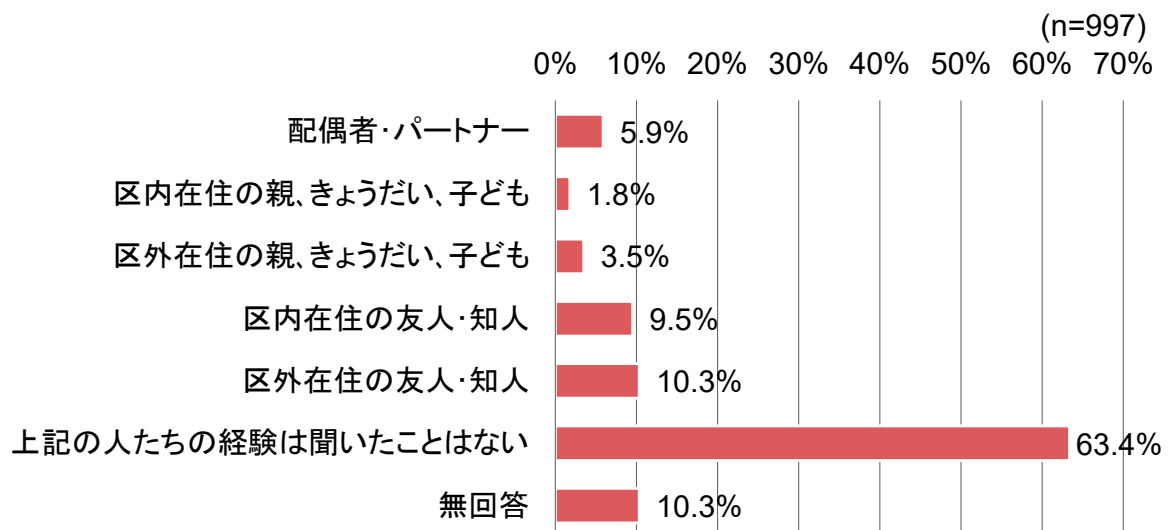
④ 過去1年間に身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験の有無

1) 全体

過去1年間に身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験の有無について、いずれもないとした63.4%、無回答の10.3%を除く、26.3%の回答者が、身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験を有する。

身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験がある人のうち、「区外在住の友人・知人」が10.3%と最も割合が高く、次いで「区内在住の友人・知人」が9.5%である。

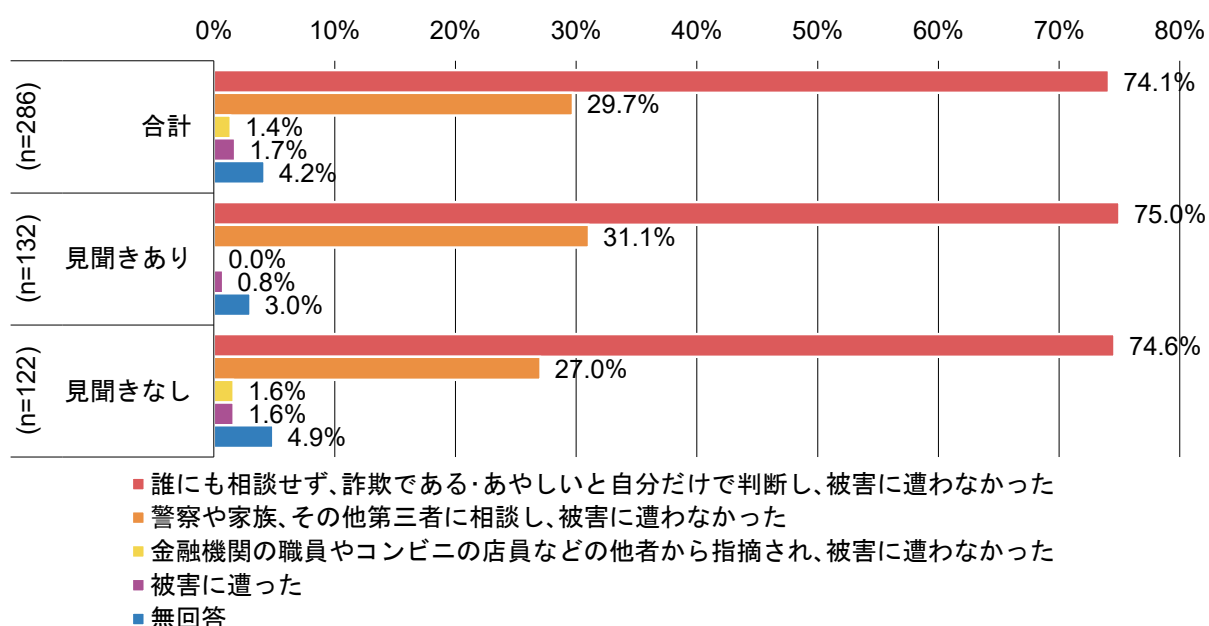
図表2-24 過去1年間に身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験（複数回答）



2) 被害の見聞きと不審な電話やはがきを受けた際の行動

被害の見聞きの経験（①で「上記の人たちの経験を聞いたことはない」回答を「見聞きなし」、それ以外で無回答を除き「見聞きあり」とした場合）と、不審な電話やはがきを受けた際の行動との関係についてみると、「警察や家族、その他第三者に相談し被害に遭わなかった」の回答割合は、被害の見聞き経験がある人の方が、被害の見聞き経験のない人に比べ4.1ポイント高い。

図表 2-25 過去1年間に身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、あやしい電話を受けたなどの経験の有無（単一回答）と過去1年間に不審な電話・はがきを受けた際の行動（複数回答）



⑤ 小括

- ✓ 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験は28.7%（286人）である。
- ✓ 286人のうち、74.1%が誰にも相談せず、自分で看破して被害に遭わなかったと回答し、被害に遭った割合は1.7%（5人）に留まった。
- ✓ 男女別にみると、自分で看破した割合は女性に比べ男性の方が高く、警察や家族、その他第三者へ相談して看破した割合は男性に比べ女性の方が高い。
- ✓ 年代別にみると、おおむね年齢層が高くなるほど警察や家族、その他第三者へ相談して看破した割合が上昇する。
- ✓ 第三者へ相談した相手としては、第三者へ相談して看破したと回答した人の50.6%が同居人（配偶者・パートナー）と回答し、次いで30.6%が警察と回答した。

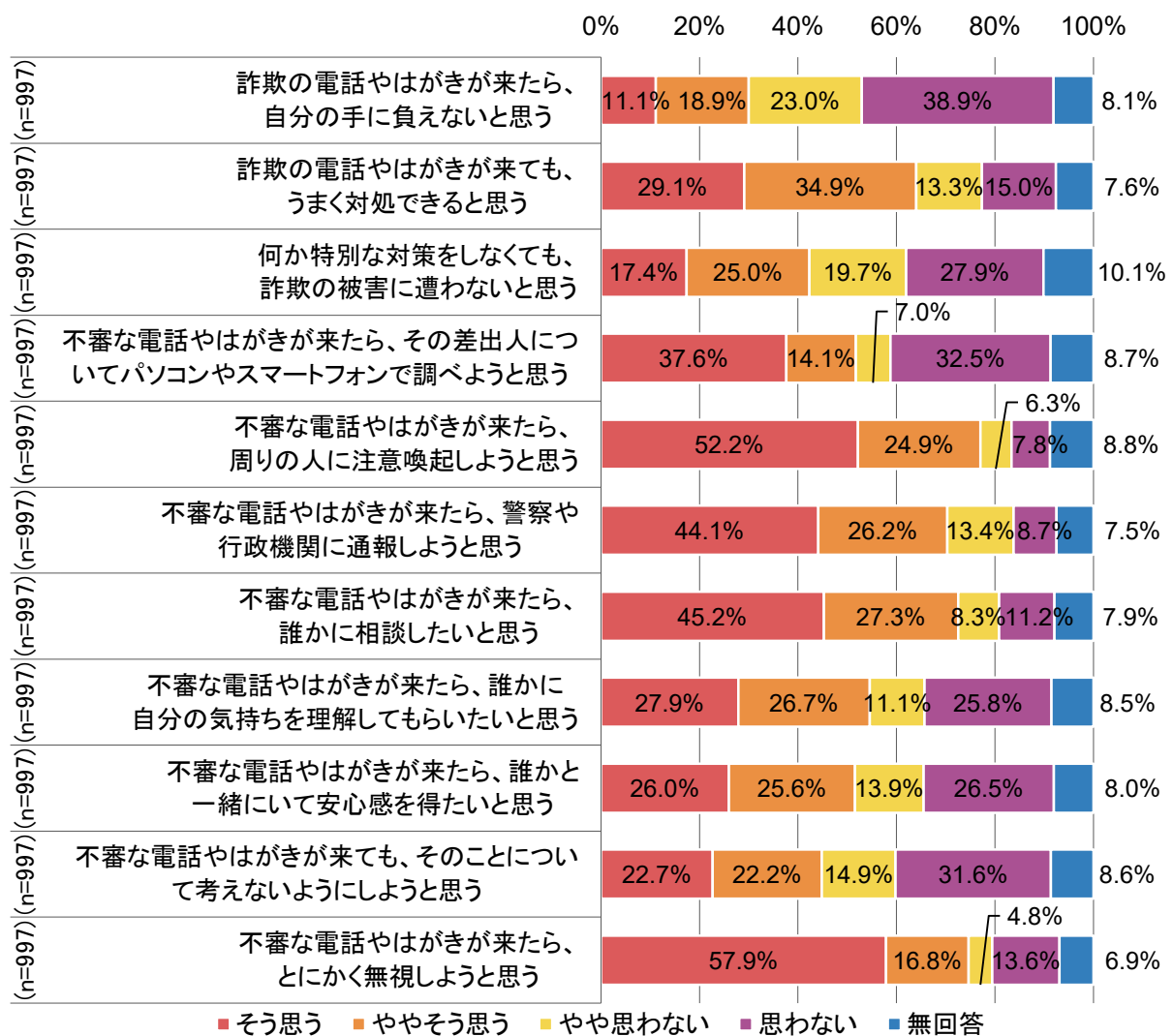
(2) 特殊詐欺に対する考え方や相談先について

① 特殊詐欺に対する考え方

1) 全体

特殊詐欺に対する考え方について、「そう思う」「ややそう思う」の合計をみると、「不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う」が77.0%で最も割合が高い。次いで「不審な電話やはがきが来たら、とにかく無視しようと思う(74.6%)」「不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う(72.5%)」であり、「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」は30.0%である。

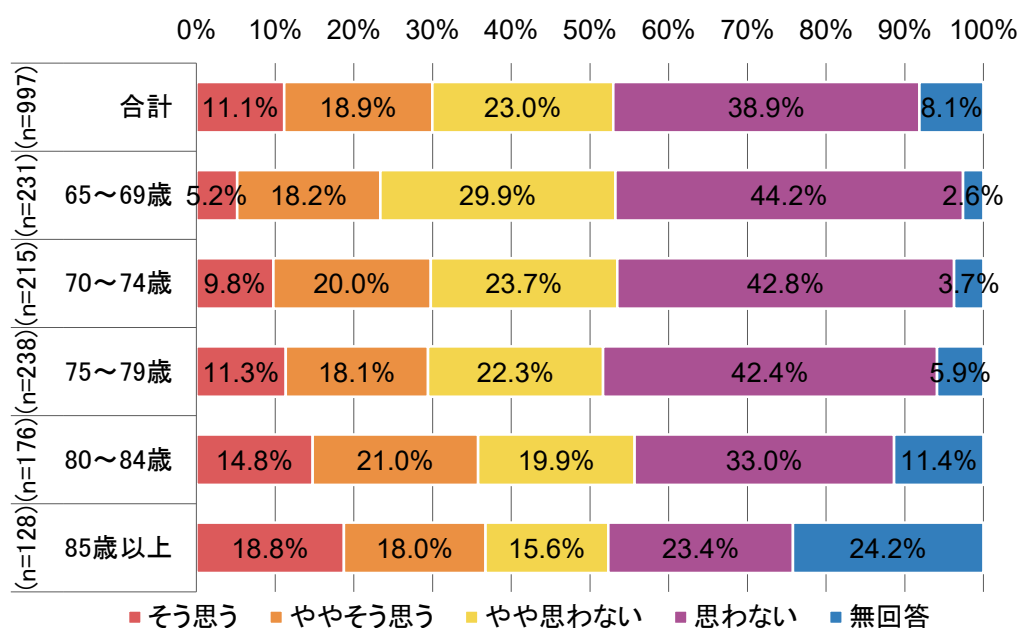
図表2-26 特殊詐欺に対する考え方（単一回答）



2) 年代別

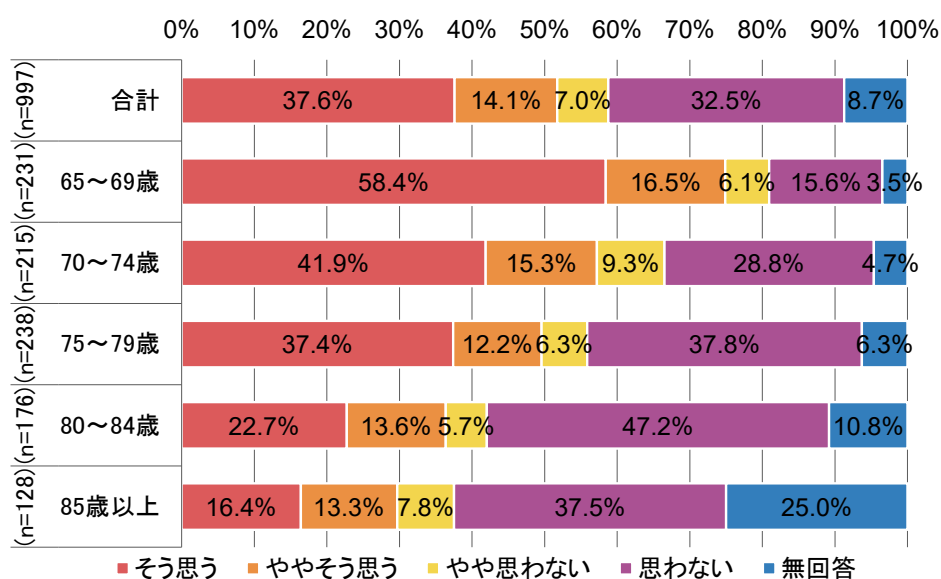
年代別に、「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」について「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「65～69歳」の23.4%から、年代が上がるにつれて割合が上がり、「85歳以上」では36.7%である。

図表2-27 【年代別】「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」方の割合（単一回答）

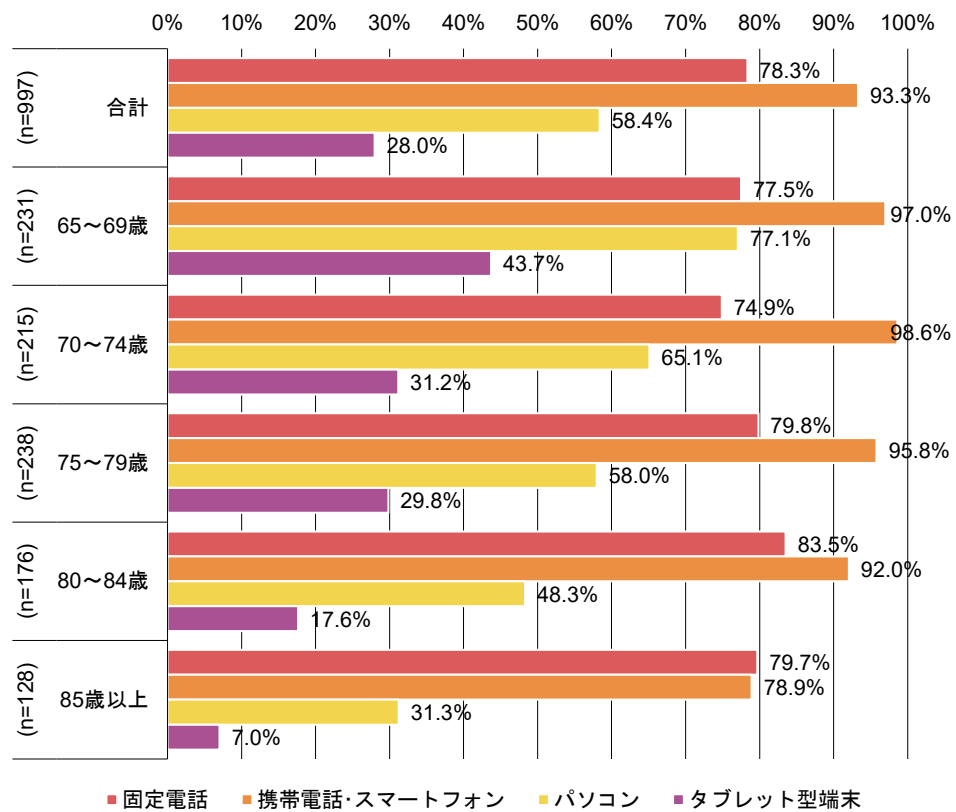


「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「65～69歳」の74.9%から、年代が上がるに連れて割合が下がり、「85歳以上」では29.7%である。

図表2-28 【年代別】「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」方の割合（単一回答）



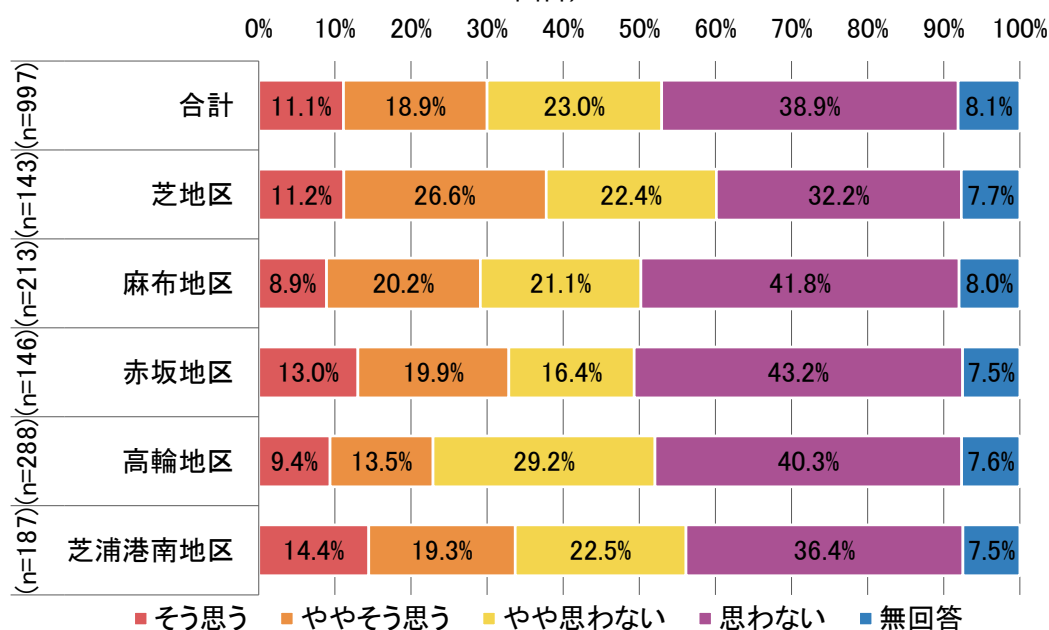
図表 2-29 (参考) 年代別所有機器 (複数回答)



3) 地区別

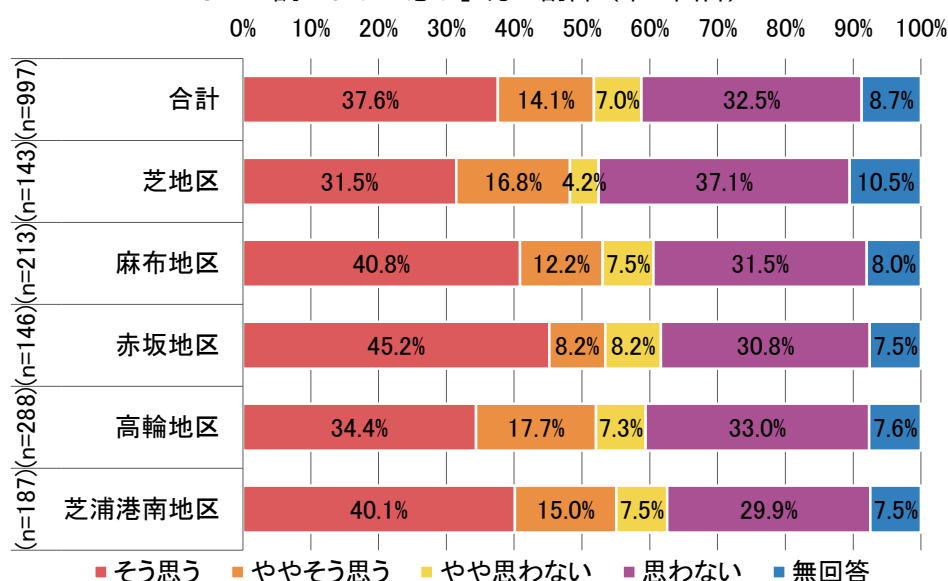
地区別に、「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」について「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「芝地区」の37.8%が最も高く、「高輪地区」の22.9%が最も低い。

図表2-30 【地区別】「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」方の割合（単一回答）



「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「芝浦港南地区」の55.1%が最も高く、「芝地区」の48.3%が最も低い。

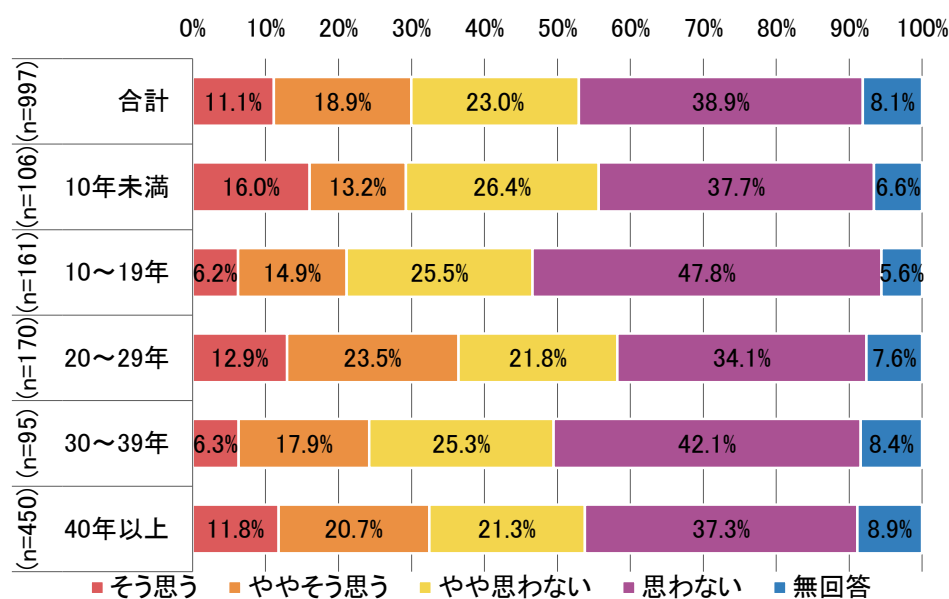
図表2-31 【地区別】「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」方の割合（単一回答）



4) 居住歴別

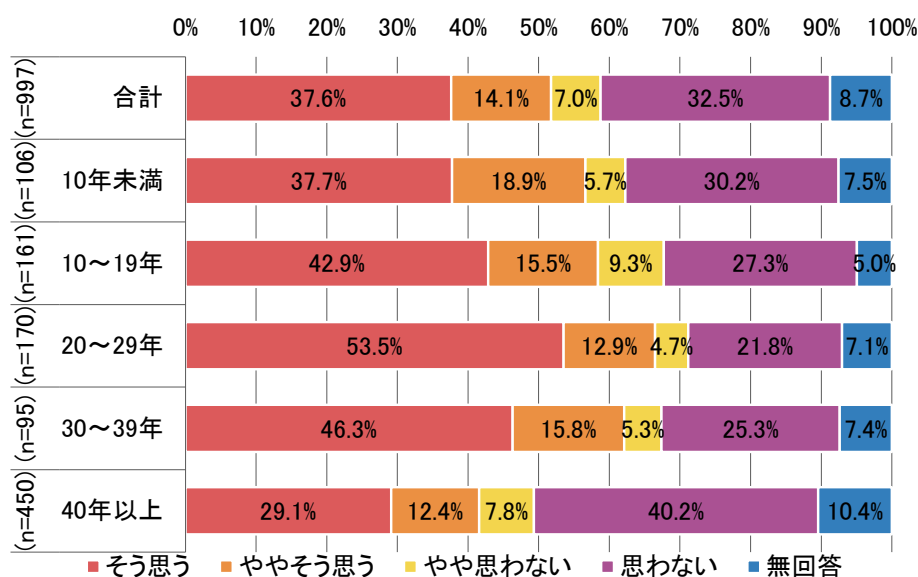
居住歴別に、「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」について「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「20～29年」の36.5%が最も高く、「10～19年」の21.1%が最も低い。

図表2-32 【居住別】「詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う」方の割合
(単一回答)



「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」について、「そう思う」「ややそう思う」の割合の合計をみると、「20～29年」の66.5%が最も高く、「40年以上」の41.6%が最も低い。

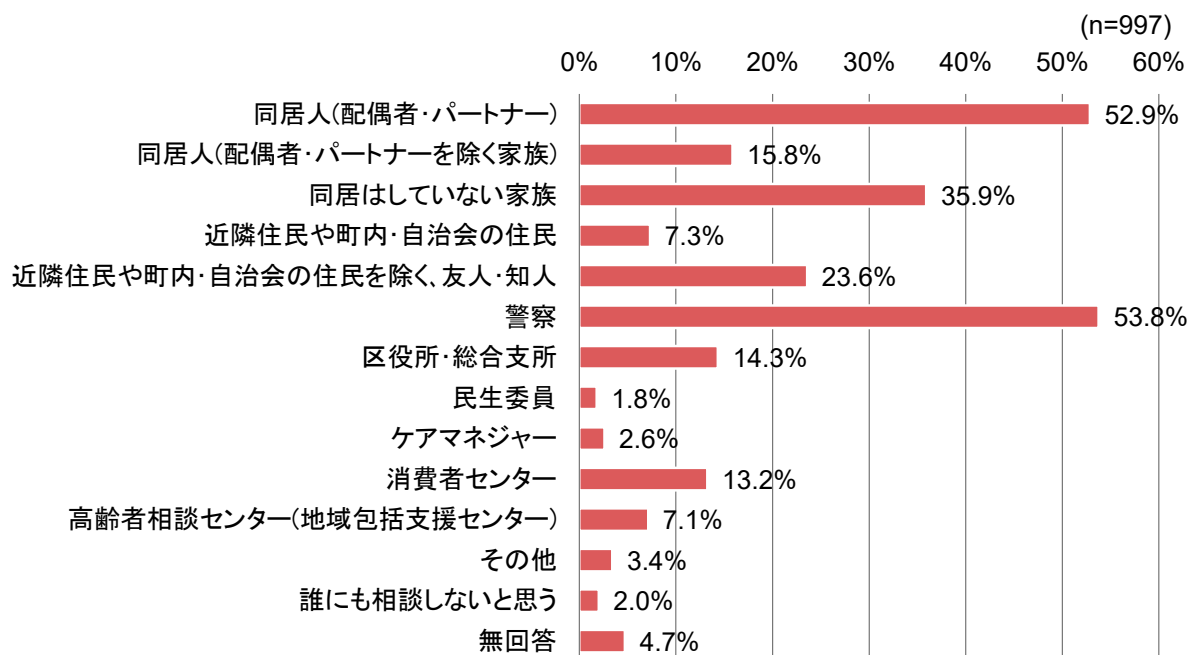
図表2-33 【地区別】「不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う」方の割合 (単一回答)



② 詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として思い浮かぶ先

詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として思い浮かぶ先について、「警察」の割合が最も高く 53.8%である。次いで、「同居人(配偶者・パートナー) (52.9%)」「同居はしていない家族 (35.9%)」である。

図表2-34 詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として思い浮かぶ先（複数回答）



③ 小括

- ✓ 詐欺の電話やはがきが来たら自分の手に負えないと思う・やや思うを合わせた割合は 30.0% である一方、うまく対処できると思う・やや思うを合わせた割合は 64.0% である。
- ✓ 年代が上がるにつれて詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う割合が上がり、不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う割合が下がる。
- ✓ 不審な電話やはがきが来たら、警察や行政機関に相談しようと思う割合と誰かに相談したいと思う割合は 70.3% である。
- ✓ 不審な電話やはがきが来たら誰かと一緒にいて安心感を得たいと思う割合は 51.6% であった。
- ✓ 詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として思い浮かぶ先は、警察が最も多く、次いでほぼ同割合で同居人（配偶者・パートナー）であった。また、同居はしていない家族は 35.9% であった。
- ✓ なお、区役所・総合支所や消費者センターは 13.2%、ケアマネジャーや高齢者相談センター（地域包括支援センター）は 7.1% となっている。

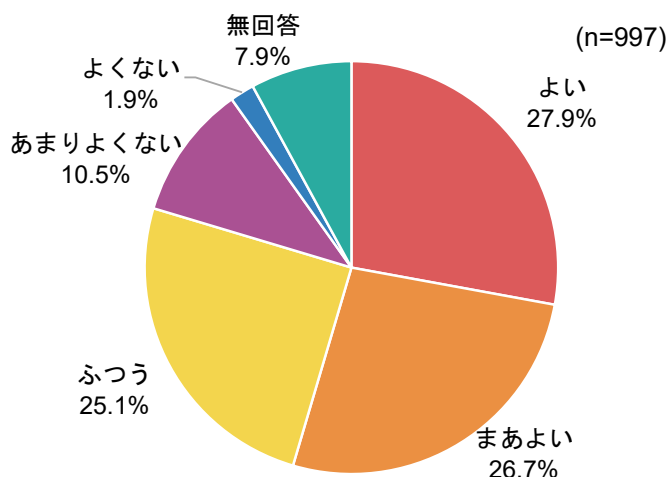
(3) 普段の生活状況について

① 現在の健康状態

1) 全体

現在の健康状態について、「よい」の割合が27.9%である。次いで、「まあよい(26.7%)」「ふつう(25.1%)」、「あまりよくない(10.5%)」「よくない(1.9%)」である。

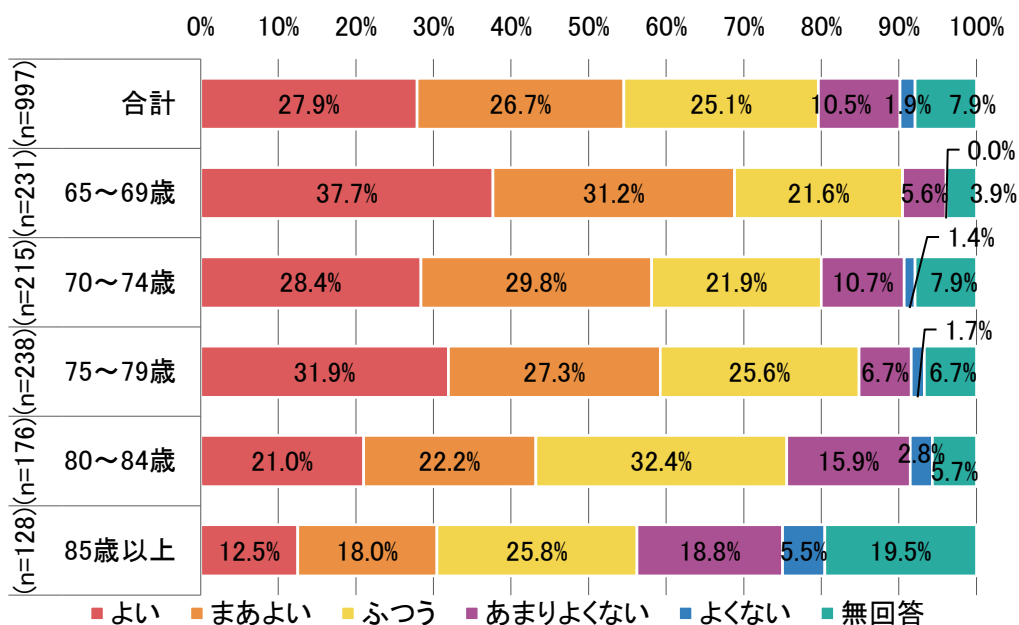
図表2-35 現在の健康状態（単一回答）



2) 年代別

年代別に、現在の健康状態について「よい」「まあよい」の割合の合計をみると、「65～69歳」の68.8%が最も高く、年代が高まるにつれて、おおむね割合は低くなる傾向にあり、「85歳以上」では30.5%である。

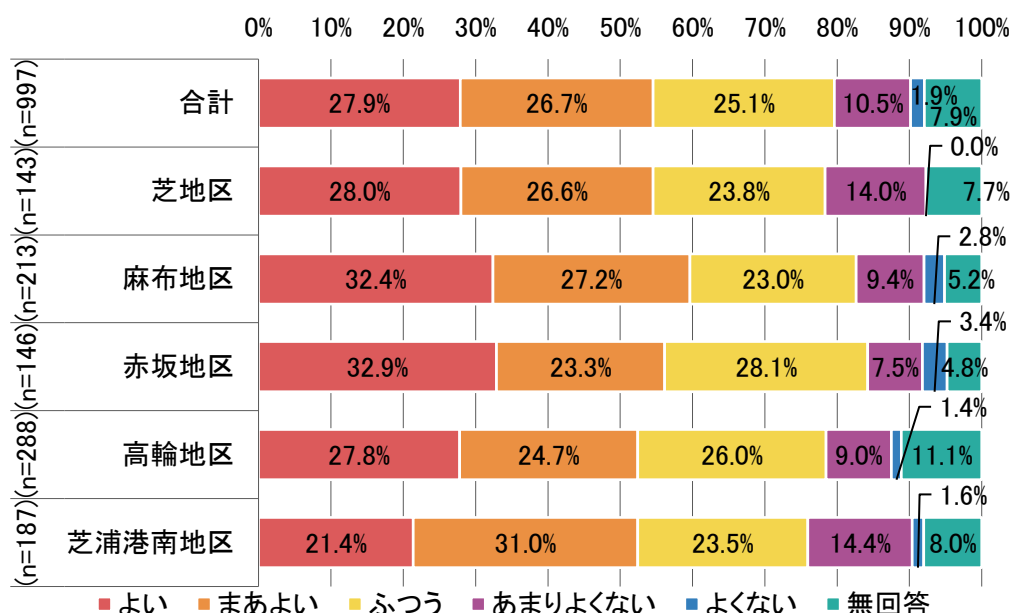
図表 2-36 【年代別】現在の健康状態（単一回答）



3) 地区別

地区別に、現在の健康状態について「よい」「まあよい」の割合の合計をみると、「麻布地区」の59.6%が最も高く、「高輪地区」「芝浦港南地区」の52.4%が最も低い。

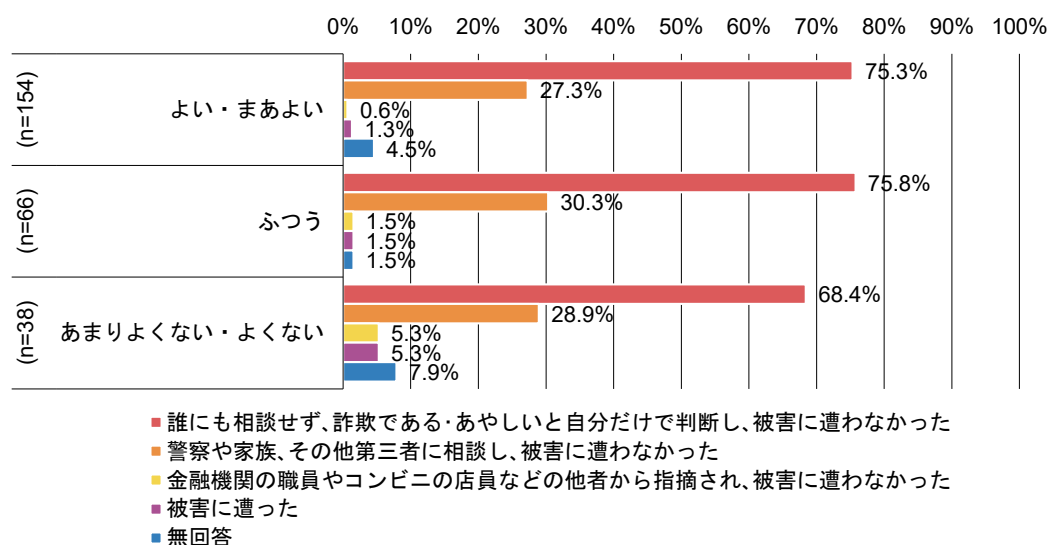
図表 2-3 7 【地区別】現在の健康状態（単一回答）



4) (参考) 現在の健康状態別にみた過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応

現在の健康状態を「よい・まあよい」「ふつう」「あまりよくない・よくない」の3段階としたうえで、不審な電話及びはがきを受けた際の対応についてみると、「被害に遭った」とする割合は「よい・まあよい」が1.3%に対し、「あまりよくない・よくない」は5.3%であり、わずかではあるが健康状態が悪いことで被害につながる可能性がある。

図表 2-3 8 現在の状態別にみた過去1年間に不審な電話及びはがきを受けた際の対応

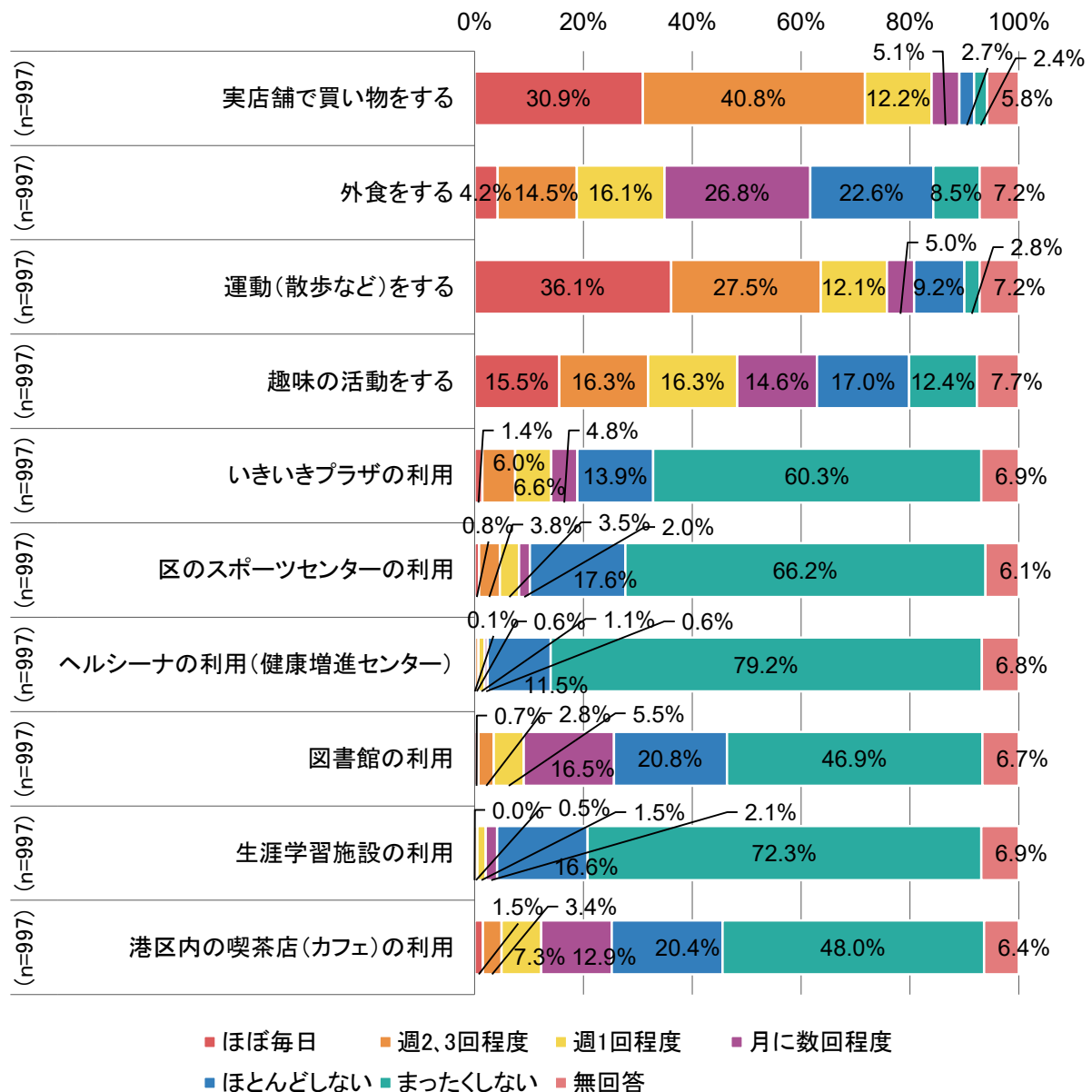


② 普段の活動の実施頻度

1) 全体

普段の活動の実施頻度について、「実店舗で買い物をする」は「ほぼ毎日」が 30.9%、「週 2、3 回程度」が 40.8%、「運動（散歩など）をする」は「ほぼ毎日」が 36.1%、「週 2、3 回程度」が 27.5%と、他の行動と比べ実施頻度が高い。

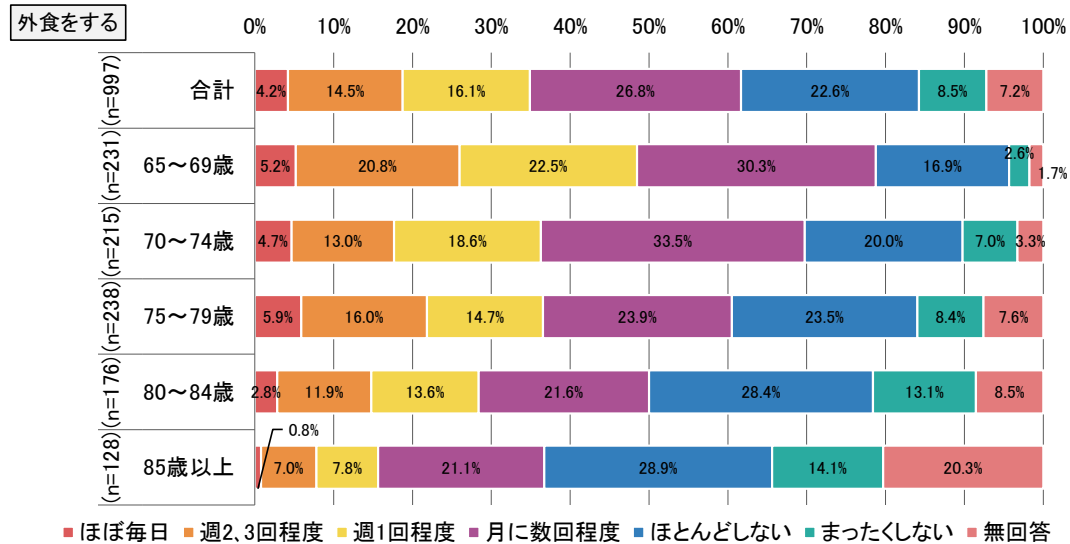
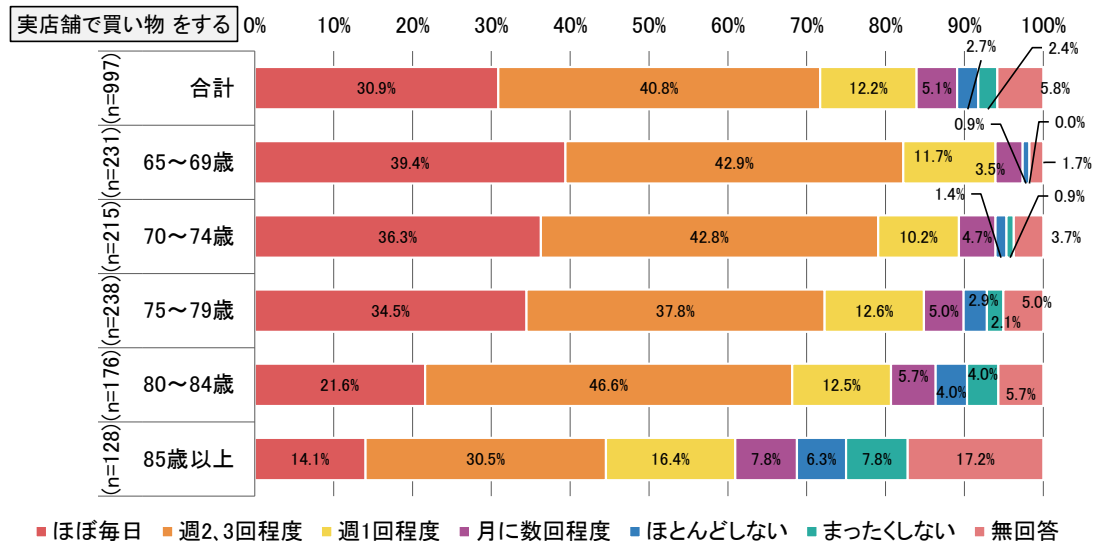
図表 2-3 9 普段の活動の実施頻度（単一回答）

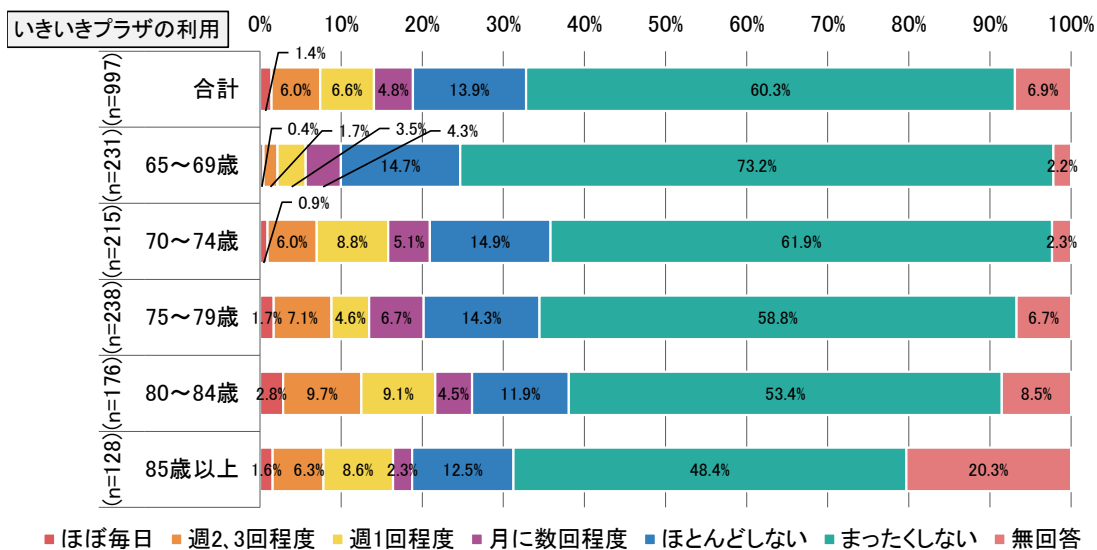
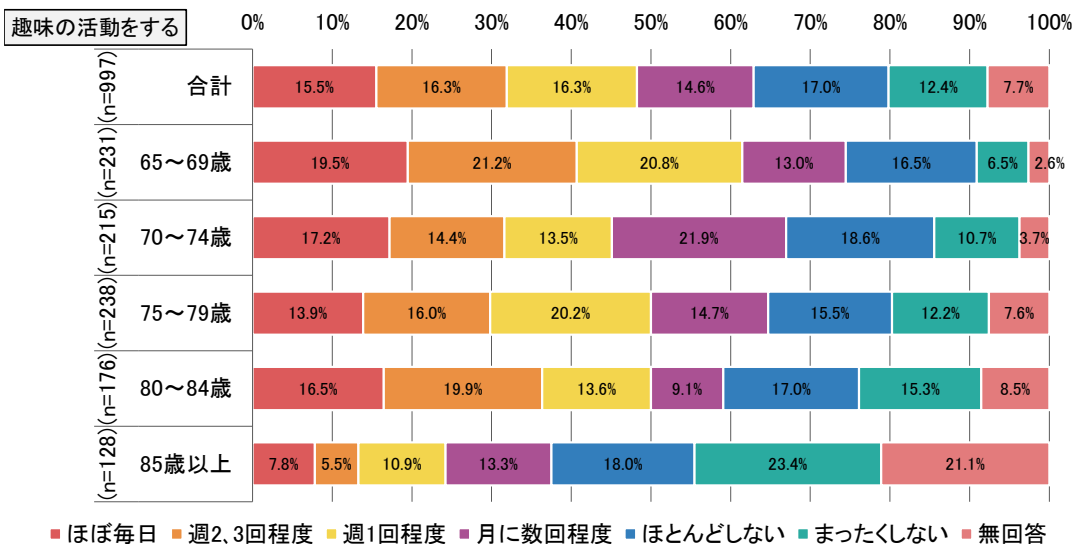
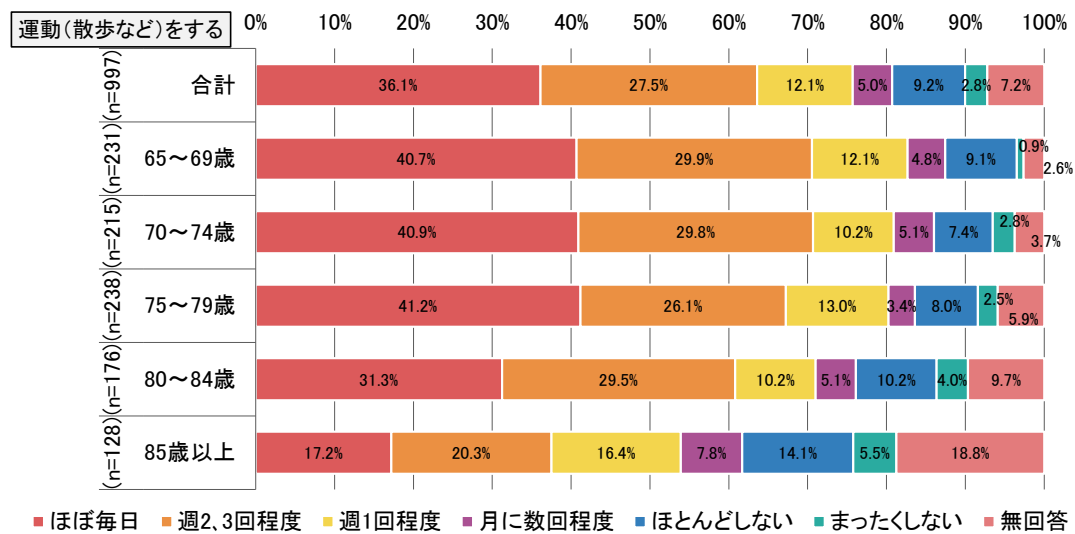


2) 年代別

年代別に、普段の活動の実施頻度についてみると、「実店舗で買い物をする」「外食をする」「運動（散歩など）をする」「趣味の活動をする」については、おおむね年代が高まるにつれて実施頻度が低くなる。「いきいきプラザの利用」については、「80～84歳」までおおむね年代が高まるにつれて実施頻度が高くなり、「85歳以上」では実施頻度が低くなる。

図表2-40 【年代別】普段の活動の実施頻度：実店舗で買い物をする（単一回答）

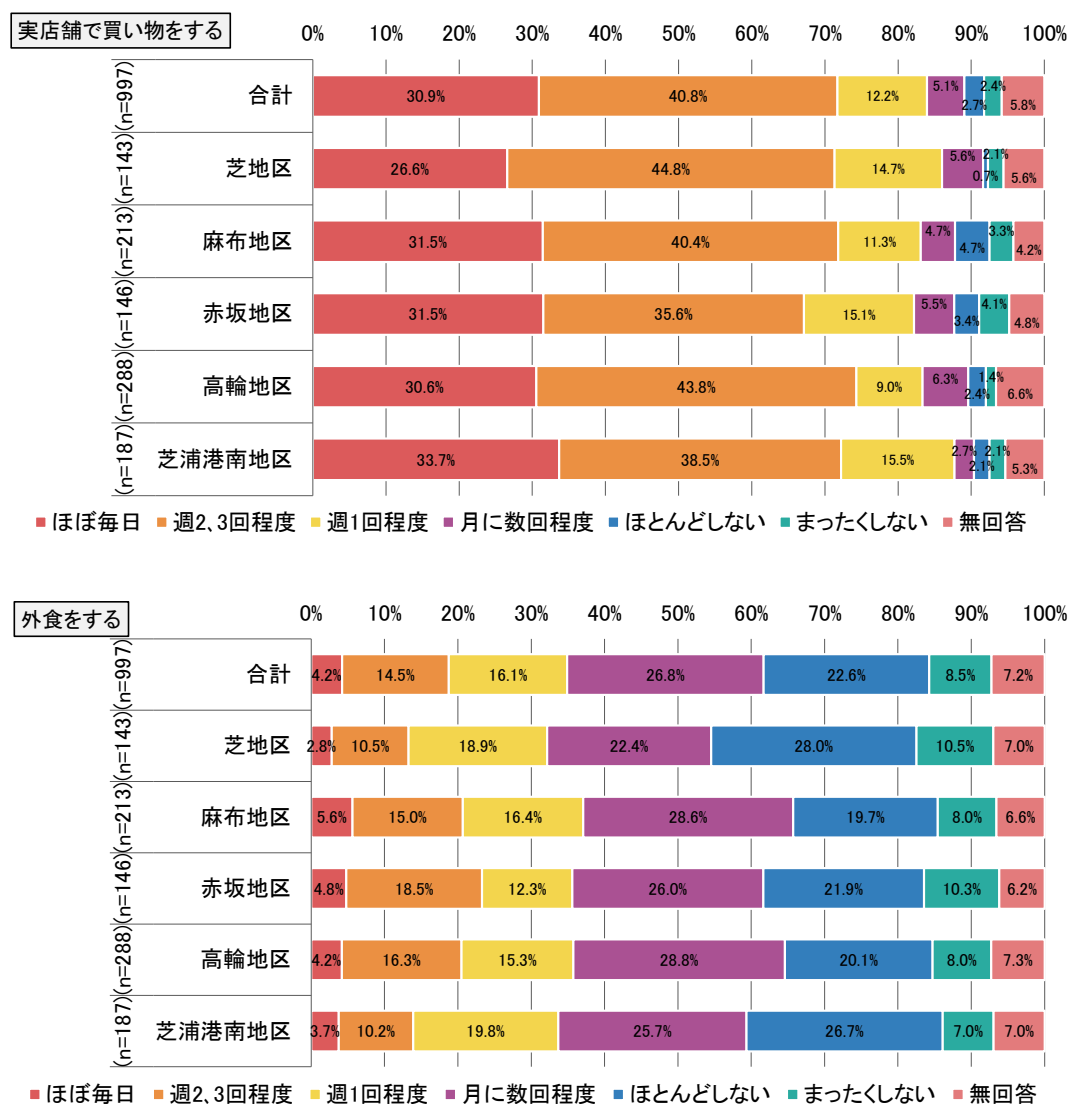




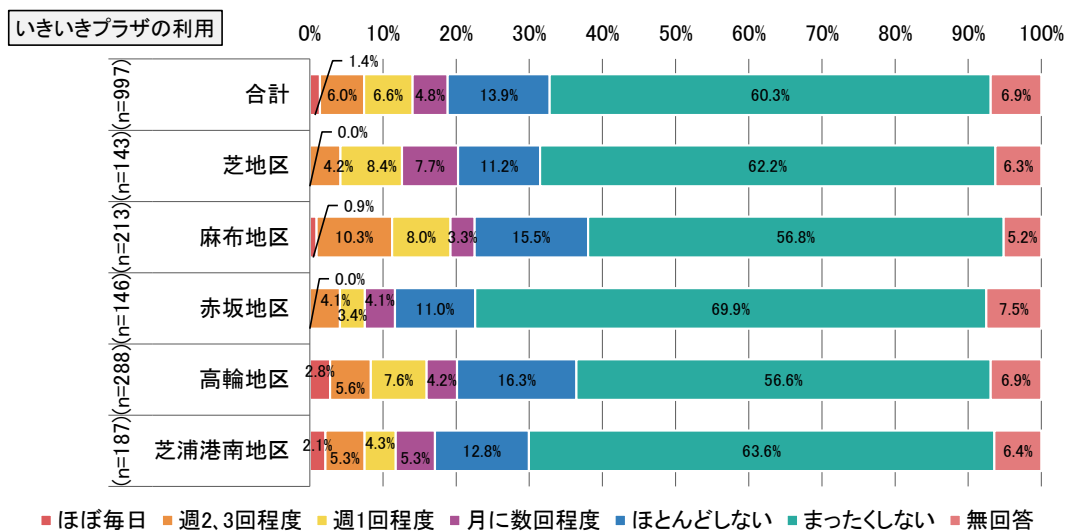
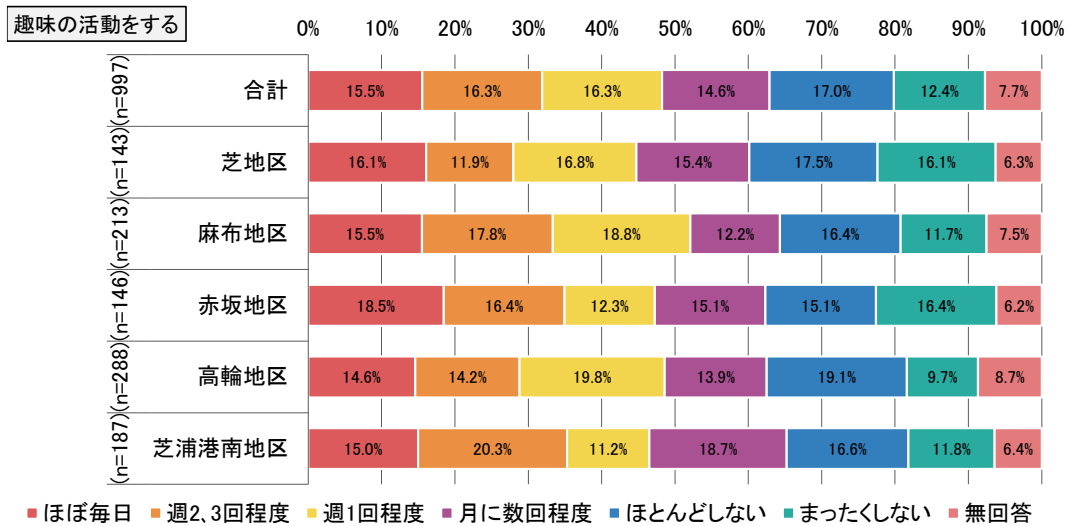
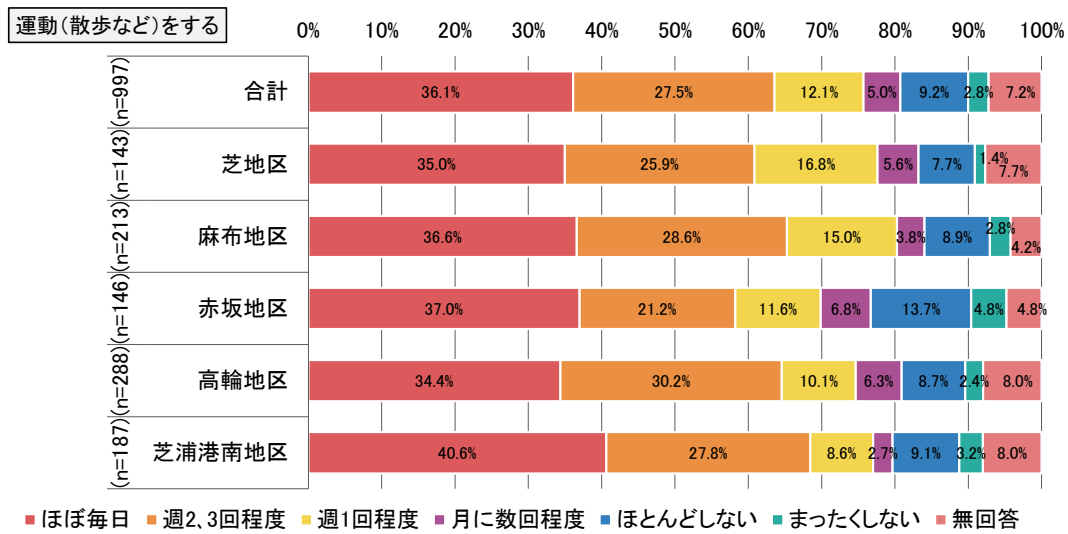
3) 地区別

地区別に、普段の活動の実施頻度をみると、「外食をする」については「芝地区」「芝浦港南地区」において他の地区より実施割合が低く、「運動（散歩など）をする」については「赤坂地区」において他の地区より実施割合が低い。また、いきいきプラザ⁴の利用頻度について週1回程度以上の合計をみると、「麻布地区」が19.2%で最も高く、次いで「高輪地区（16.0%）」「芝地区（12.6%）」「芝浦港南地区（11.8%）」「赤坂地区（7.5%）」である。

図表2-41 【地区別】普段の活動の実施頻度（単一回答）



⁴ 選択肢に挙げた公共施設のうち、最も施設数が多く、区内に点在している施設である。

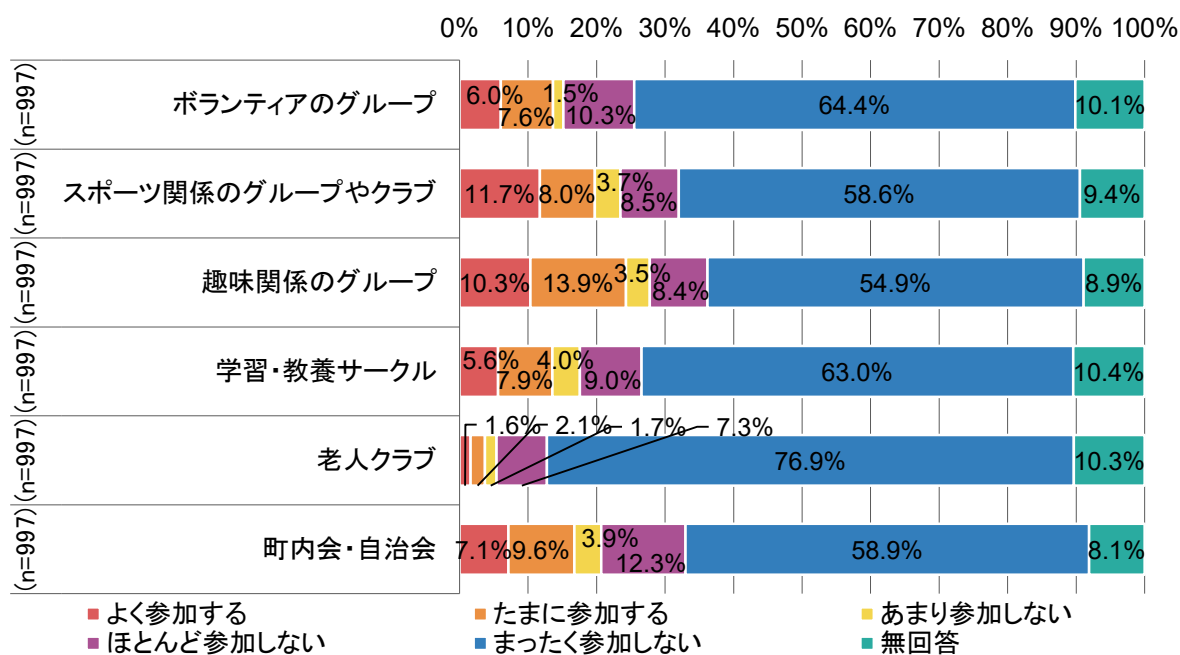


③ 地域の活動への参加頻度

1) 全体

地域の活動への参加頻度について、「よく参加する」の割合をみると、「スポーツ関係のグループやクラブ」が11.7%で最も割合が高い。次いで「趣味関係のグループ」が10.3%である。

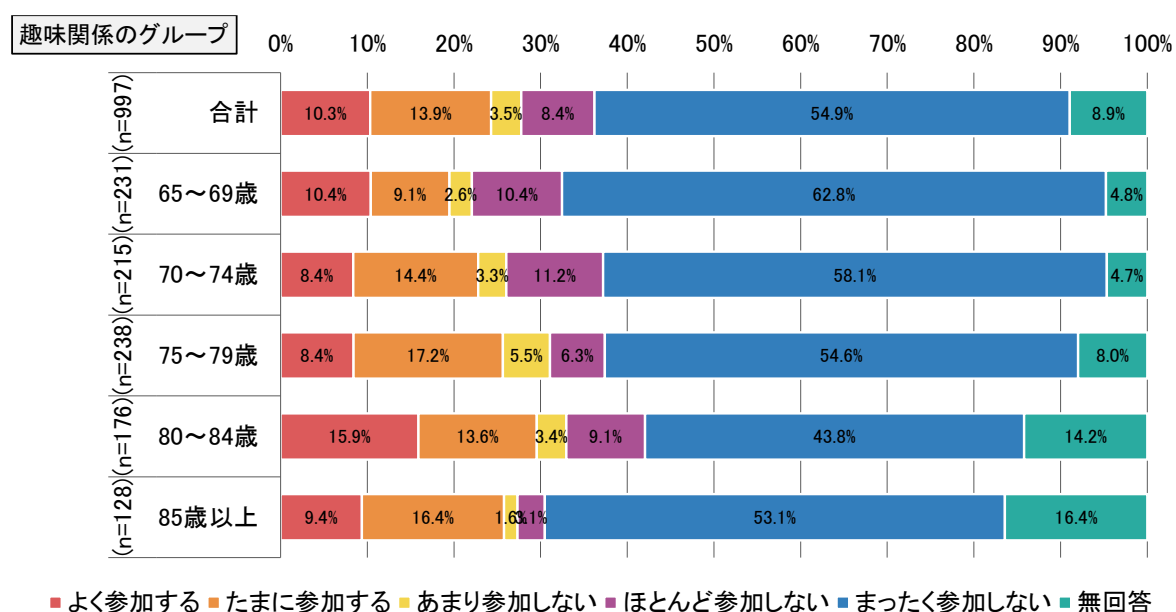
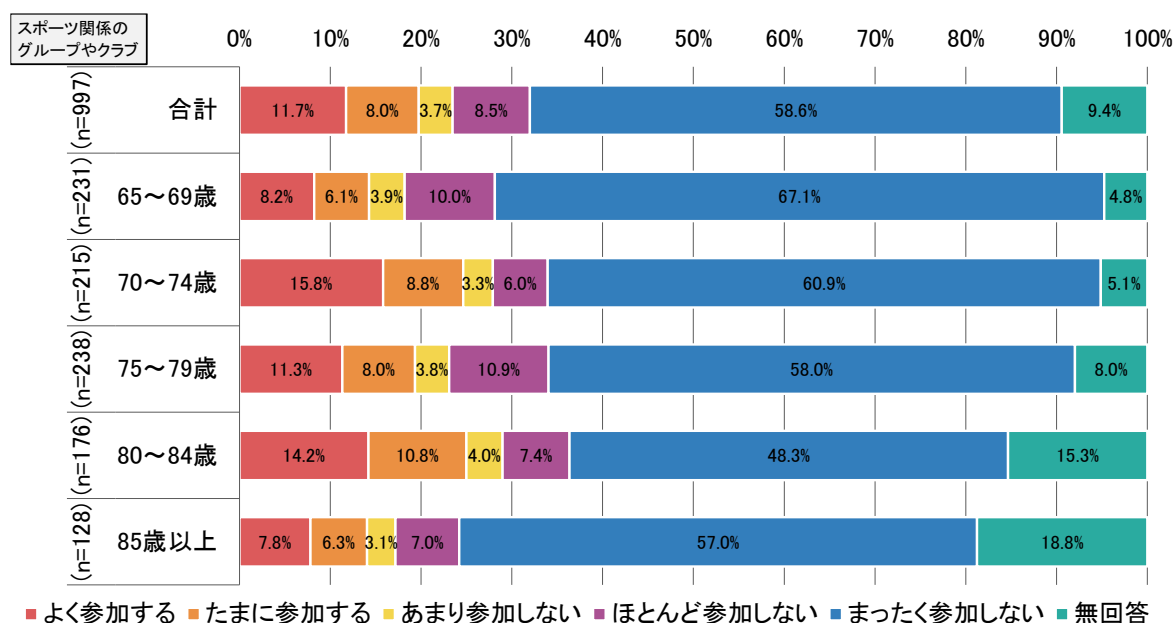
図表2-42 地域の活動への参加頻度（単一回答）

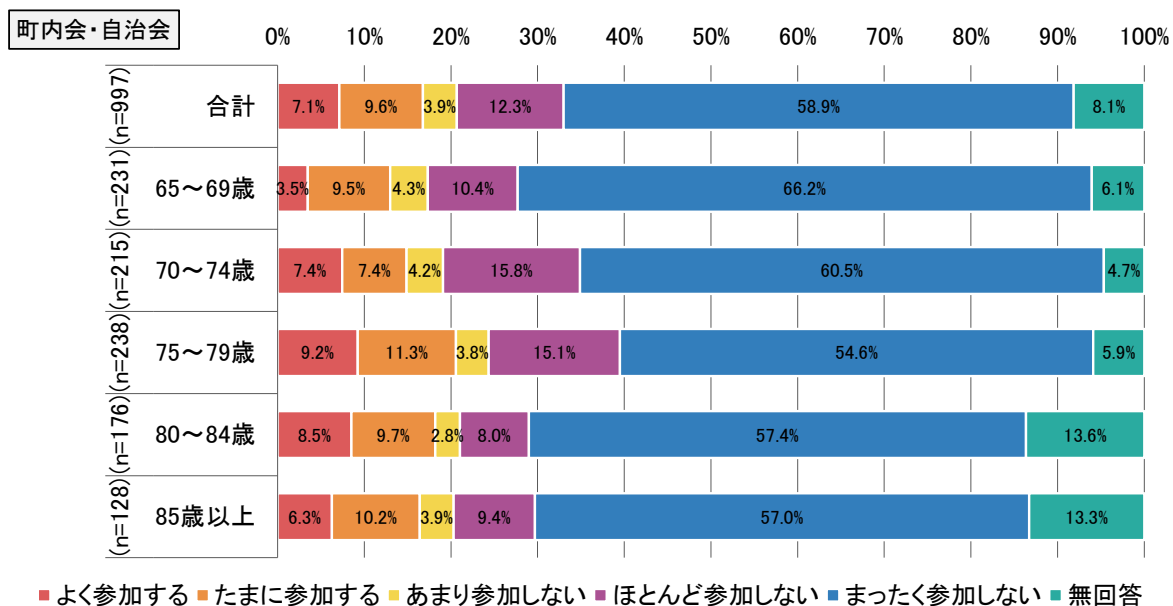


2) 年代別

年代別に、地域の活動への参加頻度をみると、「スポーツ関係のグループやクラブ」については、70～84 歳において参加頻度が高く、「65～69 歳」「85 歳以上」では参加頻度が低い。「趣味関係のグループ」については、おおむね「80～84 歳」までは年代が高まるにつれて参加頻度が高くなり、「85 歳以上」では参加頻度が低くなる。「町内会・自治会」については、おおむね「75～79 歳」までは年代が高まるにつれて参加頻度が高くなり、「80 歳以上」では参加頻度が低くなる。

図表 2-4 3 【年代別】地域の活動への参加頻度（単一回答）

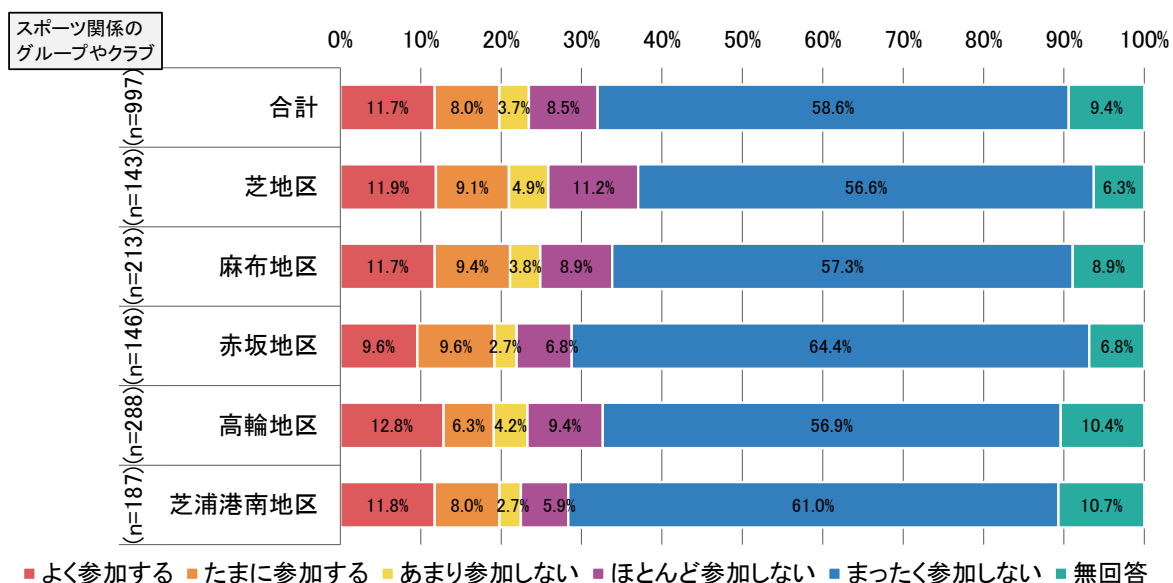


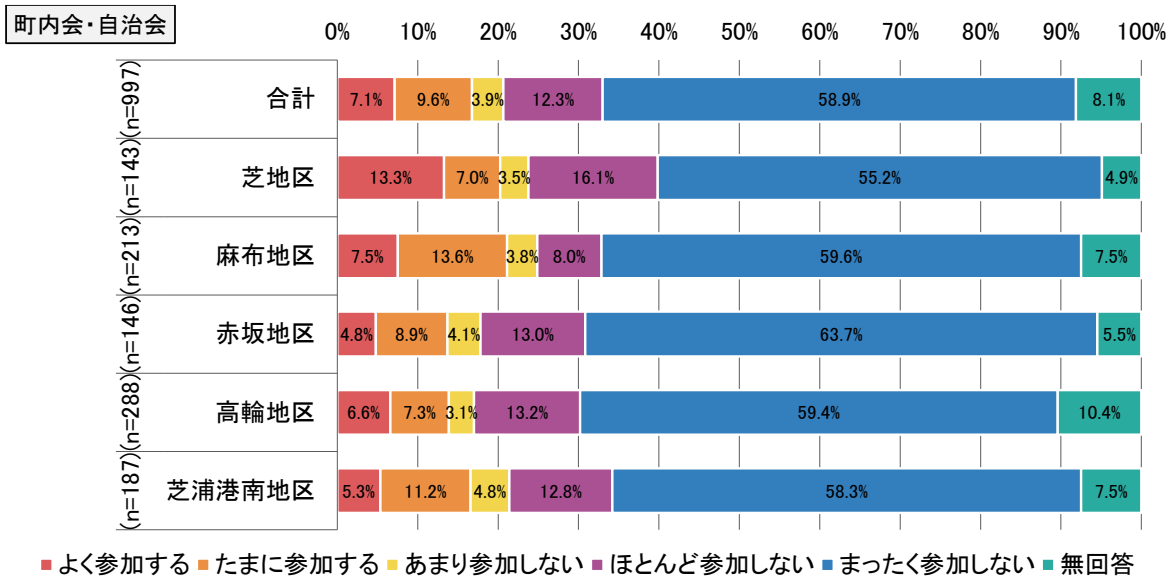
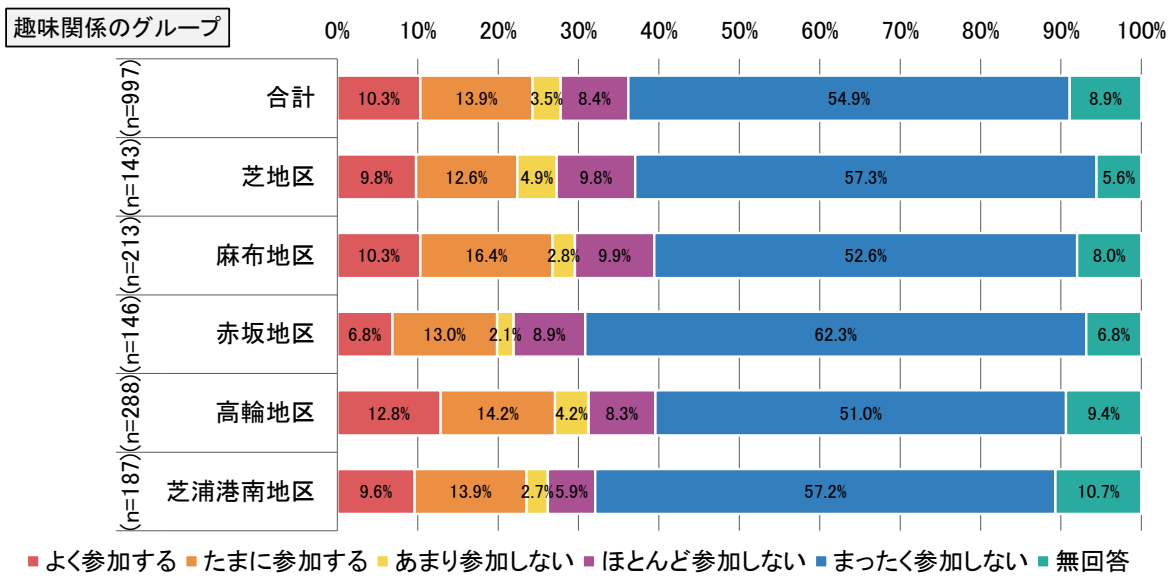


3) 地区別

地区別に、地域の活動への参加頻度について「よく参加する」「たまに参加する」の合計をみると、「趣味関係のグループ」については、「高輪地区」が27.1%と最も高く、次いで「麻布地区（26.8%）」「芝浦港南地区（23.5%）」「芝地区（22.4%）」「赤坂地区（19.9%）」である。「町内会・自治会」については、「麻布地区」が21.1%と最も高く、「芝地区（20.3%）」「芝浦港南地区（16.6%）」「高輪地区（13.9%）」「赤坂地区（13.7%）」である。

図表2-44 【地区別】地域の活動への参加頻度（単一回答）

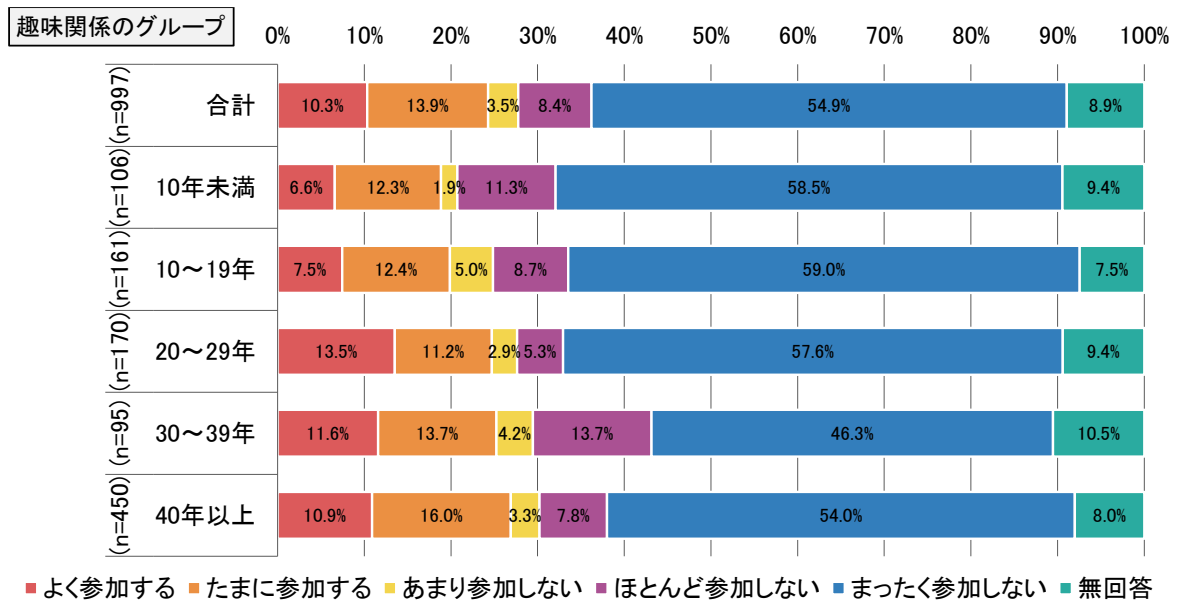
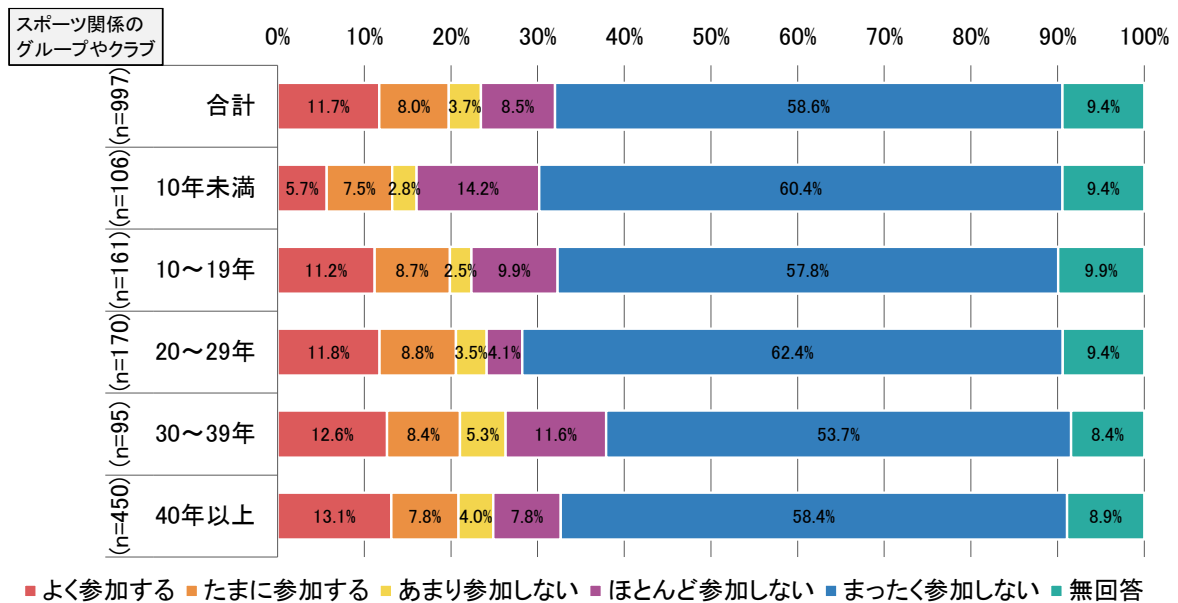


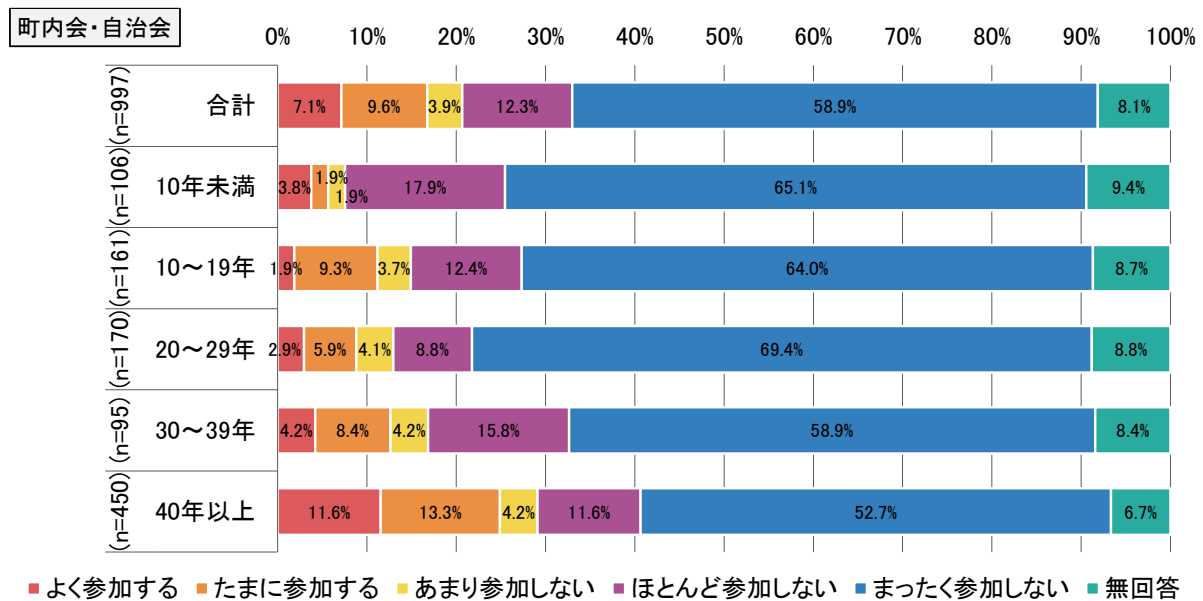


4) 居住歴別

居住歴別に、地域の活動への参加頻度についてみると、「スポーツ関係のグループやクラブ」においては居住歴 10 年以上、「趣味関係のグループ」については居住歴 20 年以上において参加頻度が高い。また、「町内会・自治会」については、居住歴が長くなるにつれて参加頻度が高まる。

図表 2-4 5 【居住歴別】地域の活動への参加頻度（単一回答）



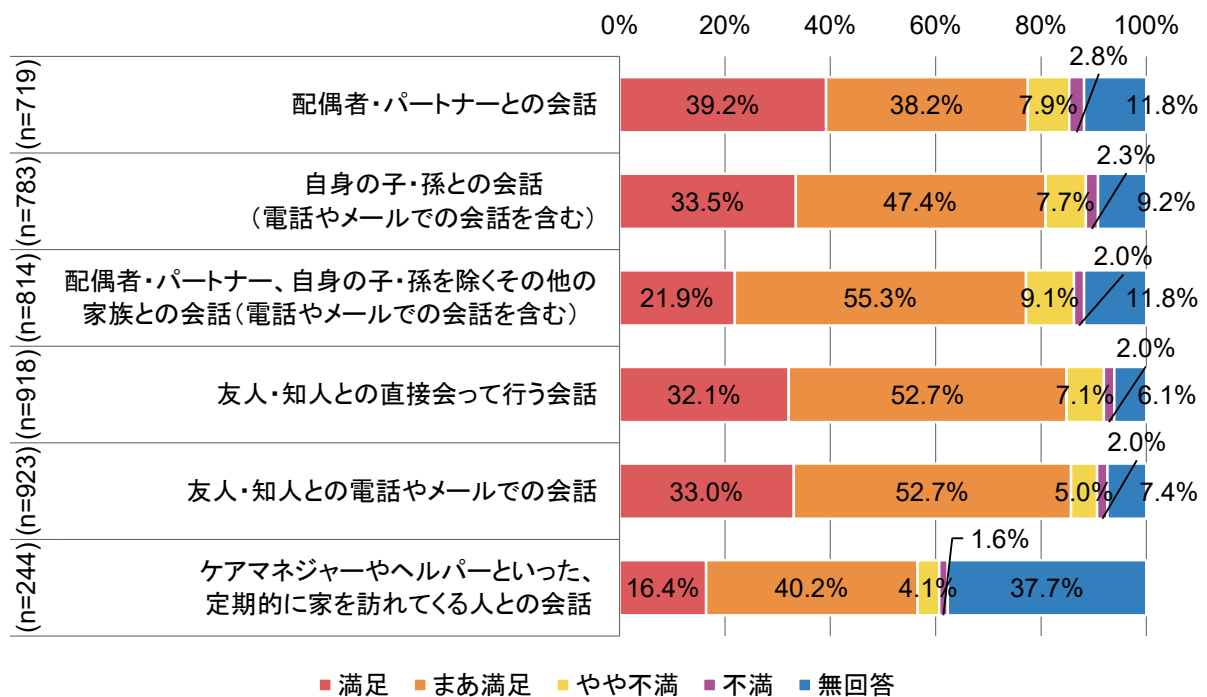


④ 普段のコミュニケーションの満足度

1) 全体

普段のコミュニケーションの満足度について、「満足」「まあ満足」の合計をみると、「友人・知人との電話やメールでの会話」が85.7%で最も高い。次いで「友人・知人との直接会って行う会話」が84.9%である。

図表2-46 (該当する相手がいる場合のみ) 普段のコミュニケーションの満足度(単一回答)

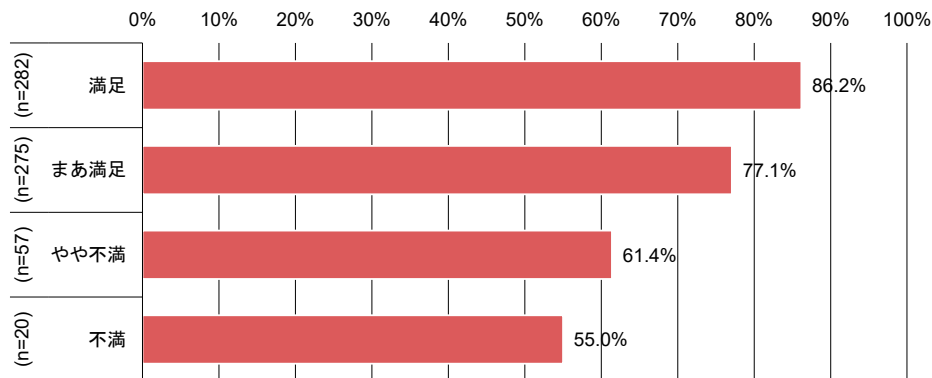


2) 配偶者・パートナーとの会話の満足度と詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として

同居人（配偶者・パートナー）を思い浮かぶ割合

配偶者・パートナーとの会話の満足度と、相談する相手として同居人（配偶者・パートナー）を思い浮かぶ割合についてその関係を見ると、会話の満足度が高いほど、相談する相手として同居人（配偶者・パートナー）を思い浮かぶ割合が高い。

図表 2-4 7 配偶者・パートナーとの会話の満足度と詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として同居人（配偶者・パートナー）を思い浮かぶ割合

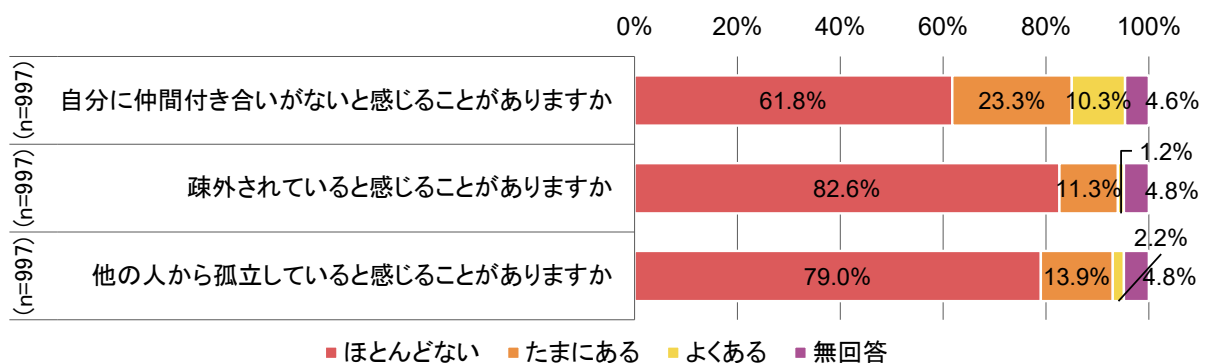


⑤ 普段の生活の場面で感じること

1) 全体

普段の生活の場面で感じることについて、「よくある」の割合をみると、「自分に仲間付き合いがないと感じる」が 10.3%、「他の人から孤立していると感じる」が 2.2%、「疎外されていると感じることがありますか」が 1.2%である。

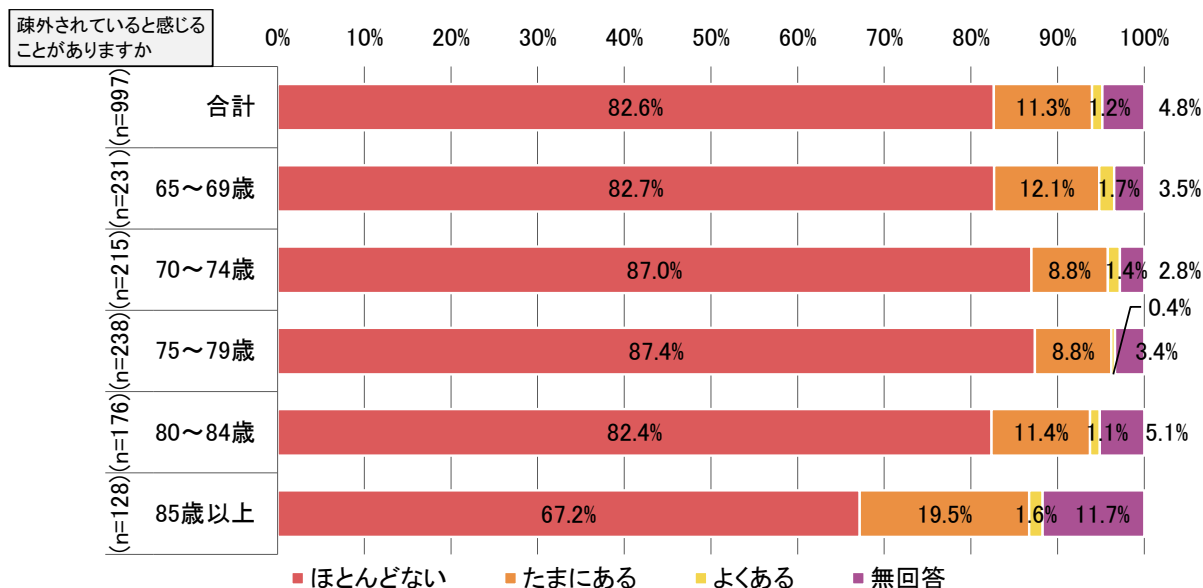
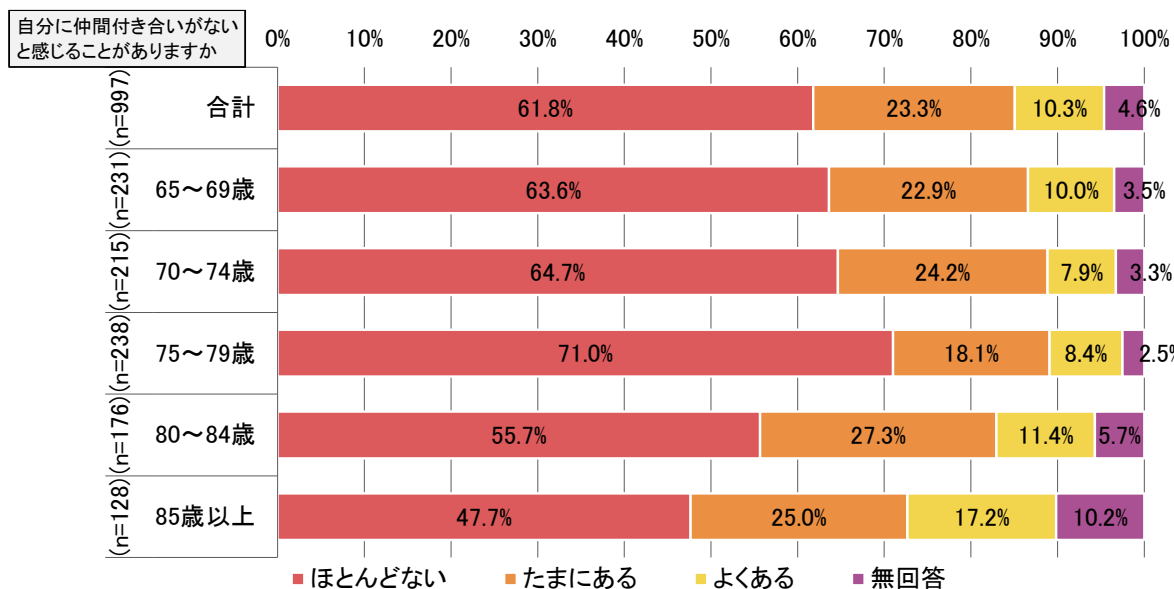
図表 2-4 8 普段の生活の場面で感じること（単一回答）

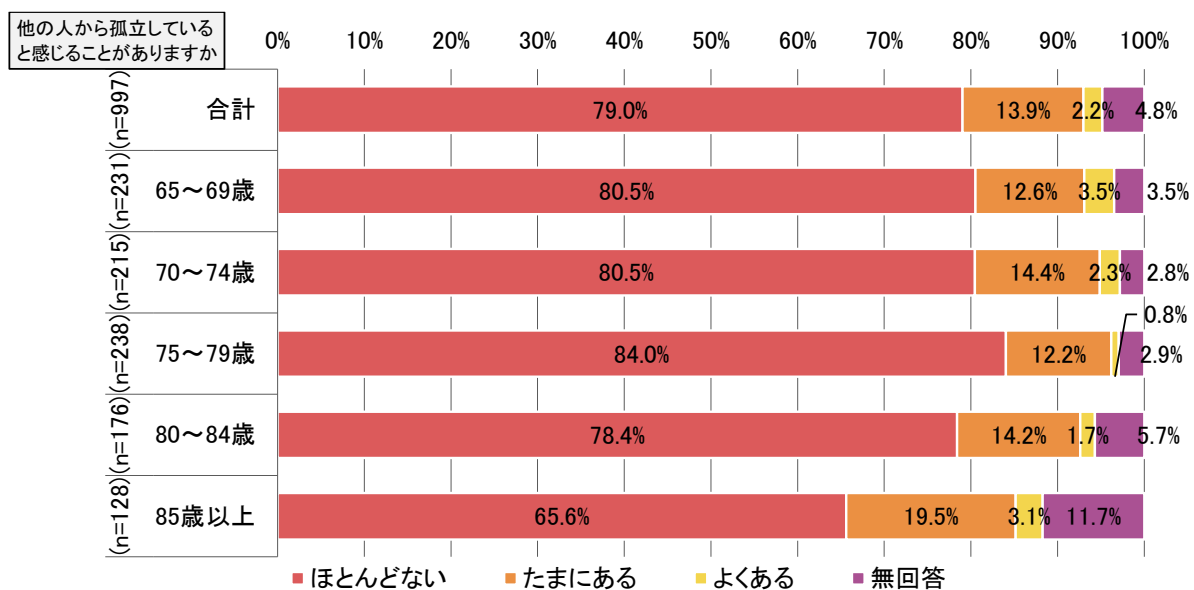


2) 年代別

年代別に、普段の生活の場面で「自分に仲間付き合いがないと感じること」「他の人から疎外されていると感じること」「他の人から孤立していると感じること」について、おおむね「75～79 歳」以降年代が高まるにつれて、「たまにある」「よくある」の割合が高まる。

図表2-4 9 【年代別】普段の生活の場面で感じること（単一回答）

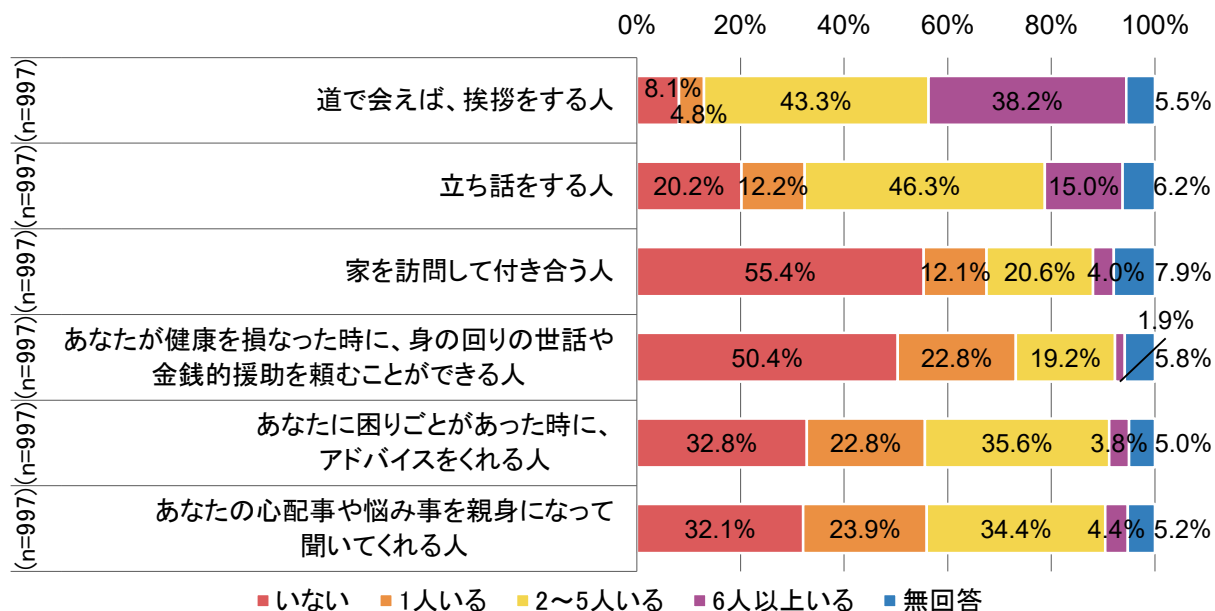




⑥ 地域の人との関わり

地域の人との関わりについて、「1人いる」「2～5人いる」「6人以上いる」の合計をみると、「道で会えば、挨拶をする人」が86.4%で最も割合が高く、次いで「立ち話をする人」が73.6%、「あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人」が62.7%、「あなたに困りごとがあった時に、アドバイスをくれる人」が62.2%である。

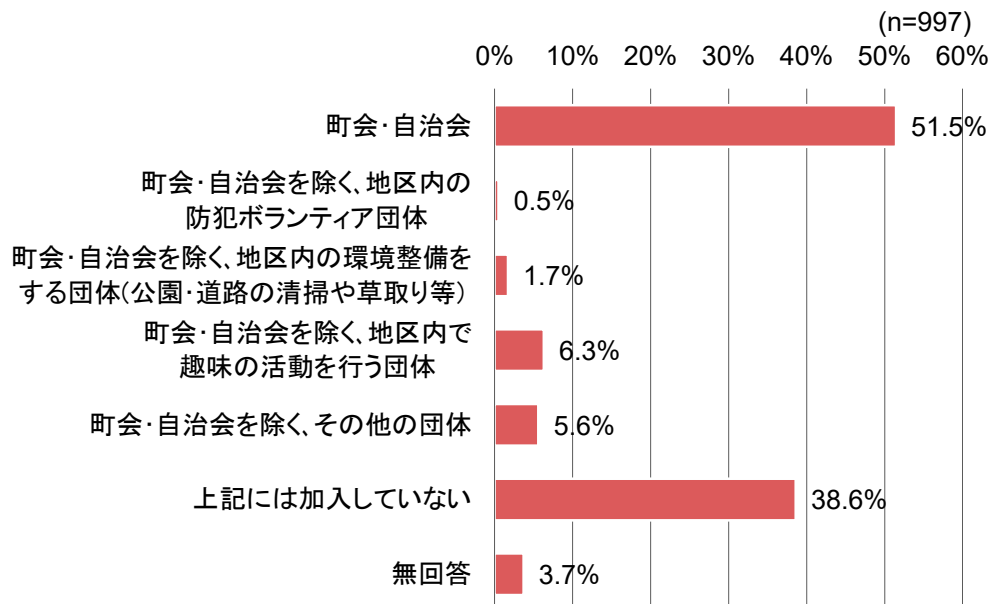
図表2-50 地域の人との関わり（単一回答）



⑦ 居住地区で加入・参加している団体

居住地区で加入・参加している団体について、「町会・自治会」が51.5%であり、38.6%がいずれの団体にも加入・参加していない。

図表2-5 1 居住地区で加入・参加している団体（複数回答）



⑧ 小括

- ✓ 現在の健康状態は、まあよい以上が54.6%、普通以上は79.7%であった。
- ✓ 普段の活動の頻度について、実店舗での買い物を週2、3回以上する割合は71.7%であり、運動（散歩など）を週2、3回以上する割合は63.6%であった。
- ✓ 区の公共施設（いきいきプラザ、スポーツセンター、ヘルシーナ、図書館、生涯学習施設）については、まったく利用しない割合がいずれの施設でも最も高い。
- ✓ 実店舗での買い物、外食、運動、趣味の活動は年代が上がるにつれて実施頻度が低くなり、いきいきプラザの利用は年代が上がるにつれて利用頻度が高くなる。
- ✓ 地域活動への参加状況についてみると、いずれもまったく参加しない割合が最も高い。よく参加する、たまに参加するの合計が最も高いのは趣味関係のグループであるが、24.2%に留まった。
- ✓ 町内会・自治会については、居住歴が長くなるにつれて、参加割合が高まる。
- ✓ 配偶者・パートナーとの会話や子・孫との会話、友人・知人との会話などの満足度（満足・まあ満足の合計）はいずれも半数を超えている。家族よりも友人・知人とのコミュニケーションに満足している割合が高い。
- ✓ 疎外感や孤立感がある人の割合は低いですが、仲間付き合いがないと感じる人については疎外感や孤立感がある人の割合に比べやや高い傾向にある。
- ✓ 多くの区民が、道で会えば挨拶をする人や立ち話をする人が1人以上はいるとしている。他方で、家を訪問して付き合う人については、いない割合が半数を超えている。

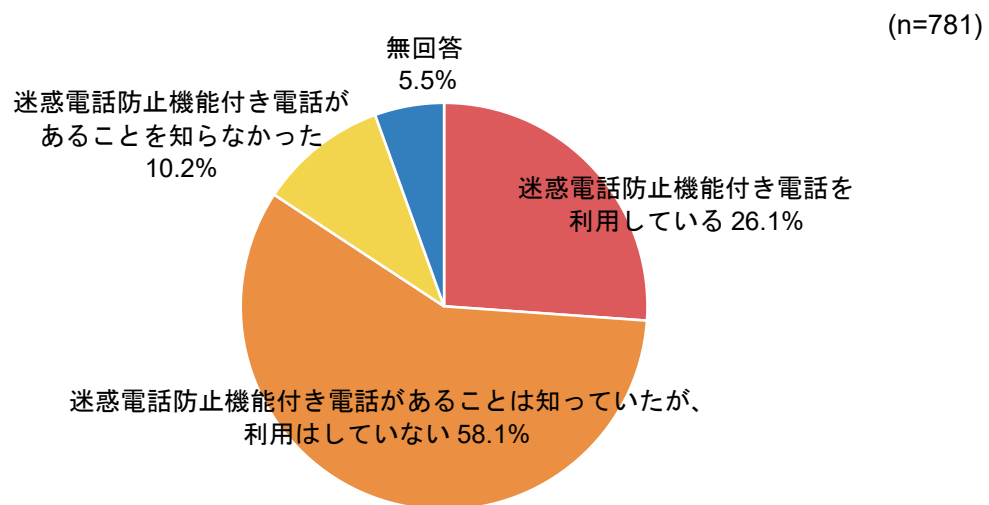
(4) 特殊詐欺への対策について

① 迷惑電話を防止する機能付き電話の利用

1) 全体

迷惑電話を防止する機能付き電話の利用について、「迷惑電話防止機能付き電話を利用している」が26.1%、「迷惑電話防止機能付き電話があることは知っていたが、利用はしていない」が58.1%、「迷惑電話防止機能付き電話があることを知らなかった」が10.2%である。

図表2-52 (固定電話を持っている人のみ) 迷惑電話を防止する機能付き電話の利用(単一回答)

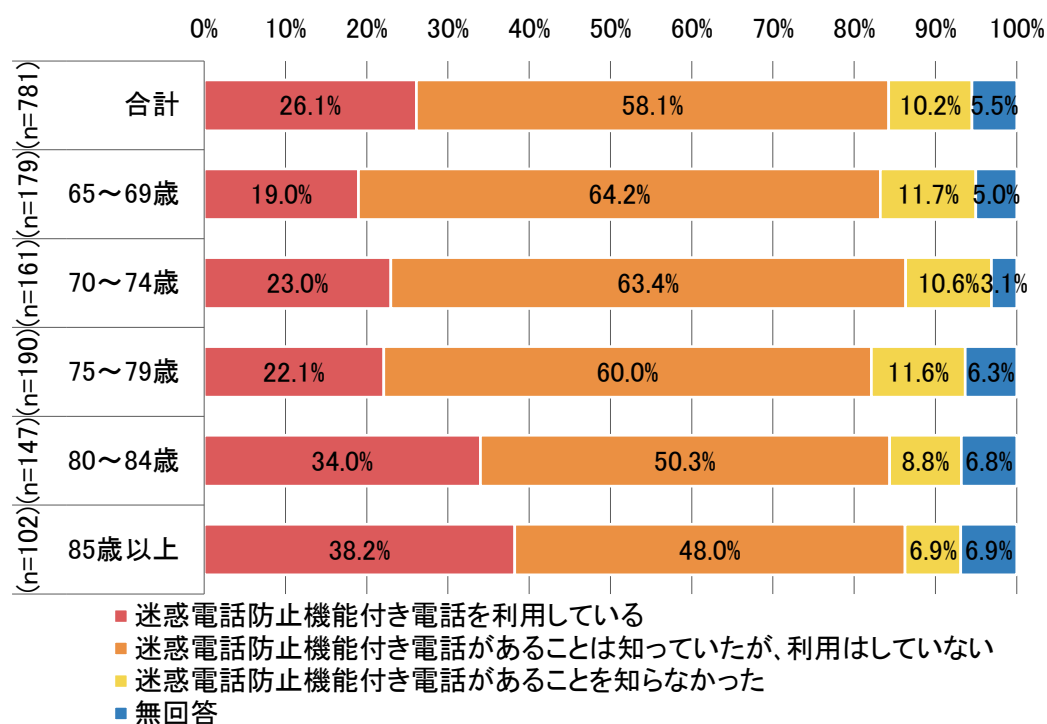


2) 年代別

年代別に、迷惑電話を防止する機能付き電話の利用についてみると、「迷惑電話防止機能付き電話を利用している」割合は、「65～79歳」においては20％程度である一方で、「80～84歳」は34.0%、「85歳以上」は38.2%である。

図表2-53 【年代別】（固定電話を持っている人のみ）

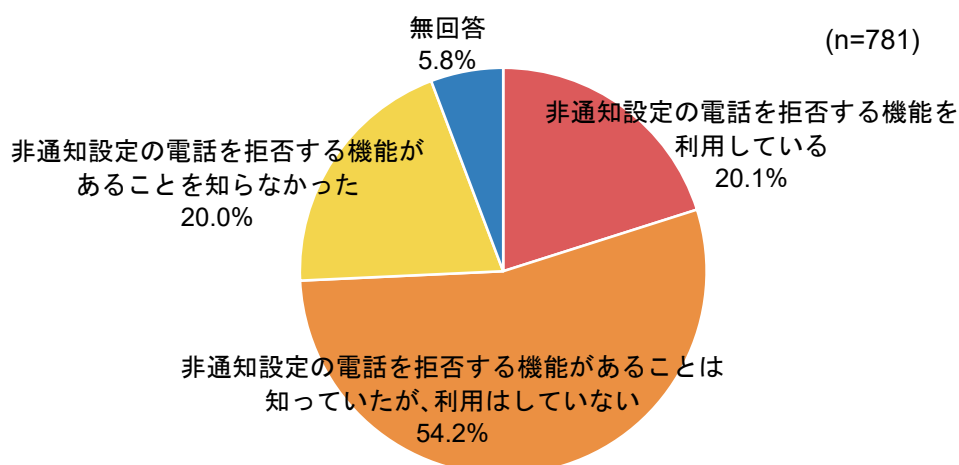
迷惑電話を防止する機能付き電話の利用（単一回答）



② ナンバーリクエスト等の機能の利用

ナンバーリクエスト等の機能の利用について、「非通知設定の電話を拒否する機能を利用している」が20.1%、「非通知設定の電話を拒否する機能があることは知っていたが、利用はしていない」が54.2%、「非通知設定の電話を拒否する機能があることを知らなかった」が20.0%である。

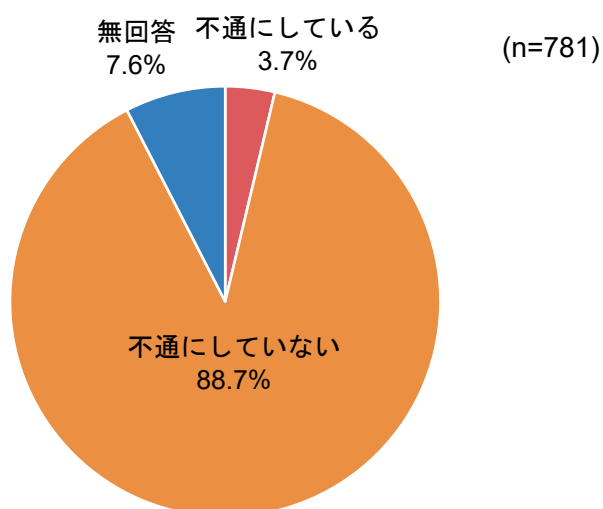
図表2-54 （固定電話を持っている人のみ）ナンバーリクエスト等の機能の利用（単一回答）



③ 国際電話の不通設定

国際電話の不通設定について、「不通にしている」が3.7%、「不通にしていない」が88.7%である。

図表2-55 （固定電話を持っている人のみ）国際電話の不通設定（単一回答）

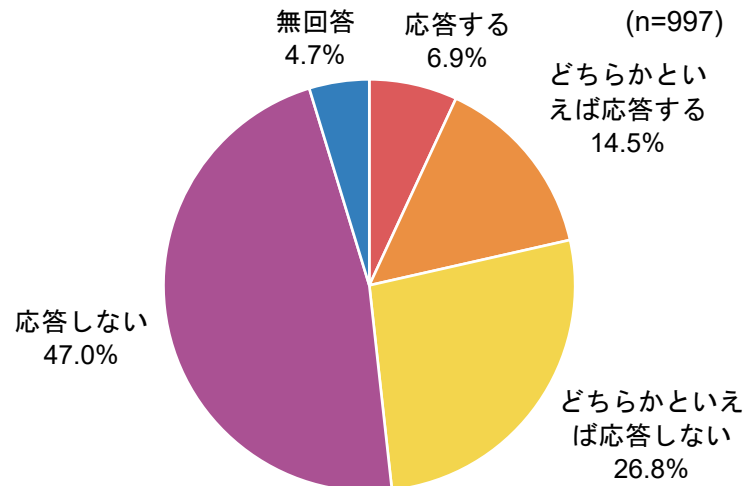


④ 知らない電話番号からの着信

1) 全体

知らない電話番号からの着信について、「応答する」が6.9%、「どちらかといえば応答する」が14.5%、「どちらかといえば応答しない」が26.8%、「応答しない」が47.0%である。

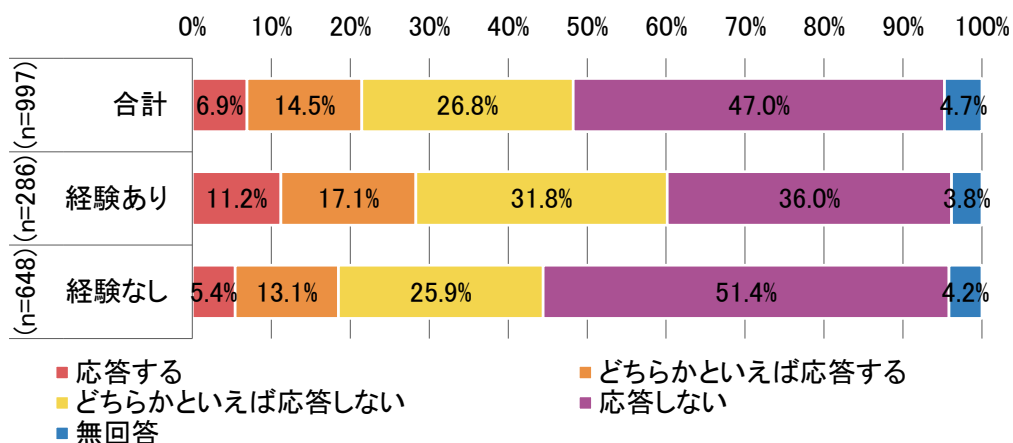
図表2-56 知らない電話番号からの着信（単一回答）



2) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別に、知らない電話番号からの着信についてみると、「経験あり」において「経験なし」よりも「応答する」「どちらかといえば応答する」の割合が高い。

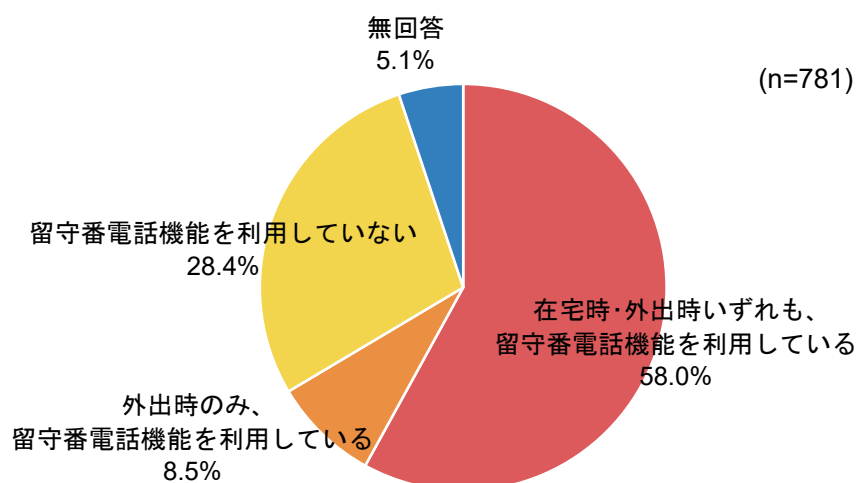
図表2-57 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別】知らない電話番号からの着信（単一回答）



⑤ 固定電話の留守番電話機能の利用

固定電話の留守番電話機能の利用について、「在宅時・外出時いずれも、留守番電話機能を利用している」が58.0%、「外出時のみ、留守番電話機能を利用している」が8.5%、「留守番電話機能を利用していない」が28.4%である。

図表2-58 (固定電話を持っている人のみ) 固定電話の留守番電話機能の利用(単一回答)

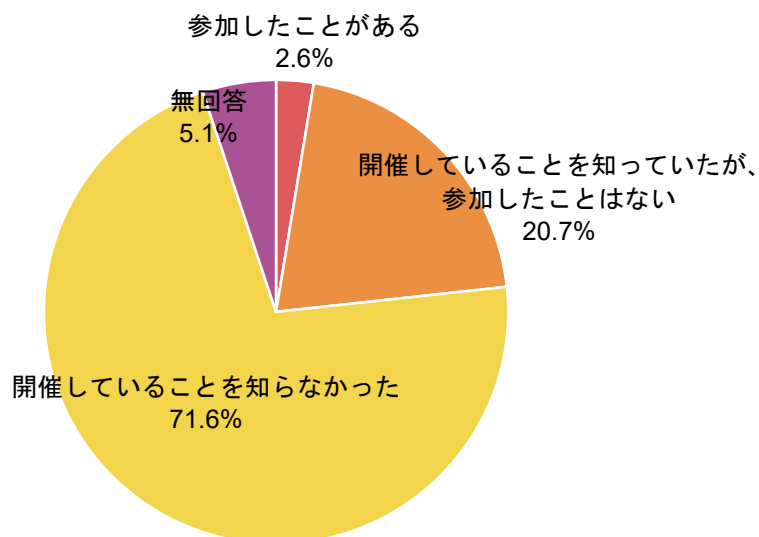


⑥ 港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加

1) 全体

港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加について、「参加したことがある」が2.6%、「開催していることを知っていたが、参加したことはない」が20.7%、「開催していることを知らなかった」が71.6%である。

図表2-59 港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加（単一回答）

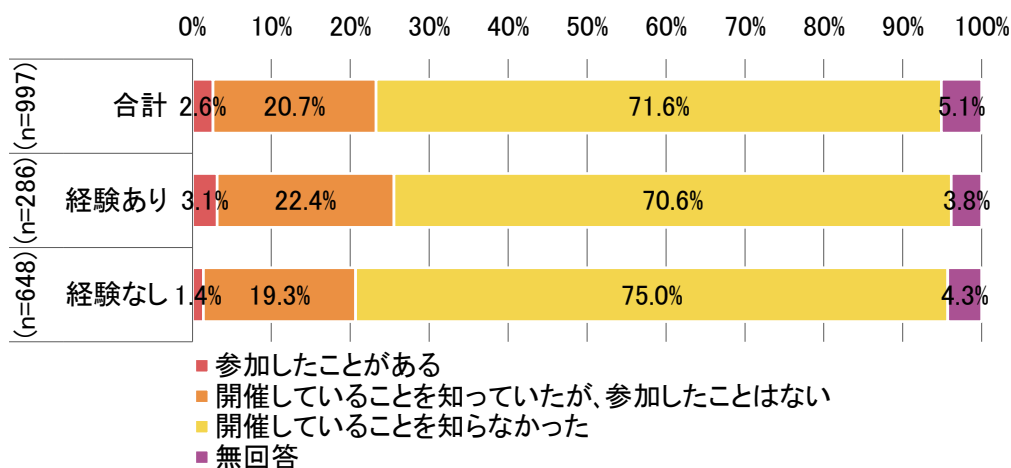


2) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別に、港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加についてみると、「経験あり」において「経験なし」よりも「参加したことがある」「開催していることを知っていたが、参加したことはない」の合計割合は4.8ポイント高く、「開催していることを知らなかった」の割合が4.4ポイント低い。

図表2-60 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別】

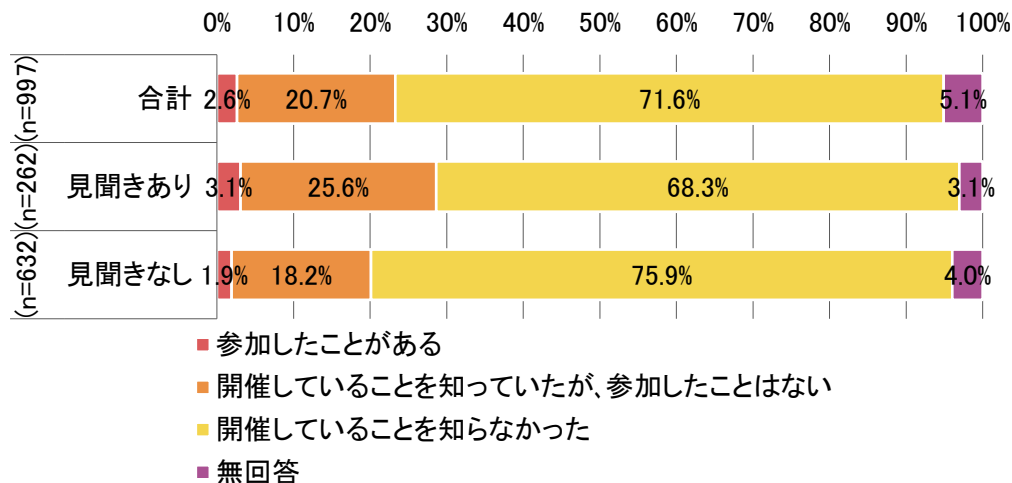
港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加（単一回答）



3) 被害の見聞き別

被害の見聞き別に、港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加についてみると、「見聞きあり」において、「見聞きなし」よりも「参加したことがある」「開催していることを知っていたが、参加したことはない」の合計割合は 8.6 ポイント高く、「開催していることを知らなかった」の割合が 7.6 ポイント低い。

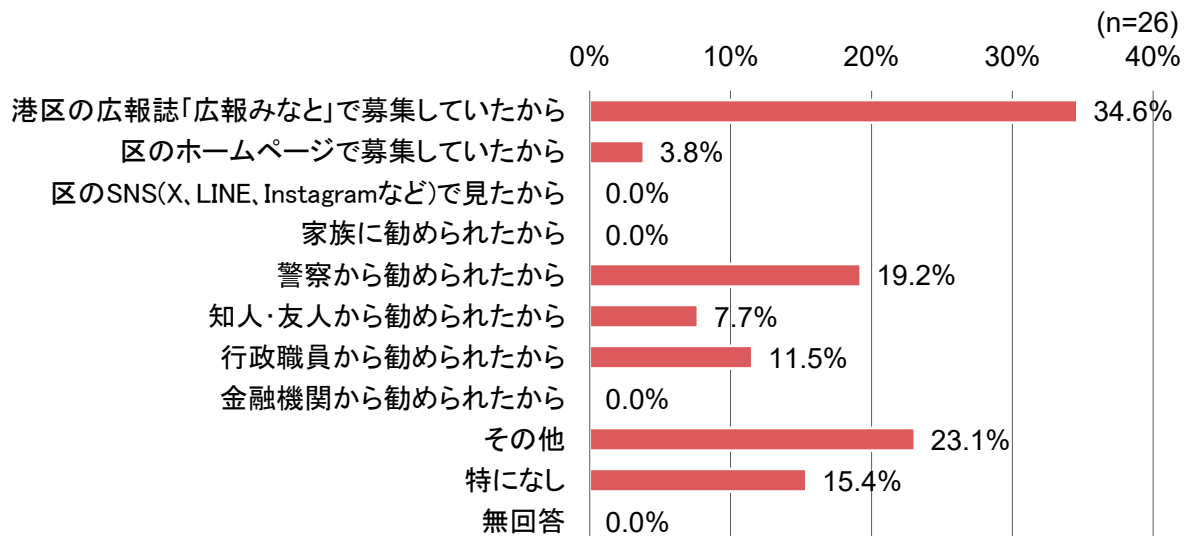
図表 2-6 1 【被害の見聞き別】港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加（単一回答）



⑦ 特殊詐欺被害防止講習会に参加したきっかけ

特殊詐欺被害防止講習会に参加したきっかけについて、「港区の広報誌『広報みなと』で募集していたから」が 34.6%、「警察から勧められたから」が 19.2%である。

図表 2-6 2 （特殊詐欺被害防止講習会に参加した人のみ）
特殊詐欺被害防止講習会に参加したきっかけ（単一回答）

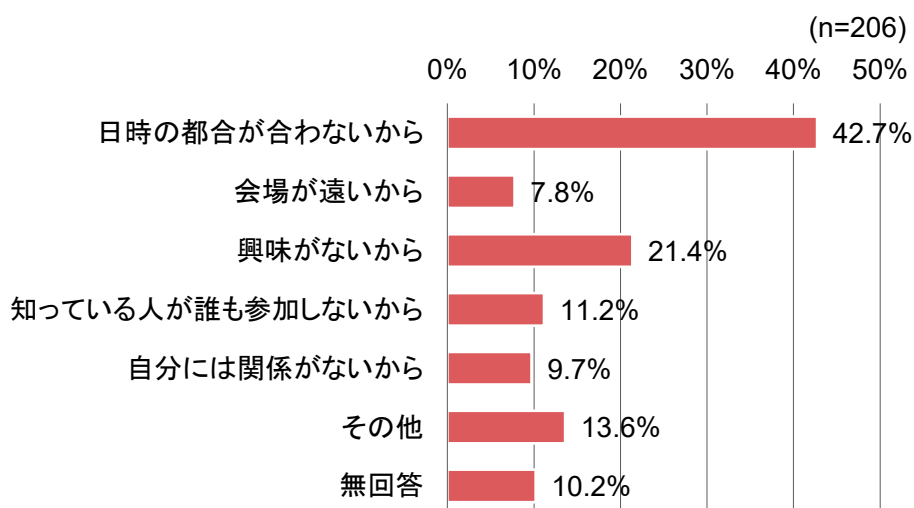


⑧ 特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由

1) 全体

特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由について、「日時の都合が合わないから」が42.7%、「興味がないから」が21.4%である。

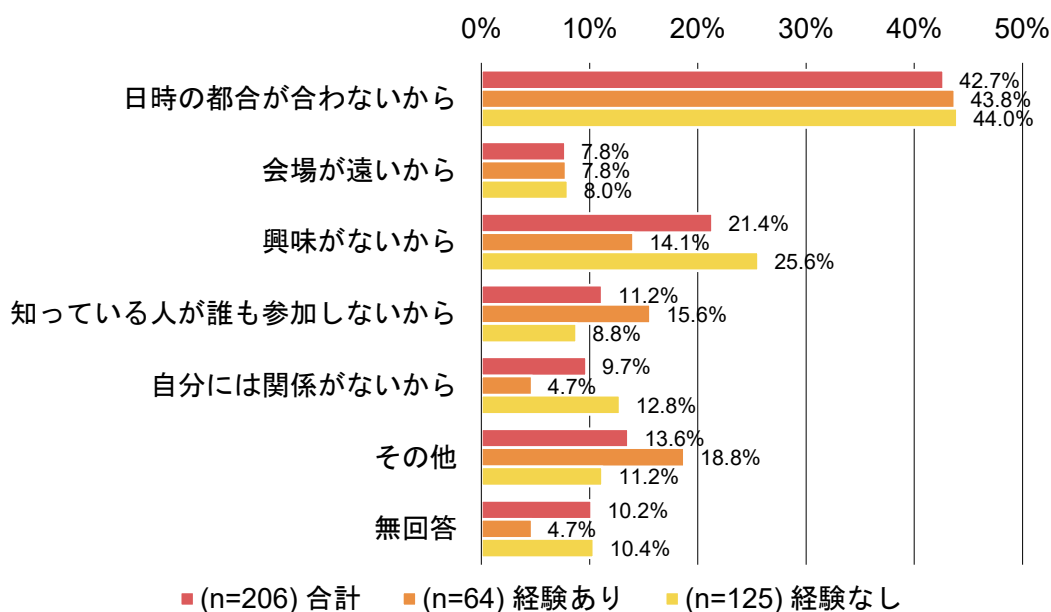
図表2-63 (特殊詐欺被害防止講習会が開催されていることを知っていたが、参加したことはない人のみ) 特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由(複数回答)



2) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別に、特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由についてみると、「経験あり」において「経験なし」よりも、「興味がないから」「自分には関係がないから」の割合は低く、「知っている人が誰も参加しないから」の割合が高い。

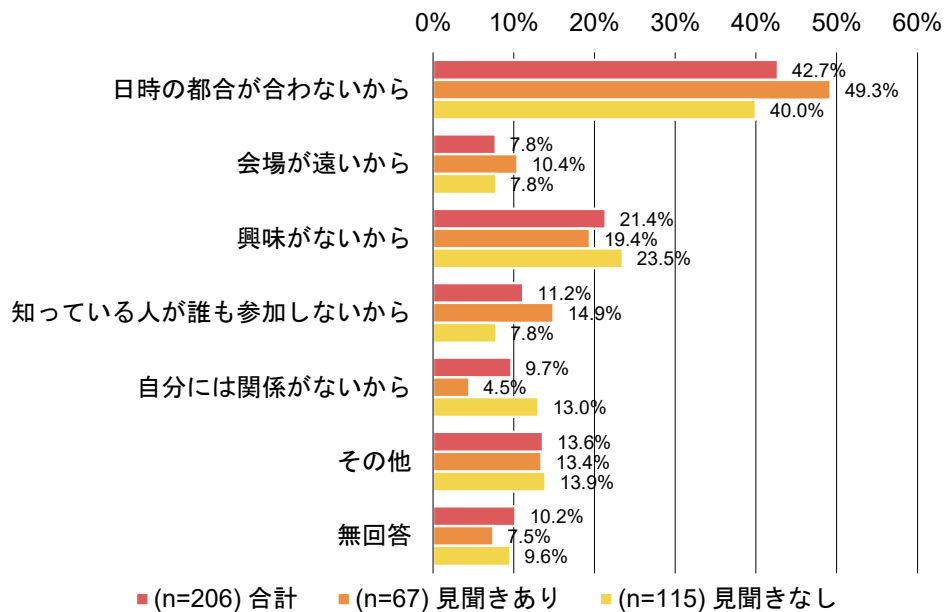
図表2-64 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別】
特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由(単一回答)



3) 被害の見聞き別

被害の見聞き別に、特殊詐欺被害防止講習会に参加したことがない理由についてみると、「見聞きあり」において「見聞きなし」よりも、「興味がないから」「自分には関係がないから」の割合は低く、「日時の都合が合わないから」「知っている人が誰も参加しないから」の割合が高い。

図表2-65 【被害の見聞き別】港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加（単一回答）

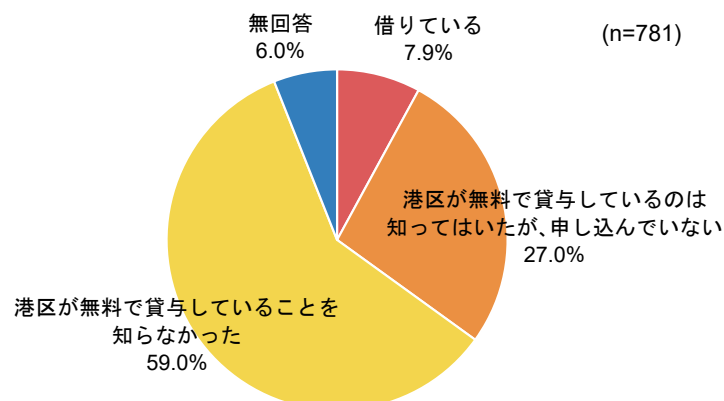


⑨ 港区で無料貸与している自動通話録音機

1) 全体

港区で無料貸与している自動通話録音機について、「借りている」が7.9%、「港区が無料で貸与しているのは知ってはいたが、申し込んでいない」が27.0%、「港区が無料で貸与していることを知らなかった」が59.0%である。

図表2-66 （固定電話を持っている人のみ）港区で無料貸与している自動通話録音機（単一回答）

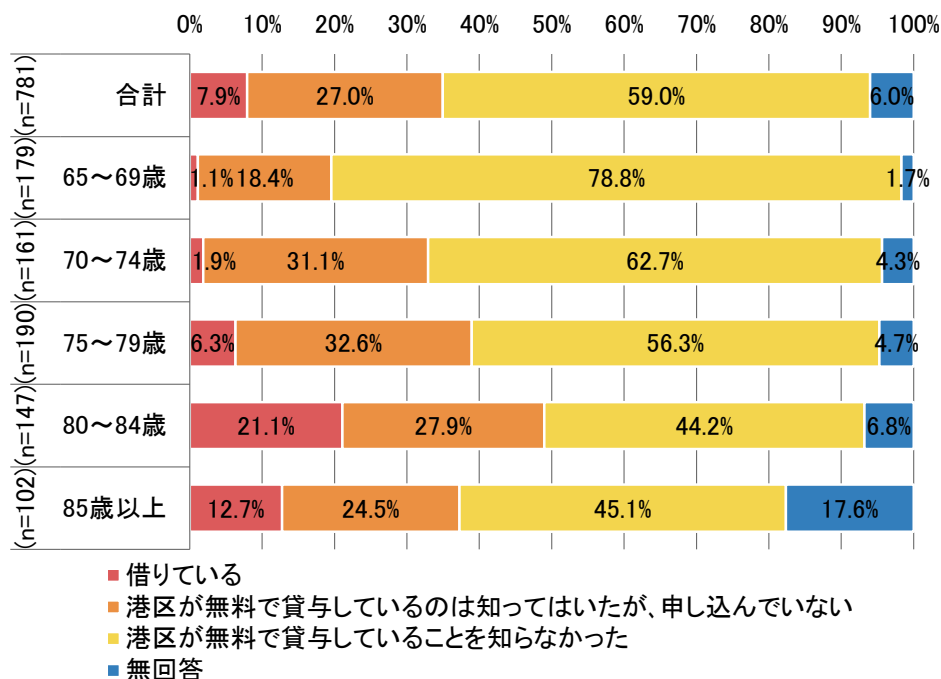


2) 年代別

年代別にみると、港区で無料貸与している自動通話録音機を「借りている」割合は「80～84歳」で21.1%、「85歳以上」で12.7%と他の年代より高い。

図表2-67 【年代別】（固定電話を持っている人のみ）

港区で無料貸与している自動通話録音機（単一回答）

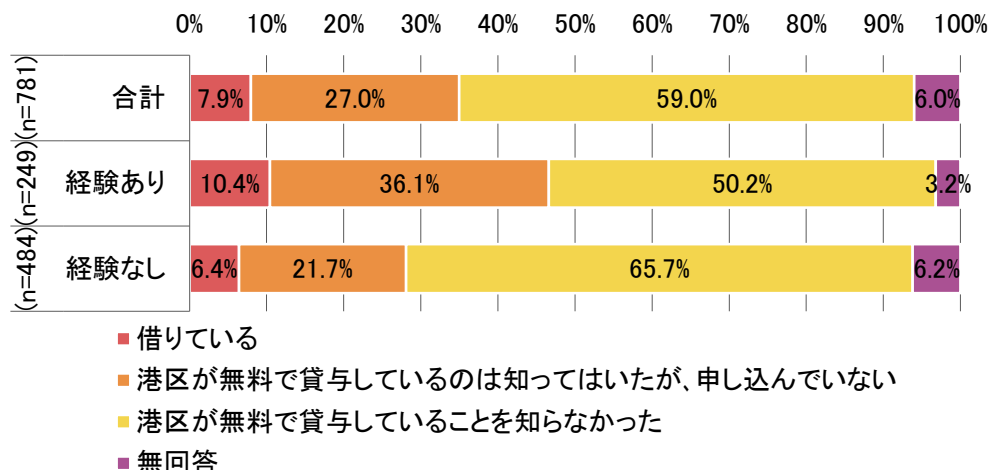


3) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験別

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験別に、港区で無料貸与している自動通話録音機についてみると、「経験あり」において「経験なし」よりも「借りている」「港区が無料で貸与しているのは知ってはいたが、申し込んでいない」の割合が高い。

図表2-68 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験別】

港区で開催している特殊詐欺被害防止講習会への参加（単一回答）

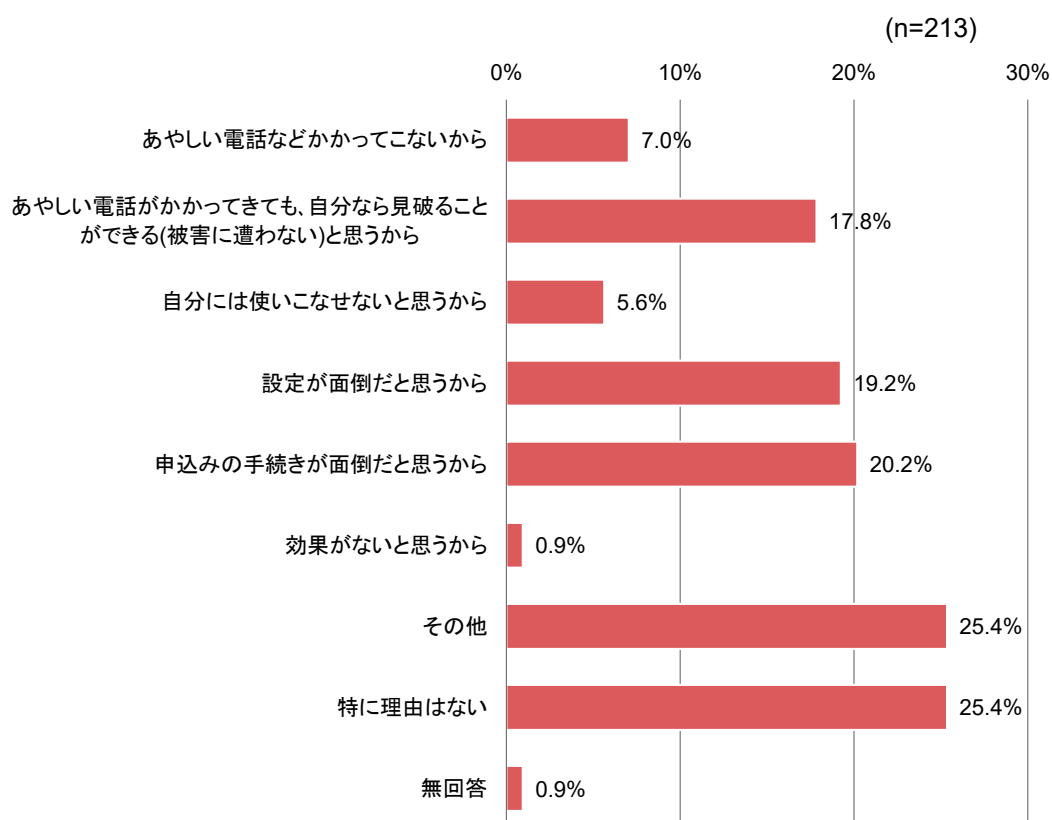


⑩ 自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由

1) 全体

自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由について、「特に理由はない」が 25.4%、「申込みの手続きが面倒だと思うから」が 19.2%、「設定が面倒だと思うから」が 20.2%、「あやしい電話がかかってきても、自分なら見破ることができる(被害に遭わない)と思うから」が 17.8% である。

図表2-69 (港区が無料で自動通話録音機を貸与していることは知ってはいたが、申し込んでいない人のみ) 自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由(単一回答)

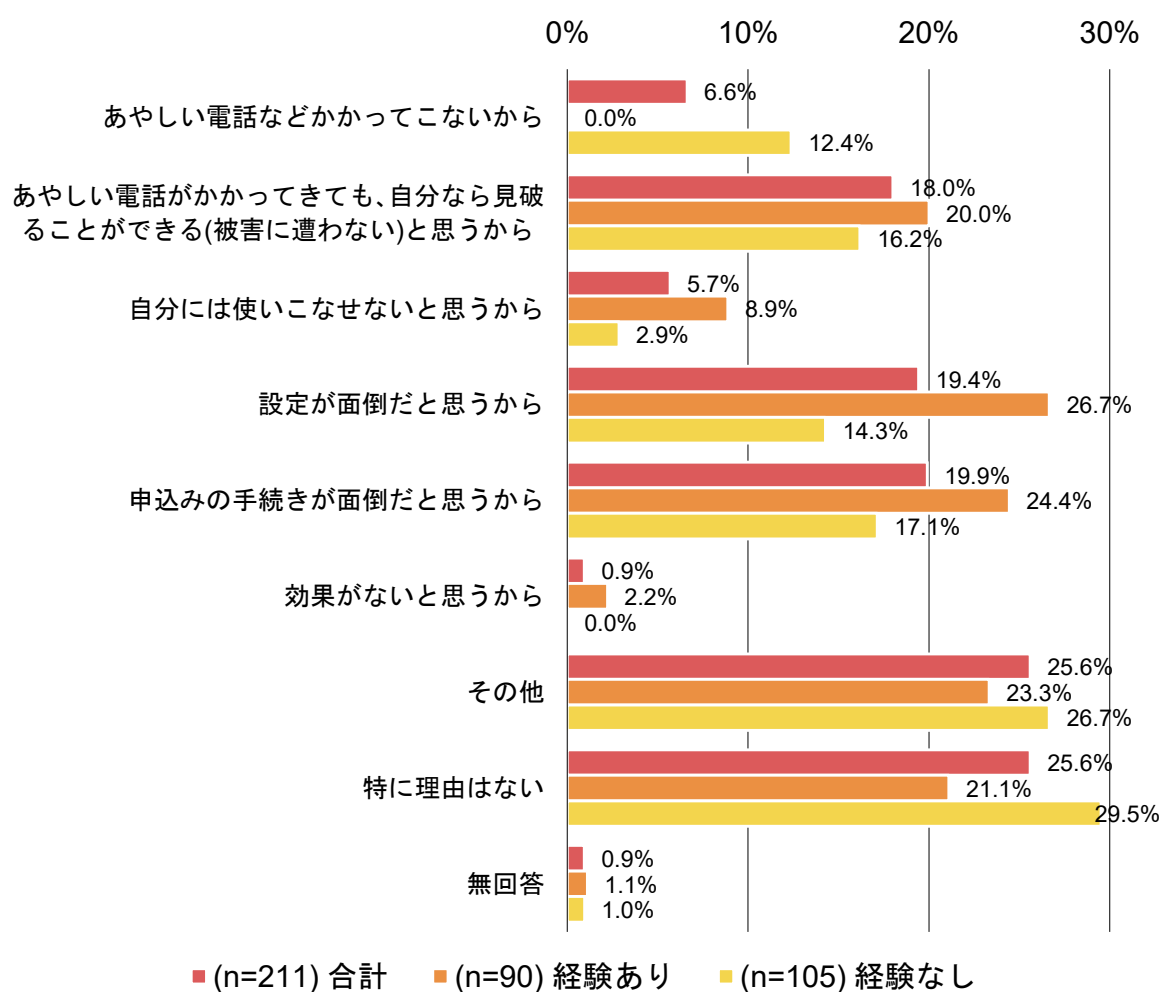


2) 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別に、自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由についてみると、「経験あり」において「経験なし」よりも、「あやしい電話がかかってきても、自分なら見破ることができる(被害に遭わない)と思うから」「自分には使いこなせないと思うから」「設定が面倒だと思うから」「申込みの手続きが面倒だと思うから」とする割合が高い。

図表2-70 【過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験の有無別】

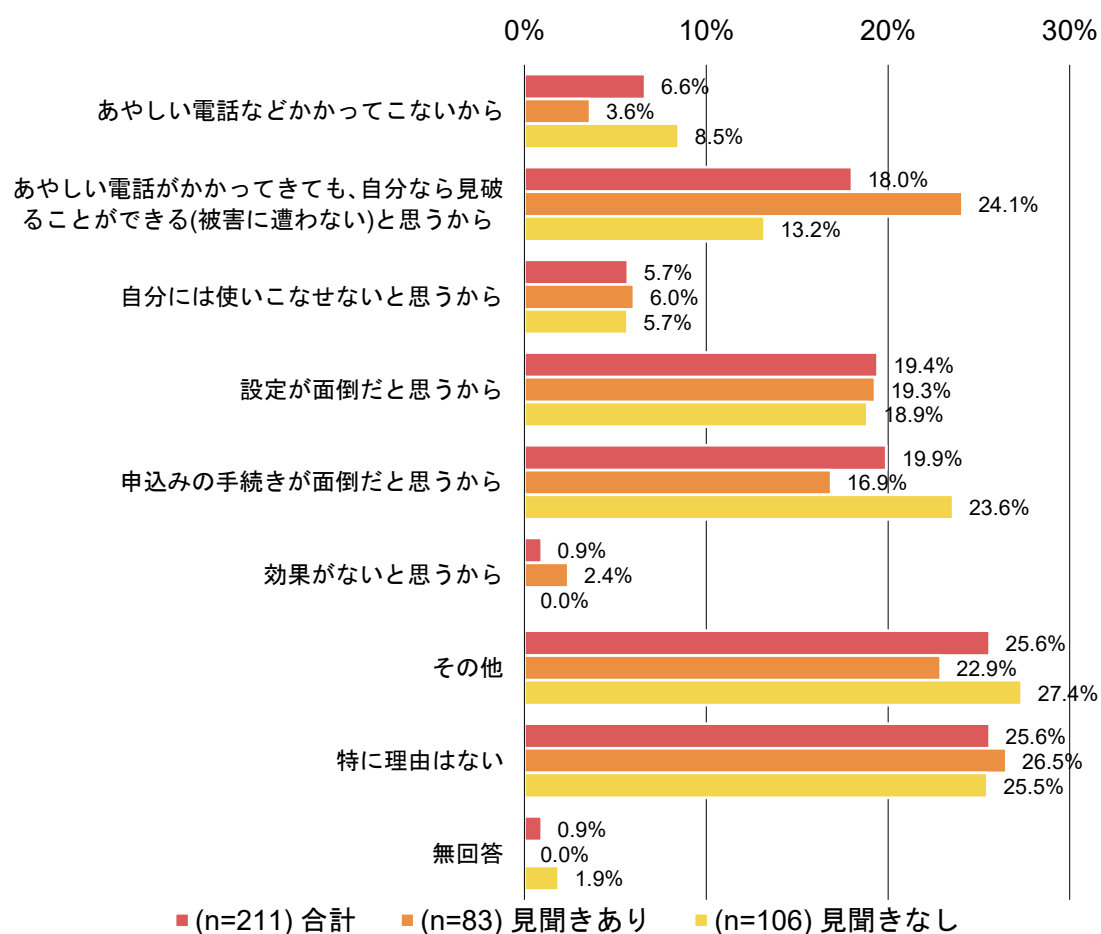
自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由（単一回答）



3) 被害の見聞き別

被害の見聞き別に、自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由についてみると、「見聞きあり」において「見聞きなし」よりも、「あやしい電話がかかってきても、自分なら見破ることができる(被害に遭わない)と思うから」とする割合が高く、「申し込みの手続きが面倒だと思うから」の割合が低い。

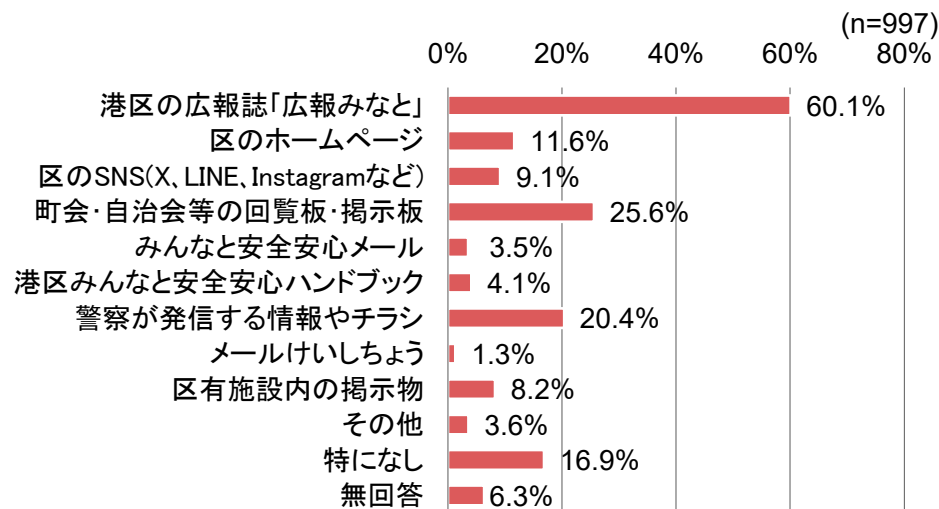
図表2-71 【被害の見聞き別】自動通話録音機の無料貸与を申し込んでいない理由(単一回答)



⑪ 港区の防犯情報を取得している媒体

港区の防犯情報を取得している媒体について、「港区の広報誌『広報みなと』」が 60.1%、「町会・自治会等の回覧板・掲示板」が 25.6%、「警察が発信する情報やチラシ」が 20.4%である。

図表2-72 港区の防犯情報を取得している媒体（単一回答）



⑫ 小括

- ✓ 固定電話所有者のうち、迷惑電話防止機能付き電話があることを知っていた割合は 84.2%だが、利用している割合は 26.1%であった。また、10.2%は迷惑電話防止機能付き電話があることを知らなかった。
- ✓ 固定電話所有者のうち、非通知設定の電話を拒否する機能があることを知っていた割合は 74.3%だが、利用している割合は 20.1%であった。また、20.0%は非通知設定の電話を拒否する機能を知らなかった。
- ✓ 固定電話所有者のうち 88.7%は国際電話を不通にしていない。
- ✓ 知らない番号からの着信については 47.0%が応答しないとした。
- ✓ 固定電話所有者のうち、在宅時・外出時いずれも留守番電話機能を利用している割合は 58.0%、いずれも留守番電話機能を利用していない割合は 28.4%であった。
- ✓ 港区の施策について、特殊詐欺被害防止講習会の参加割合は 2.6%に留まり、71.6%が開催していることを知らなかった。また、自動通話録音機の貸与については固定電話所有者のうち借りている割合は 7.9%に留まり、59.0%は区が無料で貸与していることを知らなかった。
- ✓ 特殊詐欺被害防止講習会を認知しているが、参加したことはない理由について、42.7%は日時の都合を、21.4%は興味がないと選択している。特殊詐欺にかかる電話の経験がある場合及び被害の見聞きがある場合、無い場合と比べ、興味がない、自身に関係がないと選択の割合は低く、知り合いが誰も参加しないからを選択する割合が高い。
- ✓ 区の防犯情報の取得元としては、60.1%が「広報みなと」を選択している。また、特殊詐欺被害防止講習会に参加した方の 34.6%は「広報みなと」がきっかけとなっている。

4. アンケート調査結果のまとめ

特殊詐欺及び特殊詐欺への考え方の実態に関するアンケート調査結果のまとめは次のとおり。
なお、特殊詐欺及び特殊詐欺への考え方の実態と健康状態、日常活動、地域コミュニケーションとの関係については第3章にて述べる。

■過去1年の不審な電話やはがきを受けた割合は3割、そのうち、第三者への相談行動は女性の方が多い

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた経験は約3割（n=286）であり、男女別にみると、自分で看破した割合は女性に比べ男性の方が高く、警察や家族、その他第三者へ相談して看破した割合は男性に比べ女性の方が高い。

第三者へ相談した相手としては、第三者へ相談して看破したと回答した方の半数が同居人（配偶者・パートナー）と回答し、次いで3割が警察であった。

■詐欺の電話やはがきを受けたら対処できると思う割合は約6.5割、年代が低いほど自分で調べようとする

詐欺の電話やはがきを受けたら自分の手に負えないと思う・やや思うを合わせた割合は約3割であるが、うまく対処できると思う・やや思うを合わせた割合は約6.5割である。

年代が低いとその差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う割合が上がる。

■詐欺の電話がかかってきた際の相談相手としては警察、配偶者・パートナーが多い

詐欺電話がかかってきた場合に相談する相手として思い浮かぶ先は、警察が最も多く、次いでほぼ同割合で同居人（配偶者・パートナー）であった。

■特殊詐欺に対する対策の利用促進が課題、特殊詐欺被害予防に向けた施策推進には「広報みなど」の活用による情報発信が有効か

固定電話所有者のうち、迷惑電話防止機能付き電話があることを知っていた割合は約8割だが、利用している割合は全体の約2.5割であり、非通知設定の電話を拒否する機能があることを知っていた割合は約7割だが、利用している割合は全体の2割であるなど、特殊詐欺被害の入り口となる不審な電話への対策が十分に取られていない現状があるといえる。

他方で、知らない番号からの着信については約5割が応答しないとし、在宅時・外出時いずれも留守番電話機能を利用している割合は約6割など、そもそも着信に対する危機意識は一定程度あるものと思われる。

港区の施策について、特殊詐欺被害防止講習会は約7割が開催していることを知らず、自動通話録音機の貸与については固定電話所有者のうち約6割は区が無料で貸与していることを知らなかったとした。区の防犯情報の取得元としては、約6割が「広報みなど」を選択しており、特殊詐欺被害防止講習会に参加した方の約3割は「広報みなど」がきっかけとなっていることから、「広報みなど」を活用しつつ、区の施策や特殊詐欺被害の予防策を促進する必要がある。

第3章 特殊詐欺被害リスク回避行動等の特徴分析

1. 相談行動の促進に向けた分析

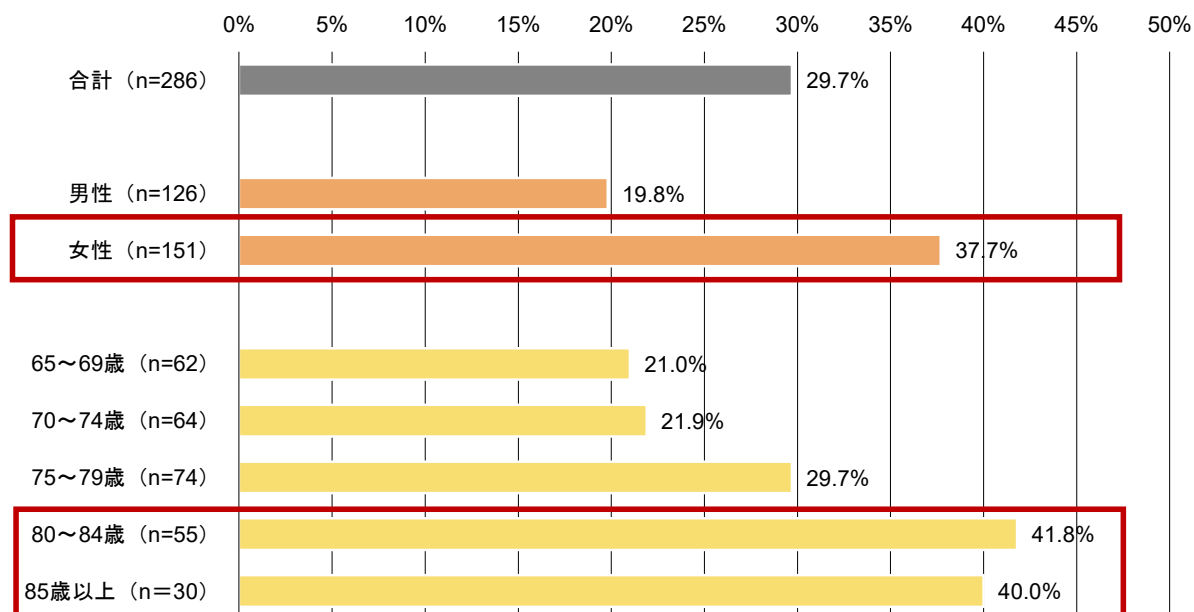
本節では、特殊詐欺被害の未然防止に向けて有効と考えられる他者への相談行動について、他者への相談行動を行う、あるいは行う可能性の高い区民の属性や日常活動等の分析を行う。

(1) 相談行動により被害を回避した回答者の特徴分析

① 全体

過去1年間に不審な電話・はがきを受けた回答者のうち、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」を選択した割合は29.7%であり、性別では女性の方が高く、年代別には80歳以上が80歳未満より高い傾向にある。(詳細：第2章3.(1)②、12頁)

図表 3-1 過去1年間に不審な電話・はがきを受けた回答者のうち、「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」を選択した割合



②「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」回答者の健康状態、日常活動、地域コミュニティ等に関するスコア

「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」の該当者（相談した人）と非該当者（相談していない人）の違いについて、健康状態や日常生活、地域におけるコミュニケーション等との関係を見る。

1) 健康状態

現在の健康状態について「よくない」を1pt、「あまりよくない」を2pt、「ふつう」を3pt、「まあよい」を4pt、「よい」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

相談した人と相談していない人の健康状態のスコアはそれぞれ3.699、3.747でありほとんど差はなく、スコアの差の検定（t検定）を行った結果、差の有意性は認められなかった。

図表 3-2 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の健康状態

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 （相談した人）	非該当者 （相談しなかった人）	差 （該当者－非該当者）	p値※
健康状態	3.699	3.747	-0.048	0.062

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

2) 日常活動

実店舗での買い物や外食、運動、図書館の利用等の日常活動について、「まったくしない」を1pt、「ほとんどしない」を2pt、「月に数回程度」を3pt、「週1回程度」を4pt、「週2、3回程度」を5pt、「ほぼ毎日」を6ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

該当者－非該当者の差が大きいものとしては、「趣味の活動をする」「いきいきプラザの利用」「生涯学習施設の利用」の順に大きく、いずれも該当者の方がスコアは高くなっている。次いで差が大きいのは「運動（散歩など）をする」となっており、該当者、非該当者いずれもスコア自体が高いが、該当者はスコアが低くなっている。

スコアの差の検定（U検定）を行った結果、「生涯学習施設の利用」「ヘルシーナの利用（健康増進センター）」と該当者、非該当者のスコア差にのみ有意性が認められ、該当者の方がスコアは高いため、第三者への相談を行い被害に遭わなかった人は「生涯学習施設の利用」「ヘルシーナの利用（健康増進センター）」を利用頻度が高いといえる。他方、その他の日常活動の状況については差が認められなかった。

生涯学習施設やヘルシーナでは、生涯学習教室や健康教室を開催するなど、様々な地域住民と交流を行う機会が提供されており、そうした機会を通じた第三者との日常的なコミュニケーションが、不審な電話・はがきを受けた際の第三者への相談行動へつながる可能性があるのではないかと考えられる。

図表 3-3 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の
日常生活

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 （相談した人）	非該当者 （相談しなかった人）	差 （該当者－非該当者）	p 値※
実店舗で買い物をする	4.792	4.905	-0.113	0.295
外食をする	3.227	3.318	-0.092	0.512
運動（散歩など）をする	4.560	4.833	-0.273	0.150
趣味の活動をする	4.041	3.674	0.366	0.110
いきいきプラザの利用	2.093	1.743	0.350	0.140
区のスポーツセンター の利用	1.688	1.612	0.076	0.885
ヘルシーナの利用 （健康増進センター）	1.400	1.251	0.149	0.033*
図書館の利用	1.986	1.860	0.126	0.187
生涯学習施設の利用	1.605	1.298	0.308	0.005**
港区内の喫茶店 （カフェ）の利用	1.867	1.972	-0.105	0.89

※マン=ホイットニーのU検定（Mann-Whitney U test）（両側 p 値）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

（参考）

該当者・非該当者を目的変数、日常生活のスコアを説明変数とした二項ロジスティック回帰分析（増減法、投入・除去の閾値 $p=0.2$ ）を実施した結果は次のとおりである。

回帰式の精度を示す決定係数 R2 乗値は 0.0497、誤判別率は 25.94%と回帰式の精度は高くないが、説明変数に着目すると、「運動（散歩など）をする」「趣味の活動をする」「生涯学習施設の利用」の3つが閾値を超える有意な説明変数として回帰式に含まれた。

「運動（散歩など）をする」については相談行動に負の影響をもたらし、「生涯学習施設の利用」は相談行動に正の影響をもたらしている。「趣味の活動をする」については p 値が 0.09 であるため 5%未満での棄却はなされていないが、正の影響をもたらす可能性があることが示唆された。

図表 3-4 二項ロジスティック回帰分析の結果

-2対数尤度	AIC	決定係数 R2乗	Cox-Snell	Nagelkerke	相関係数	誤判別率
267.6663	275.6663	0.0497	0.0569	0.0822	0.2434	25.94%

回帰式に含まれる変数（偏回帰係数・信頼区間等）

変 数	偏回帰係数	標準誤差	標準偏回帰 係数	偏回帰係数の95%信頼区間		オッズ比	オッズ比の95%信頼区間		Wald	自由度	P 値	
				下限値	上限値		下限値	上限値				
運動（散歩など）をする	-0.3179	0.1147	-0.4579	-0.5427	-0.0931	0.7277	0.5812	0.9111	7.6832	1	0.0056**	
趣味の活動をする	0.1824	0.1089	0.2995	-0.0310	0.3957	1.2001	0.9695	1.4855	2.8070	1	0.0939(*)	
生涯学習施設の利用	0.4302	0.1993	0.3083	0.0397	0.8207	1.5376	1.0405	2.2722	4.6617	1	0.0308*	
定数項	-0.7888	0.5313		-1.8301	0.2526	0.4544	0.1604	1.2873	2.2040	1	0.1377	

(*)： $p<0.1$ ，*： $p<0.05$ ，**： $p<0.01$

3) 地域コミュニティへの参加状況

地域コミュニティへの参加状況について、「まったく参加しない」を1pt、「ほとんど参加しない」を2pt、「あまり参加しない」を3pt、「たまに参加する」を4pt、「よく参加する」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

全般的にスコアが低く地域コミュニティへ参加していない傾向にあるものの、該当者－非該当者の差が大きいものとしては、「学習・教養サークル」「町内会・自治会」「老人クラブ」「趣味関係のグループ」の順に大きく、全ての選択肢で該当者の方がスコアは高くなっている。

スコアの差の検定(t検定)を行った結果、「学習・教養サークル」「老人クラブ」に、該当者、非該当者のスコア差に有意性が認められ、該当者の方がスコアは高いため、第三者への相談を行い被害に遭わなかった人は「学習・教養サークル」「老人クラブ」での活動頻度が高いといえる。他方、その他の地域コミュニティへの参加状況については差が認められなかった。なお、「町内会・自治会」についてはp値が0.082であるため5%未満での棄却はなされていないが、差がある傾向も見られた。

学習・教養サークルや老人クラブの活動のみ有意性が認められたことについては、ボランティアやスポーツ、趣味関係の区民主体の任意のグループが多いと思われる活動よりも、行政等が提供する生涯学習サービスを利用し、こうした機会を通じて地域コミュニティへ参加していることが、不審な電話・はがきを受けた際の第三者への相談行動へつながる可能性があるのではないかと考えられる。

図表 3-5 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の
地域コミュニティへの参加状況

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 （相談した人）	非該当者 （相談しなかった人）	差 （該当者－非該当者）	p 値※
ボランティアのグループ	2.081	1.903	0.178	0.380
スポーツ関係のグループやクラブ	2.378	2.207	0.172	0.436
趣味関係のグループ	2.595	2.341	0.254	0.259
学習・教養サークル	2.149	1.775	0.373	0.048*
老人クラブ	1.487	1.218	0.268	0.040*
町内会・自治会	2.321	1.978	0.343	0.082

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）。ただし、「老人クラブ」については標本間の等分散性が1%水準で棄却された（F検定、 $p<0.001$ ）ためWelchのt検定としている。

4) 日常的なコミュニケーションの満足度

日常的なコミュニケーションの満足度について、「不満」を1pt、「やや不満」を2pt、「まあ満足」を3pt、「満足」を4ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

日常的なコミュニケーションの満足度について、その相手によらず該当者と非該当者のスコアの差はほとんどなく、また、スコアの差の検定（t検定）を行った結果においても有意性は認められなかった。

図表 3-6 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の
日常的なコミュニケーションの満足度

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 （相談した人）	非該当者 （相談しなかった人）	差 （該当者－非該当者）	p 値※
配偶者・パートナーとの会話	3.377	3.277	0.100	0.345
自身の子・孫との会話 （電話やメールでの会話を含む）	3.221	3.246	-0.026	0.798
配偶者・パートナー、 自身の子・孫を除くその他の家族との会話 （電話やメールでの会話を含む）	3.060	3.119	-0.059	0.500
友人・知人との直接会 って行う会話	3.182	3.186	-0.004	0.965
友人・知人との電話や メールでの会話	3.260	3.193	0.067	0.485
ケアマネジャーやヘルパーといった、定期的に家を訪れてくる人との会話	3.167	3.167	0.000	1.000

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$, *： $p<0.05$ ）。ただし、「配偶者・パートナーとの会話」については標本間の等分散性が1%水準で棄却された（F検定, $p=0.002$ ）ため Welch の t 検定としている。

5) ご近所づきあい

ご近所づきあいの程度について、道で会えば挨拶する人や立ち話をする人などの条件に合致する人が「6人以上いる」を4pt、「2～5人いる」を3pt、「1人いる」を2pt、「いない」を1ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

ご近所づきあいの程度について、その相手によらず該当者と非該当者のスコアの差はほとんどなく、スコアの差の検定(U検定)を行った結果においても該当者と非該当者のスコアの差に有意性は認められなかった。

他方、有意差は認められなかったことは前提に、その差の符号だけに着目してみると、ご近所づきあいの相手の属性として「道で会えば、挨拶をする人」「立ち話をする人」のように、個々の関係性は強くないが、コミュニケーション対象の領域が広い人の方は正と（相談した人の方が多く）なっており、「家を訪問して付き合う人」「あなたが健康を損なった時に、身の回りの世話や金銭的援助を頼むことができる人」のように、個々の関係性は非常に強いが、より特定の人とのコミュニケーションができている人は負と（相談しなかった人の方が多い）なっている。

図表 3-7 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の
ご近所づきあい

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 (相談した人)	非該当者 (相談しなかった人)	差 (該当者－非該当者)	p 値※
道で会えば、挨拶をする人	3.333	3.330	0.004	0.894
立ち話をする人	2.813	2.791	0.021	0.857
家を訪問して付き合う人	1.734	1.863	-0.128	0.381
あなたが健康を損なった時に、身の回りの世話や金銭的援助を頼むことができる人	1.725	1.832	-0.107	0.423
あなたにお困りごとがあった時に、アドバイスをくれる人	2.210	2.281	-0.071	0.570
あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人	2.400	2.249	0.151	0.233

※マン=ホイットニーのU検定 (Mann-Whitney U test) (両側 p 値) の結果 (**: $p<0.01$, *: $p<0.05$)

6) 地域での孤立感（普段の生活の場面で感じること）

地域での孤立感について、「ほとんどない」を1pt、「たまにある」を2pt、「よくある」を3ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

該当者と非該当者のスコアの差はほとんどなく、スコアの差の検定（t検定）を行った結果においても該当者と非該当者のスコアの差に有意性は認められなかった。

図表 3-8 「警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった」人とそうでない人の
地域での孤立感

スコア（平均値）	警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった			
	該当者 （相談した人）	非該当者 （相談しなかった人）	差 （該当者－非該当者）	p値※
自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか	1.457	1.432	0.024	0.058
疎外されていると感じることがありますか	1.175	1.136	0.039	0.461
他の人から孤立していると感じることがありますか	1.190	1.158	0.032	0.562

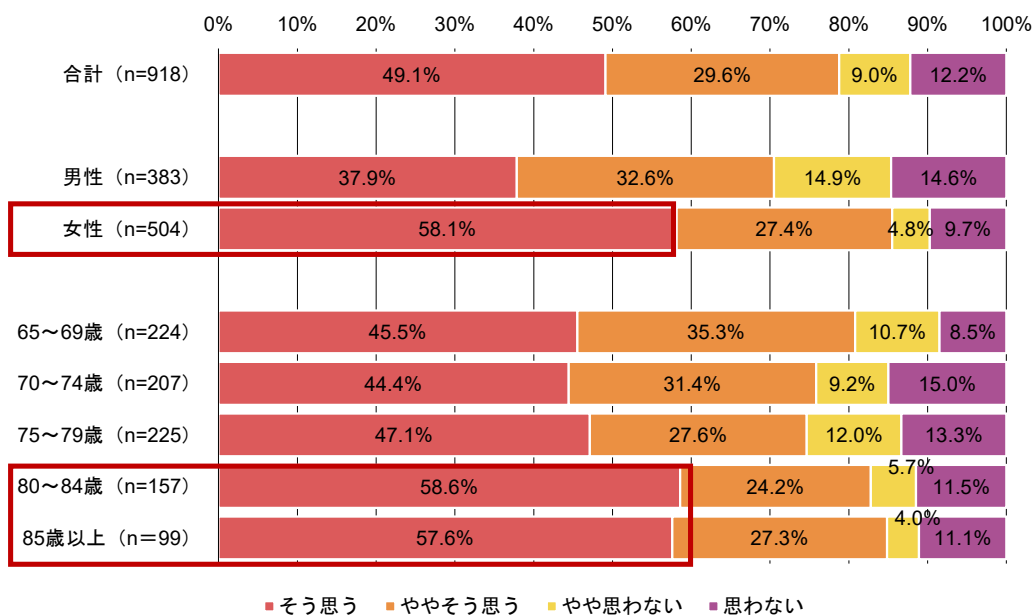
※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

(2) 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う回答者の特徴分析

① 全体

「不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思うか」については、全体で「そう思う」割合が49.1%であり、性別では女性の方が高く、年代別には80歳以上が80歳未満より高い傾向にある。

図表 3-9 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思うか



注：「無回答」を除いて再集計しているため図表2-26（20頁）のn値と一致しない。

② 「不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う」回答者の健康状態、日常活動、地域コミュニティ等に関するスコア

「不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う」について、「思う」「ややそう思う」を合わせて「相談したいと思う」、「やや思わない」「思わない」を合わせて「相談したいと思わない」とし、両者の違いについて、健康状態や日常生活、地域におけるコミュニケーション等との関係を見る。

1) 健康状態

現在の健康状態について「よくない」を1pt、「あまりよくない」を2pt、「ふつう」を3pt、「まあよい」を4pt、「よい」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」のスコアはそれぞれ3.726、3.899であり、健康状態が良い人の方がそう思わない傾向にあり、スコアの差の検定（t 検定）を行った結果、「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」のスコアの差に有意性が認められた。誰かに相談したいと思う人の方が健康状態は悪く、誰かに相談したいと思わない人の方が健康状態はよいといえる。

図表 3-10 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人と思わない人の健康状態

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと思う	相談したいと思わない	差 (思う－思わない)	p 値※
健康状態	3.726	3.899	-0.173	0.048*

※t 検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

2) 日常活動

実店舗での買い物や外食、運動、図書館の利用等の日常活動について、「まったくしない」を1pt、「ほとんどしない」を2pt、「月に数回程度」を3pt、「週1回程度」を4pt、「週2、3回程度」を5pt、「ほぼ毎日」を6ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」のスコアの差が大きいものは「いきいきプラザの利用」「外食をする」「港区内の喫茶店（カフェ）の利用」の順に大きく、「いきいきプラザの利用」「港区内の喫茶店（カフェ）の利用」は相談したいと思う方がスコアは高く、「外食をする」は相談したいと思う方がスコアは低くなっている。

スコアの差の検定（U検定）を行った結果、差に有意性が認められたのは、「相談したいと思う」のスコアが高い日常活動では「いきいきプラザの利用」「区のスポーツセンターの利用」「ヘルシーナの利用（健康増進センター）」「図書館の利用」「生涯学習施設の利用」「港区内の喫茶店（カフェ）の利用」であり、「相談したいと思わない」のスコアが高い日常活動では「外食をする」であった。

こうした結果から、不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人は、区の公共施設の利用頻度が高い人であるといえる。

図表 3-11 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人と思わない人の日常活動

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと思う	相談したいと思わない	差 (思う－思わない)	p 値※
実店舗で買い物をする	4.919	4.875	0.044	0.807
外食をする	3.144	3.464	-0.320	0.011*
運動（散歩など）をする	4.717	4.843	-0.126	0.231
趣味の活動をする	3.605	3.545	0.060	0.686
いきいきプラザの利用	1.873	1.529	0.344	$p<0.001^{**}$
区のスポーツセンターの利用	1.583	1.427	0.156	0.004**
ヘルシーナの利用 (健康増進センター)	1.233	1.104	0.129	$p<0.001^{**}$
図書館の利用	1.951	1.822	0.129	0.038*
生涯学習施設の利用	1.314	1.214	0.100	$p<0.001^{**}$
港区内の喫茶店(カフェ)の利用	2.014	1.756	0.258	$p<0.001^{**}$

※マン=ホイットニーのU検定（Mann-Whitney U test）（両側 p 値）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

3) 地域コミュニティへの参加状況

地域コミュニティへの参加状況について、「まったく参加しない」を1pt、「ほとんど参加しない」を2pt、「あまり参加しない」を3pt、「たまに参加する」を4pt、「よく参加する」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

全般的にスコアが低く地域コミュニティへ参加していない傾向にあるものの、「相談したい」と「相談したいと思わない」の差が大きいものとしては、「ボランティアのグループ」「町内会・自治会」「スポーツ関係のグループやクラブ」の順に大きく、全ての選択肢でそう思うの方がスコアは高くなっている。地域コミュニティ活動へより参加している人ほど相談行動を行うと考えている。

他方、(1)②3) (62 頁)において、不審な電話やはがきが来た際に、実際に相談行動を行って回避した人の回答では、「学習・教養サークル」「町内会・自治会」「老人クラブ」「趣味関係のグループ」の回答が高かった。「町内会・自治会」は誰かに相談したいと思う人のスコアも、実際に相談行動した人のスコアもそうでない場合に比べ高いが、「学習・教養サークル」「老人クラブ」「趣味関係のグループ」の参加は実際に相談行動をした人とそうでない人のスコアの差に比べ、誰かに相談したいと思う人とそうでない人のスコアは差が小さい。

スコアの差の検定(t検定)を行った結果、「ボランティアサークル」「老人クラブ」「町内会・自治会」に、「相談したいと思う」－「相談したいと思わない」のスコア差に有意性が認められた。

これらの結果から、不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人は、「ボランティアサークル」「老人クラブ」「町内会・自治会」での活動頻度が高いといえる。

図表 3-12 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人とと思わない人の地域コミュニティへの参加状況

スコア (平均値)	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと思う	相談したいと思わない	差 (思う－思わない)	p 値※
ボランティアのグループ	1.722	1.445	0.277	0.002**
スポーツ関係のグループ やクラブ	1.991	1.790	0.201	0.103
趣味関係のグループ	2.071	2.070	0.002	0.988
学習・教養サークル	1.703	1.596	0.108	0.295
老人クラブ	1.272	1.154	0.118	0.020*
町内会・自治会	1.856	1.634	0.222	0.042*

※t検定(両側検定)の結果(**: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$)。ただし、「ボランティアのグループ」「老人クラブ」については標本間の等分散性が1%水準で棄却された(F検定, $p < 0.001$)ためWelchのt検定としている。

4) 日常的なコミュニケーションの満足度

日常的なコミュニケーションの満足度について、「不満」を1pt、「やや不満」を2pt、「まあ満足」を3pt、「満足」を4ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

日常的なコミュニケーションの満足度について、その相手によらず「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」の差はほとんどなく、また、スコアの差の検定（t検定）を行った結果においても有意性は認められなかった。

図表 3-13 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人と思わない人の
日常的なコミュニケーションの満足度

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと思う	相談したいと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
配偶者・パートナーとの会話	3.303	3.282	0.021	0.777
自身の子・孫との会話（電話やメールでの会話を含む）	3.229	3.208	0.021	0.766
配偶者・パートナー、自身の子・孫を除くその他の家族との会話（電話やメールでの会話を含む）	3.087	3.109	-0.021	0.732
友人・知人との直接会って行う会話	3.227	3.173	0.054	0.350
友人・知人との電話やメールでの会話	3.250	3.247	0.003	0.967
ケアマネジャーやヘルパーといった、定期的に家を訪れてくる人との会話	3.157	2.947	0.209	0.173

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$, *： $p<0.05$ ）。ただし、「友人・知人との電話やメールでの会話」については標本間の等分散性が1%水準で棄却された（F検定, $p=0.003$ ）ためWelchのt検定としている。

5) ご近所づきあい

ご近所づきあいの程度について、道で会えば挨拶する人や立ち話をする人などの条件に合致する人が「6人以上いる」を4pt、「2～5人いる」を3pt、「1人いる」を2pt、「いない」を1ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

ご近所づきあいの程度について、「あなたにお困りごとがあったときに、アドバイスをくれる人」「あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人」「家を訪問して付き合う人」はその他のご近所づきあいに比べ「相談したいと思う」－「相談したいと思わない」のスコアの差が大きい。

スコアの差の検定（U検定）を行った結果、「あなたにお困りごとがあったときに、アドバイスをくれる人」「あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人」「家を訪問して付き合う人」の「相談したいと思う」－「相談したいと思わない」のスコア差に有意性が認められた。

これらの結果から、不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人は、家を訪問して付き合う、自分自身にアドバイスをくれる、自分の話を親身に聞いてくれるといったように、日常的なコミュニケーションにおける関係性の深いご近所づきあいがなされており、こうした関係値が相談意図に影響を与えている可能性があると考えられる。

図表 3-14 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人と思わない人の
ご近所づきあい

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと 思う	相談したいと 思わない	差 (思う－思わない)	p 値※
道で会えば、挨拶をする人	3.194	3.118	0.076	0.590
立ち話をする人	2.601	2.532	0.069	0.538
家を訪問して付き合う人	1.722	1.574	0.148	0.032*
あなたが健康を損なった時に、 身の回りの世話や金銭的援助 を頼むことができる人	1.715	1.637	0.078	0.174
あなたにお困りごとがあった 時に、アドバイスをくれる人	2.163	1.926	0.237	0.002**
あなたの心配事や悩み事を親 身になって聞いてくれる人	2.162	1.941	0.220	0.004**

※マン=ホイットニーのU検定（Mann-Whitney U test）（両側 p 値）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

6) 地域での孤立感（普段の生活の場面で感じること）

地域での孤立感について、「ほとんどない」を1pt、「たまにある」を2pt、「よくある」を3ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」のスコアの差はほとんどなく、スコアの差の検定（t検定）を行った結果においても「相談したいと思う」と「相談したいと思わない」のスコアの差に有意性は認められなかった。

図表 3-15 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う人と思わない人の
地域での孤立感

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う			
	相談したいと 思う	相談したいと 思わない	差 (思う－思わない)	p値※
自分に仲間付き合いがない と感じることがありますか	1.453	1.463	-0.010	0.850
疎外されていると感じるこ とがありますか	1.139	1.132	0.008	0.805
他の人から孤立していると 感じることがありますか	1.192	1.179	0.013	0.721

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$, *： $p<0.05$ ）

(3) 考察

■相談による回避行動をとった人はそうでない人に比べ、公共施設利用や行政が提供するサークル・クラブ活動を通じて、地域住民と触れ合う機会がある可能性が示唆

実際に不審な電話やはがきが来た際に第三者への相談行動を行って回避した人は、普段から生涯学習施設やヘルシーナ（健康増進センター）といった公共施設利用の頻度が高いことが明らかとなった。こうした施設において、日常的に地域住民とのコミュニケーションを図っていることが、不審な電話やはがきが来た際の第三者への相談行動というリスク回避行動に繋がっている可能性が示唆された。

また、学習・教養サークル、老人クラブなどのコミュニティ活動頻度が高いことも、こうしたリスク回避行動に繋がっている可能性がある。

■相談行動をとると思う人は、普段の公共施設利用やボランティア、町内会・自治会といった地域貢献活動に参加し、普段から地域住民とコミュニケーションを取っている可能性が示唆

不審な電話やはがきが来た場合に第三者に相談しようと思うと回答した人については、区の公共施設利用頻度が高いことが明らかとなった。また、ボランティアのグループや町内会・自治会といった、地域貢献活動頻度が高いことも、第三者への相談行動意図が高い可能性が示唆された。

こうした活動を通じて、公共施設においてより地域住民とのかかわりが多いことや、自分自身が地域貢献活動を通じて地域住民とコミュニケーションをとることが、第三者への相談行動意図を高める可能性がある。

■ご近所づきあいが多いほど、相談したいと思う意図はあるが、実際の相談による回避行動との関係はない可能性が示唆

日常的なコミュニケーションの満足度については、実際の相談行動、相談したいと思う意図との関係はないといえる。

ご近所づきあいについては、「家を訪問して付き合う人」「アドバイスをくれる人」「心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人」が多いほど、不審な電話やはがきが来た際の第三者への相談行動意図が高くなる。一方で、実際に第三者へ相談し被害に遭わなかった人については、ご近所づきあいとの関係性がみられなかった。普段からより深い関係値でコミュニケーションを取る地域住民が多いことは、不審な電話やはがきが来た際の第三者への相談行動意図を高める可能性がある一方で、実際の行動につながるには、他のきっかけも必要である可能性がある。

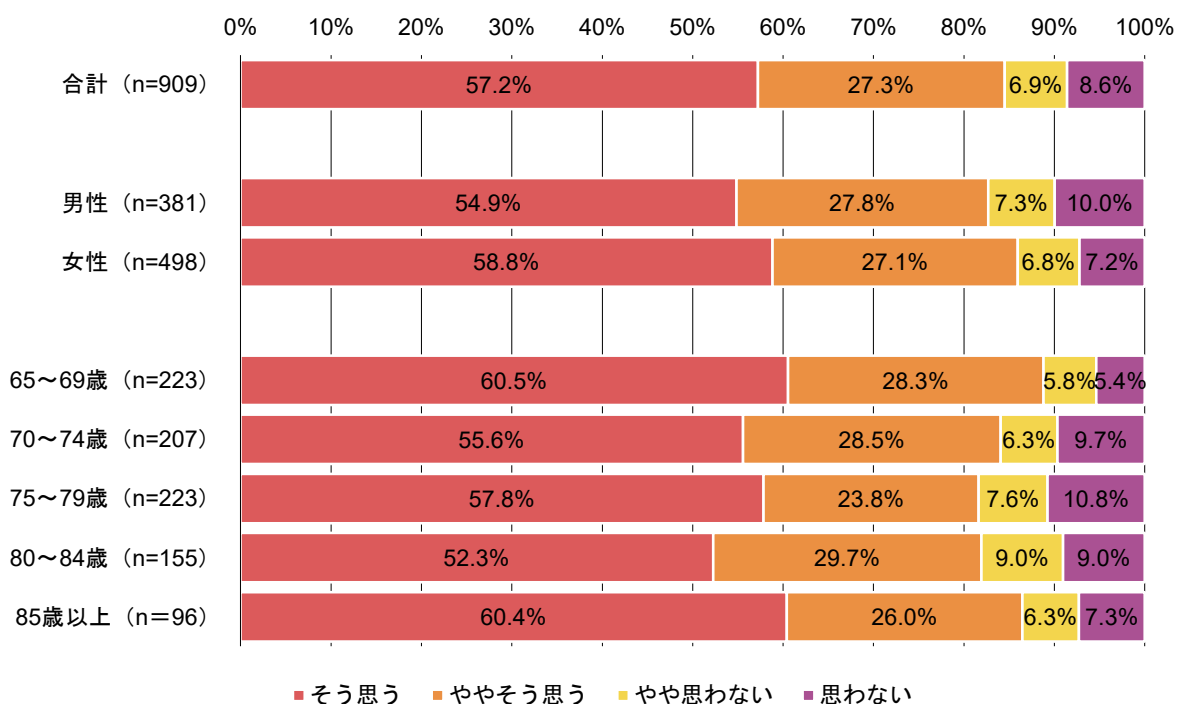
2. 注意喚起行動の促進に向けた分析

本節では、特殊詐欺被害の未然防止に向けて有効と考えられる他者への注意喚起行動について、その担い手となりうる区民の属性や日常活動等の分析を行う。

(1) 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う回答者の特徴分析

① 全体

「不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思うか」については、全体で「そう思う」が57.2%であり、性別、年代別にみても大きな差はない。



② 「不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う」回答者の健康状態、日常生活、地域コミュニティ等に関するスコア

「不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う」について、「思う」「ややそう思う」を合わせて「注意喚起しようと思う」、「やや思わない」「思わない」を合わせて「注意喚起しようと思わない」とし、両者の違いについて、健康状態や日常生活、地域におけるコミュニケーション等との関係を見る。

1) 健康状態

現在の健康状態について「よくない」を1pt、「あまりよくない」を2pt、「ふつう」を3pt、「まあよい」を4pt、「よい」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「注意喚起しようと思う」と「注意喚起しようと思わない」のスコアはそれぞれ3.726、3.899であり、ほとんど差はなく、スコアの差の検定（t検定）を行った結果、差の有意性は認められなかった。

図表 3-16 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の健康状態

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
健康状態	3.752	3.806	-0.054	0.591

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$, *： $p<0.05$ ）

2) 日常活動

実店舗での買い物や外食、運動、図書館の利用等の日常活動について、「まったくしない」を1pt、「ほとんどしない」を2pt、「月に数回程度」を3pt、「週1回程度」を4pt、「週2、3回程度」を5pt、「ほぼ毎日」を6ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「注意喚起しようと思う」と「注意喚起しようと思わない」の差が大きいものは「港区内の喫茶店（カフェ）の利用」「ヘルシーナの利用（健康増進センター）」「いきいきプラザの利用」「生涯学習施設の利用」の順に大きく、いずれもそう思う方がスコアは高い。

スコアの差の検定（U検定）を行った結果、差に有意性が認められたのは、「ヘルシーナの利用（健康増進センター）」「生涯学習施設の利用」「港区内の喫茶店（カフェ）の利用」であった。

こうした結果から、1.（1）②2）（60頁）で述べた通り、生涯学習施設やヘルシーナでは、生涯学習教室や健康教室を開催するなど、様々な地域住民と交流を行う機会が提供されており、そうした機会を通じた第三者との日常的なコミュニケーションが、不審な電話・はがきを受けた際の第三者への注意喚起行動にもつながる可能性があるのではないかと考えられる。

図表 3-17 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の日常活動

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
実店舗で買い物をする	4.899	4.935	-0.036	0.747
外食をする	3.183	3.360	-0.177	0.280
運動（散歩など）をする	4.730	4.775	-0.045	0.435
趣味の活動をする	3.609	3.511	0.098	0.556
いきいきプラザの利用	1.822	1.683	0.139	0.160
区のスポーツセンターの利用	1.552	1.500	0.052	0.214
ヘルシーナの利用 (健康増進センター)	1.232	1.079	0.153	$p<0.001^{**}$
図書館の利用	1.938	1.861	0.077	0.150
生涯学習施設の利用	1.317	1.180	0.137	0.004^{**}
港区内の喫茶店(カフェ)の利用	2.001	1.748	0.253	0.004^{**}

※マン=ホイットニーのU検定（Mann-Whitney U test）（両側p値）の結果（**： $p<0.01$, *： $p<0.05$ ）

3) 地域コミュニティへの参加状況

地域コミュニティへの参加状況について、「まったく参加しない」を1pt、「ほとんど参加しない」を2pt、「あまり参加しない」を3pt、「たまに参加する」を4pt、「よく参加する」を5ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

全般的にスコアが低く地域コミュニティへ参加していない傾向にあるものの、「注意喚起しようと思う」－「注意喚起しようと思わない」の差が大きいものとしては、「町内会・自治会」「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」の順に大きく、「老人クラブ」を除き全ての選択肢で「注意喚起しようと思う」の方がスコアは高くなっている。

スコアの差の検定(t検定)を行った結果、「ボランティアサークル」「学習・教養サークル」「町内会・自治会」に、「注意喚起しようと思う」－「注意喚起しようと思わない」のスコア差に有意性が認められた。

こうした結果から、不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人は、「ボランティアのグループ」や「町内会・自治会」「学習・教養サークル」の活動頻度が高いといえ、たとえばボランティアや町内会・自治会に日常的に参加している人は、地域貢献への意識が高い人が多いとも考えられることから、そうした意識が注意喚起行動意図を高めている可能性もあるのではないかと考えられる。

図表 3-18 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の地域コミュニティへの参加状況

スコア (平均値)	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p 値※
ボランティアのグループ	1.707	1.481	0.226	0.029*
スポーツ関係のグループやクラブ	1.975	1.777	0.198	0.158
趣味関係のグループ	2.106	1.881	0.225	0.109
学習・教養サークル	1.726	1.473	0.253	0.013*
老人クラブ	1.255	1.262	-0.007	0.923
町内会・自治会	1.862	1.542	0.320	0.003**

※t 検定 (両側検定) の結果 (**: $p<0.01$, *: $p<0.05$)。ただし、「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」「町内会・自治会」については標本間の等分散性が1%水準で棄却された (F 検定, $p<0.001$) ため Welch の t 検定としている。

4) 日常的なコミュニケーションの満足度

日常的なコミュニケーションの満足度について、「不満」を1pt、「やや不満」を2pt、「まあ満足」を3pt、「満足」を4ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

日常的なコミュニケーションの満足度について、「注意喚起しようと思う」－「注意喚起しようと思わない」の差が大きい順に、「ケアマネジャーやヘルパーといった、定期的に家を訪れてくる人との会話」「配偶者・パートナー、自身の子・孫を除くその他の家族との会話（電話やメールでの会話を含む）」「自身の子・孫との会話（電話やメールでの会話を含む）」であった。

スコアの差の検定(t検定)を行った結果、差に有意性が認められたのは「配偶者・パートナー、自身の子・孫を除くその他の家族との会話（電話やメールでの会話を含む）」「自身の子・孫との会話（電話やメールでの会話を含む）」であった。

こうした結果から、不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起をしようと思う人は、日常的な「配偶者・パートナー、自身の子・孫を除くその他の家族との会話（電話やメールでの会話を含む）」「自身の子・孫との会話（電話やメールでの会話を含む）」の会話について満足しているといえる。

図表 3-19 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の日常的なコミュニケーションの満足度

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
配偶者・パートナーとの会話	3.294	3.293	0.001	0.990
自身の子・孫との会話（電話やメールでの会話を含む）	3.248	3.063	0.186	0.018*
配偶者・パートナー、自身の子・孫を除くその他の家族との会話（電話やメールでの会話を含む）	3.114	2.916	0.198	0.009**
友人・知人との直接会って行う会話	3.227	3.144	0.083	0.216
友人・知人との電話やメールでの会話	3.251	3.203	0.047	0.470
ケアマネジャーやヘルパーといった、定期的に家を訪れてくる人との会話	3.179	2.913	0.266	0.061

※t検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$ ，*： $p<0.05$ ）

5) ご近所づきあい

ご近所づきあいの程度について、道で会えば挨拶する人や立ち話をする人などの条件に合致する人が「6人以上いる」を4pt、「2～5人いる」を3pt、「1人いる」を2pt、「いない」を1ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

ご近所づきあいの程度について、全ての項目について「注意喚起しようと思う」人の方が「注意喚起しようと思わない」人のスコアよりも高い。

スコアの差の検定(U検定)を行った結果、「道で会えば、挨拶をする人」「あなたが健康を損なった時に、身の回りの世話や金銭的援助を頼むことができる人」以外について、「注意喚起しようと思う」－「注意喚起しようと思わない」のスコア差に有意性が認められた。

これらの結果から、不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起をしようと思うかどうかについて、道で会えば挨拶をする程度であると注意喚起しようと思わないが、立ち話をする、アドバイスをくれるといった、日常的に会話を行うご近所づきあいが多くいる人の方が、注意喚起行動の意図が高いと考えられる。

図表 3-20 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の
ご近所づきあい

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
道で会えば、挨拶をする人	3.201	3.044	0.157	0.098
立ち話をする人	2.618	2.397	0.221	0.025*
家を訪問して付き合う人	1.709	1.562	0.147	0.048*
あなたが健康を損なった時に、身の回りの世話や金銭的援助を頼むことができる人	1.704	1.647	0.056	0.499
あなたにお困りごとがあった時に、アドバイスをくれる人	2.142	1.933	0.209	0.016*
あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人	2.150	1.910	0.240	0.007**

※マン=ホイットニーのU検定 (Mann-Whitney U test) (両側 p値) の結果 (**: $p<0.01$, *: $p<0.05$)

6) 地域での孤立感（普段の生活の場面で感じること）

地域での孤立感について、「ほとんどない」を1pt、「たまにある」を2pt、「よくある」を3ptとした場合の平均スコアは次のとおりである。

「注意喚起しようと思う」と「注意喚起しようと思わない」のスコアの差が大きいのは「自分に仲間付き合いがないと感ずることがある」であり、また、スコアの差の検定（t検定）を行った結果においても「自分に仲間付き合いがないと感ずることがある」において、「注意喚起しようと思う」と「注意喚起しようと思わない」のスコアの差に有意性が認められた。また、差の検定において5%水準で棄却されなかったものの、「疎外されていると感ずることがある」についても、「注意喚起しようと思わない」傾向にある（ $p=0.053$ ）可能性がある。

こうした結果から、不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思わないひとは、普段から、仲間付き合いがないと感じていたり、疎外されていると感じていたりする可能性が示唆された。

図表 3-2 1 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う人と思わない人の地域での孤立感

スコア（平均値）	不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う			
	注意喚起しようと思う	注意喚起しようと思わない	差 (思う－思わない)	p値※
自分に仲間付き合いがないと感ずることがあります	1.426	1.628	-0.202	0.004**
疎外されていると感ずることがあります	1.125	1.206	-0.081	0.053
他の人から孤立していると感ずることがあります	1.179	1.250	-0.071	0.131

※Welchのt検定（両側検定）の結果（**： $p<0.01$,*： $p<0.05$ ）

(2) 考察

■注意喚起行動を行う意図が高い人は、そうでない人に比べヘルシーナ（健康増進センター）、生涯学習施設の利用頻度が高い

ヘルシーナ（健康増進センター）や生涯学習施設では、生涯学習教室や健康教室が開催され、こうした教室を通じて様々な地域住民と交流を行う機会が提供されている。こうした機会に参加し、地域住民との交流を持つことが、注意喚起を行う意図を高めている可能性が考えられる。

■地域貢献への意識が注意喚起行動の促進につながる可能性が示唆

注意喚起行動を行うと回答した割合が高く、その差に有意性が認められたのは、「町内会・自治会」「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」である。「学習・教養サークル」については、上で述べた通り、生涯学習施設の利用頻度との関係があるものと思われるが、「町内会・自治会」「ボランティアのグループ」といった地域貢献については、そもそも地域貢献への意識が高いものと考えられ、こうした心理的背景から注意喚起行動意図も高くなっているのではないかと考えられる。

■注意喚起行動意図には、地域内での会話を伴うご近所づきあいが重要である可能性が示唆

ご近所づきあいについては、本調査の全ての項目で注意喚起しようと「思う」が「そう思わない」を上回ったが、「道で会えば挨拶をする人」の多寡については有意性が認められなかった。注意喚起行動意図を高めるには、挨拶程度のコミュニケーションだけではなく、もう1歩進んだ地域住民とのコミュニケーションが重要であると考えられる。

また、自分に仲間付き合いがないと感じる人は注意喚起行動意図が低いといえることから、地域におけるご近所づきあいが、いかに注意喚起行動の促進に重要であるかが窺える。

参考 アンケート調査票

港区における特殊詐欺に関する実態把握 アンケート調査 ご協力をお願い

区民の皆様

日頃より、港区政全般へのご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

区では、区民の皆様が安全・安心に生活できる環境づくりに向け、ご意見を頂戴しながら、様々な取組を行っているところです。

この度、港区における特殊詐欺被害金額の増加を鑑み、区民の方々への不審な電話の実態や特殊詐欺対策の実態を把握し、今後の区政運営に生かすためアンケート調査を実施することといたしました。本調査は、区内在住で65歳以上の方を対象とし、住民基本台帳から無作為（ランダム）に選ばれた2,500名にアンケート調査の回答をお願いしています。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和6年7月吉日
港区政策創造研究所

<本調査について>

- **調査の結果は、個人が特定される形で公表されることはありません。**
- **調査回答方法は、裏面の「回答方法」をご覧ください（回答は任意です）。**
- 本調査は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社との共同研究により実施しています。
- アンケートの回答は、**令和6年7月29日（月）まで**にお願いします。
※期限後でも回答は可能ですが、集計に反映されない場合がございます。

<お問合せ先>

■本調査の目的や調査全体に関すること

港区政策創造研究所（港区企画経営部企画課内）

担当：大森^{おおもり}・小島^{こじま} 電話：03-3578-2567（受付時間：平日8:30～17:15）

メール：minatoll10@city.minato.tokyo.jp

■各設問内容・回答方法に関すること

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 自治体経営改革室

担当：土方^{ひじかた}・片平^{かたひら} 電話：03-6733-3774（受付時間：平日10:00～17:30）

メール：tokushusagi_chosa@murc.jp

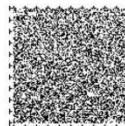
※会議中等、電話に出られない場合がございますのであらかじめご容赦ください。

お電話番号が記録されている方には折り返しご連絡差し上げます。

特殊詐欺やその他生活でお困りの場合には、同封のパンフレット（高齢者相談センター）に記載の各種お問合せ先までご連絡ください。

（裏面もご覧ください）

このマークは、視覚に障害のある人などのための音声コード（Uni-Voice）です。専用の読み上げ装置、スマホ専用アプリなどで読み取ると音声で内容を確認できます。



■回答方法

○紙で回答する場合

同封の調査票に従って、調査票に回答を直接ご記入いただき、回答済みの調査票を同封の返信用封筒に入れ、ポストへ投函してください（記名切手不要）。

○インターネット上（オンライン）で回答する場合

PC、スマートフォン、タブレット等を利用して、以下のどちらか一方からアクセスし、ご回答ください。

- ・右記の二次元バーコードの読み込み
- ・URL (<https://questant.jp/q/080ASS56>) の入力



■回答手順

- ・設問文を読み、それにしたがって、選択肢のうち当てはまると思う番号に「○」又は回答欄に該当する数字をご記入ください。
- ・文章での回答欄は、直接文章を記載してください。
- ・インターネット上で回答する場合には、インターネット上の回答システムの指示に従ってご回答ください。

■留意事項

- ・本調査への回答は任意です。
- ・本調査への回答をもって、以下＜個人情報の取り扱いについて＞記載事項にご同意いただいたことといたします。
- ・特殊詐欺とは「犯人が電話やハガキ（封書）等で親族や公共機関の職員等を名乗って被害者を信じ込ませ、現金やキャッシュカードをだまし取ったり、医療費の還付金が受け取れるなどと言って ATM を操作させ、犯人の口座に送金させる犯罪（現金等を脅し取る恐喝や隙を見てキャッシュカード等をすり替えて盗み取る詐欺盗（窃盗）を含む。）のこと」を言います。（警視庁より）

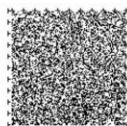
＜個人情報の取り扱いについて＞

港区よりお預かりした個人情報は本アンケート調査の発送のみに利用させていただきます。回答は無記名式で、すべて統計的に処理いたしますので、個々の調査票の回答がほかの人に知られることはございません。

お預かりした個人情報は、港区個人情報の保護に関する法律施行条例並びに三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社「個人情報保護方針」

〈<http://www.murc.jp/corporate/privacy>〉、「個人情報の取り扱いについて」

〈<http://www.murc.jp/privacy/>〉に基づき、適切に処理いたします。なお、個人情報に関するお問い合わせは、前頁の＜お問い合わせ先＞にご連絡ください。



このマークは、視覚に障害のある人などのための音声コード（Uni-Voice）です。専用の読み上げ装置、スマホ専用アプリなどで読み取ると音声で内容を確認できます。

Ⅰ 特殊詐欺や不審な電話等に関してあなたのご経験をお尋ねします。

問1 あなたは過去1年間に、次のような電話やはがきを受けたことはありませんか。当てはまる番号すべてに○をつけてください（いくつでも可）。なお、いずれもない場合は「7. いずれもない」に○をつけてください。

1. あなたのお子さんやお孫さんを装った人からの「電話番号が変わった」「カバンをなくした」などの電話
2. 公的機関を装った人からの「税金や医療費が還付される」などの電話
3. 警察や公的機関、金融機関を装った人からの「キャッシュカードが使われている」などの電話
4. あなたが覚えのない、未払い代金を要求する電話
5. 身に覚えのない訴訟や不動産差し押さえ等の、不安をあおる言葉が書かれたはがき
6. 商品やサービスについての、しつこいセールス電話
7. 上記1～6、いずれもない（⇒問4へ）

問2 問1で○をつけた内容について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。（いくつでも可）

1. 誰にも相談せず、詐欺である・あやしいと自分だけで判断し、被害に遭わなかった。（⇒問4へ）
2. 警察や家族、その他第三者に相談し、被害に遭わなかった。（⇒問3へ）
3. 金融機関の職員やコンビニの店員などの他者から指摘され、被害に遭わなかった。（⇒問4へ）
4. 被害に遭った。（⇒問4へ）

問3 問2で「2.」と回答した方にお伺いします。どなたに通報や相談をしましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。（いくつでも可）

- | | |
|------------------------|-------------------------------|
| 1. 同居人（配偶者・パートナー） | 7. 区役所・総合支所 |
| 2. 同居人（配偶者・パートナーを除く家族） | 8. 民生委員 |
| 3. 同居はしていない家族 | 9. ケアマネジャー |
| 4. 近隣住民や町内・自治会の住民 | 10. 消費者センター |
| 5. 4を除く友人・知人 | 11. 高齢者相談センター
（地域包括支援センター） |
| 6. 警察 | |
| 12. その他（具体的に： | ） |

問4 過去1年間に、あなたの身近な人（家族、友人、知人）が特殊詐欺被害に遭った経験、または、あやしい電話を受けたなどの経験を聞いたことがありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください（いくつでも可）。なお、「1.」～「5.」の身近な人の経験をいずれも聞いたことがない場合には「6. 1～5の人たちの経験は聞いたことはない」に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 配偶者・パートナー | 4. 区内在住の友人・知人 |
| 2. 区内在住の親、きょうだい、子ども | 5. 区外在住の友人・知人 |
| 3. 区外在住の親、きょうだい、子ども | 6. 1～5の人たちの経験は聞いたことはない |

II 特殊詐欺に対するあなたのお考えをお伺いします。

問5 次のア～サについて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。（ア～サそれぞれ1つずつに○）

	そう 思う	やや そう 思う	やや 思わ ない	思 わ ない
ア 詐欺の電話やはがきが来たら、自分の手に負えないと思う	1	2	3	4
イ 詐欺の電話やはがきが来ても、うまく対処できると思う	1	2	3	4
ウ 何か特別な対策をしなくても、詐欺の被害に遭わないと思う	1	2	3	4
エ 不審な電話やはがきが来たら、その差出人についてパソコンやスマートフォンで調べようと思う	1	2	3	4
オ 不審な電話やはがきが来たら、周りの人に注意喚起しようと思う	1	2	3	4
カ 不審な電話やはがきが来たら、警察や行政機関に通報しようと思う	1	2	3	4
キ 不審な電話やはがきが来たら、誰かに相談したいと思う	1	2	3	4
ク 不審な電話やはがきが来たら、誰かに自分の気持ちを理解してもらいたいと思う	1	2	3	4
ケ 不審な電話やはがきが来たら、誰かと一緒にいて安心感を得たいと思う	1	2	3	4
コ 不審な電話やはがきが来ても、そのことについて考えないようにしようと思う	1	2	3	4
サ 不審な電話やはがきが来たら、とにかく無視しようと思う	1	2	3	4

問6 あなたに詐欺電話がかかってきた場合に、相談する相手として思い浮かぶ先すべてに○をつけてください。(いくつでも可)

1. 同居人（配偶者・パートナー）	7. 区役所・総合支所
2. 同居人（配偶者・パートナーを除く家族）	8. 民生委員
3. 同居はしていない家族	9. ケアマネジャー
4. 近隣住民や町内・自治会の住民	10. 消費者センター
5. 4を除く、友人・知人	11. 高齢者相談センター (地域包括支援センター)
6. 警察	
12. その他（具体的に：_____）	
13. 誰にも相談しないと思う	

III あなたの普段の生活についてお伺いします。

問7 あなたの現在の健康状態はいかがですか。最も近いものに○をつけてください。(1つに○)

1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
-------	---------	--------	------------	---------

問8 あなたは次のア～コについて、どの程度の頻度で行っていますか。当てはまる番号に○をつけてください。(ア～コそれぞれ1つずつに○)

	ほぼ毎日	週2、3回程度	週1回程度	月に数回程度	ほとんどしない	まったくしない
ア 実店舗で買い物をする	1	2	3	4	5	6
イ 外食をする	1	2	3	4	5	6
ウ 運動（散歩など）をする	1	2	3	4	5	6
エ 趣味の活動をする	1	2	3	4	5	6
オ いきいきプラザの利用	1	2	3	4	5	6
カ 区のスポーツセンターの利用	1	2	3	4	5	6
キ ヘルシーナの利用 (健康増進センター)	1	2	3	4	5	6
ク 図書館の利用	1	2	3	4	5	6
ケ 生涯学習施設の利用	1	2	3	4	5	6
コ 港区内の喫茶店（カフェ）の利用	1	2	3	4	5	6

問9 あなたは普段、ア～カの地域活動に参加していますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(ア～カそれぞれ1つずつに○)

	よく 参加する	たまに 参加する	あまり 参加しない	ほとんど 参加しない	まったく 参加しない
ア ボランティアのグループ	1	2	3	4	5
イ スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5
ウ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5
エ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5
オ 老人クラブ	1	2	3	4	5
カ 町内会・自治会	1	2	3	4	5

問10 あなたは、次のア～カに該当する方との普段のコミュニケーションについて満足していますか。最も近いものに○をつけてください。(ア～カそれぞれ1つずつに○)

	満足	まあ 満足	やや 不満	不満	該当する 相手なし
ア 配偶者・パートナーとの会話	1	2	3	4	5
イ 自身の子・孫との会話 (電話やメールでの会話を含む)	1	2	3	4	5
ウ 上記ア・イを除くその他の家族との会話 (電話やメールでの会話を含む)	1	2	3	4	5
エ 友人・知人との直接会って行う会話	1	2	3	4	5
オ 友人・知人との電話やメールでの会話	1	2	3	4	5
カ ケアマネジャーやヘルパーといった、定期的 に家を訪れてくる人との会話	1	2	3	4	5

問11 あなたは、普段の生活の様々な場面で、次のア～ウについて、どのように感じていますか。当てはまる番号に○をつけてください。(ア～ウそれぞれに○)

	ほとんどない	たまにある	よくある
ア あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか	1	2	3
イ あなたは、疎外されていると感じることがありますか	1	2	3
ウ あなたは、他の人から孤立していると感じることがありますか	1	2	3

問12 あなたのお住まいの地区の中に、家族や親せきを除いて、ア～カのような方は何人くらいいますか。当てはまる番号に○を付けてください。(ア～カそれぞれに○) (※「地区」とはあなたのお住まいの芝、麻布、赤坂、高輪、芝浦港南のいずれかの地区を指します。)

	いない	1人いる	2～5人 いる	6人以上 いる
ア 道で会えば、挨拶をする人	1	2	3	4
イ 立ち話をする人	1	2	3	4
ウ 家を訪問して付き合う人	1	2	3	4
エ あなたが健康を損なった時に、身の回りの世話や金銭的援助を頼むことができる人	1	2	3	4
オ あなたにお困りごとがあった時に、アドバイスをくれる人	1	2	3	4
カ あなたの心配事や悩み事を親身になって聞いてくれる人	1	2	3	4

IV 特殊詐欺への対策状況についてお伺いします。

問13 固定電話には、着信音が鳴る前に、電話をかけてきた相手に対し、通話を録音するといったメッセージを流し、通話を自動で録音する「迷惑電話を防止する機能付き電話」があります。これを利用していますか。(1つに○)

1. 迷惑電話防止機能付き電話を利用している。
2. 迷惑電話防止機能付き電話があることは知っていたが、利用はしていない。
3. 迷惑電話防止機能付き電話があることを知らなかった。
4. 固定電話を持っていない。

問14 固定電話には、非通知設定の電話を拒否する「ナンバーリクエスト」等の機能があります。これを利用していますか。(1つに○)

1. 非通知設定の電話を拒否する機能を利用している。
2. 非通知設定の電話を拒否する機能があることは知っていたが、利用はしていない。
3. 非通知設定の電話を拒否する機能があることを知らなかった。
4. 固定電話を持っていない。

問15 国際電話を介したあやしい電話が増えています。固定電話では国際電話を使わない場合「国際電話不取扱受付センター」に連絡することで、国際電話を不通にできます。あなたは国際電話を不通にしていますか。
(1つに○)

- | | | |
|------------|-------------|----------------|
| 1. 不通にしている | 2. 不通にしていない | 3. 固定電話を持っていない |
|------------|-------------|----------------|

問16 あなたは普段、知らない電話から着信があった場合に応答しますか。あなたの考えに最も近いもの1つに○をつけてください。(1つに○)

- | | | | |
|---------|---------------------|----------------------|----------|
| 1. 応答する | 2. どちらかといえば
応答する | 3. どちらかといえば
応答しない | 4. 応答しない |
|---------|---------------------|----------------------|----------|

問17 あなたは日常的に固定電話の留守番電話機能を利用していますか。
(1つに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 在宅時・外出時いずれも、留守番電話機能を利用している。 |
| 2. 外出時のみ、留守番電話機能を利用している。 |
| 3. 留守番電話機能を利用していない。 |
| 4. 固定電話を持っていない。 |

問18 港区では特殊詐欺被害防止講習会を開催しています。これに参加したことはありますか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 参加したことがある。(⇒問 19 へ) |
| 2. 開催していることを知っていたが、参加したことはない。(⇒問 20 へ) |
| 3. 開催していることを知らなかった。(⇒問 21 へ) |

問19 問18で「1.」と回答した方にお伺いします。参加のきっかけについて教えてください。(いくつでも可)

- | | |
|---|--------------------|
| 1. 港区の広報誌「広報みなと」で募集していたから。 | 4. 家族に勧められたから。 |
| 2. 区のホームページで募集していたから。 | 5. 警察から勧められたから。 |
| 3. 区のSNS (X(エックス)、LINE (ライン)、Instagram(インスタグラム)など) で見たから。 | 6. 知人・友人から勧められたから。 |
| 9. その他(具体的に：) | 7. 行政職員から勧められたから。 |
| 10. 特になし | 8. 金融機関から勧められたから。 |

問20 問18で「2.」と回答した方にお伺いします。参加していない理由について教えてください。(いくつでも可)

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. 日時の都合が合わないから | 4. 知っている人が誰も参加しないから |
| 2. 会場が遠いから | 5. 自分には関係がないから |
| 3. 興味が無いから | 6. その他(具体的に:) |

問21 港区では、自動通話録音機を無料貸与しています。この制度を利用し、自動通話録音機を借りていますか。(1つに○)

- | |
|---|
| 1. 借りている。(⇒問23へ) |
| 2. 港区が無料で貸与しているのは知ってはいたが、申し込んでいない。(⇒問22へ) |
| 3. 港区が無料で貸与していることを知らなかった。(⇒問23へ) |
| 4. 固定電話を持っていない。(⇒問23へ) |

問22 問21で「2. 知ってはいたが、申し込んでいない」と回答した方にお伺いします。その理由を教えてください。(いくつでも可)

- | |
|---|
| 1. あやしい電話などかかってこないから |
| 2. あやしい電話がかかってきても、自分なら見破ることができる(被害に遭わない)と思うから |
| 3. 自分には使いこなせないと思うから |
| 4. 設定が面倒だと思うから |
| 5. 申込みの手続きが面倒だと思うから |
| 6. 効果がないと思うから |
| 7. その他(具体的に:) |
| 8. 特に理由はない |

問23 港区の防犯情報を、普段、どのような媒体から取得していますか。当てはまるものすべてに○をつけてください。(いくつでも可)

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 港区の広報誌「広報みなと」 | 5. みんなと安全安心メール |
| 2. 区のホームページ | 6. 港区みんなと安全安心ハンドブック |
| 3. 区のSNS(X(エックス)、LINE(ライン)、Instagram(インスタグラム)など) | 7. 警察が発信する情報やチラシ |
| 4. 町会・自治会等の回覧板・掲示板 | 8. メールけいしちょう |
| 10. その他(具体的に:) | 9. 区有施設内の掲示物 |
| 11. 特になし | |

V あなたご自身について伺います。

性別（１つに○）	1. 男性	2. 女性	3. その他	4. 回答したくない					
年代 （１つに○）	1. 65～69 歳	2. 70～74 歳	3. 75～79 歳	4. 80～84 歳	5. 85～89 歳	6. 90 歳以上			
配偶者（１つに○）	1. あり	2. 離別・死別	3. 未婚						
同居人 （すべてに○）	1. なし	2. 配偶者・パートナー	3. 親	4. きょうだい	5. 子ども	6. 孫	7. その他（	）	
別居している家族 （すべてに○）	1. なし	2. 配偶者・パートナー	3. 親	4. きょうだい	5. 子ども	6. 孫			
港区居住歴 （１つに○）	1. 5 年未満	2. 5～9 年	3. 10～14 年	4. 15～19 年	5. 20～24 年	6. 25～29 年	7. 30～34 年	8. 35～39 年	9. 40 年以上
所有している機器 （すべてに○）	1. 固定電話	2. 携帯電話・スマートフォン	3. パソコン	4. タブレット型端末					
住居形態 （１つに○）	1. 戸建て（持ち家）	2. 戸建て（借家）	3. マンション（持ち家）	4. マンション（借家）	5. その他（				）
お住まいの地区 （１つに○）	1. 芝地区	2. 麻布地区	3. 赤坂地区	4. 高輪地区	5. 芝浦港南地区				
お住まいの地区で 加入・参加している 団体など （当てはまるもの すべてに○）	1. 町会・自治会	2. 町会・自治会を除く、地区内の防犯ボランティア団体	3. 町会・自治会を除く、地区内の環境整備をする団体 （公園・道路の清掃や草取り等）	4. 町会・自治会を除く、地区内で趣味の活動を行う団体	5. 町会・自治会を除く、その他の団体 （具体的に：				）
	6. 1～5 には加入していない								

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

高齢者への特殊詐欺被害予防に向けた効果的な施策の分析

共同研究報告書

刊行物発行番号 2024285-5811

編集・発行：港区政策創造研究所（港区企画経営部内）

〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5-25

Phone：03-3578-2111（代表） E-mail: minato110@city.minato.tokyo.jp

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 自治体経営改革室

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5丁目11-2

Phone：03-6733-1001（代表） E-mail: jichitaikeiei@murc.jp